

# SAGA 2024

新しい大会へ。すべての人に、スポーツのチカラを。



JAPAN  
GAMES

第78回 国民スポーツ大会

## セーリング競技会

会 期:2024年9月28日(土)~10月1日(火)

会 場:佐賀県ヨットハーバー



主催

公益財団法人日本スポーツ協会  
文部科学省  
佐賀県  
公益財団法人日本セーリング連盟  
唐津市

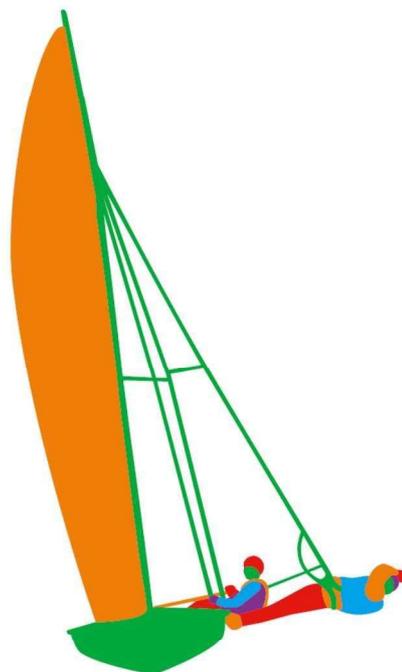
# SAGA 2024

新しい大会へ。すべての人に、スポーツのチカラを。

SAGA2024 から、国体の愛称で親しまれてきた「国民体育大会」が「国民スポーツ大会」へ変わります。大会の名称が変わるはじまりの地に選ばれた佐賀県は、すべての人にスポーツのチカラを届ける新しい大会を目指し、さまざまな取り組みにチャレンジします。

## リアルアスリート・ピクトプロジェクト

新しい「国民」の「スポーツ」大会だから、みんなで作りたい。そんな思いを込めて制作したピクトグラム。すべて実在するアスリートのシルエットが元になっています。



## 国スポ 総合開会式



10/5 (土)

## SAGAスタジアム

佐賀県佐賀市日の出2丁目1-10

## 国スポ 総合閉会式



10/15 (火)

## SAGAアリーナ

佐賀県佐賀市日の出2丁目1-10



(公財)日本スポーツ協会(JSPO)は、「スポーツは、もっとオモシロイ。」を掲げ、スポーツが誰にとってもオモシロくなり、幅広い世代でスポーツが身近にある社会の実現を目指す『JAPAN GAMES』構想を推進。JSPOと佐賀県は、連携・協働してスポーツの新たな価値を創造します。

大会HP詳しくはこちら

SAGA 2024



# 目次

## —あいさつ—

第78回国民体育大会会長 公益財団法人 日本体育協会会長	遠藤 利明	1
文部科学大臣	盛山 正仁	2
公益財団法人 日本セーリング連盟会長	馬場 益弘	3

## —歓迎のことば—

佐賀県知事	山口 祥義	4
唐津市長	峰 達郎	5
佐賀県ヨット連盟理事長	藤原 雄	6

国民スポーツ大会天皇杯・皇后杯授与規程	7
国民スポーツ大会会長トロフィー授与規程	8
大会役員	9
競技会役員	13
競技役員	15
競技補助員	18
競技会補助員・競技会係員・競技運営支援	19
総則	20
セーリング競技実施要項	39
帆走指示書	46
サポートチーム規程	59
計測指示書	64
式典次第	69
セーリング競技の見方	71
都道府県別参加人数一覧表	73
監督・選手一覧表	74
プログラム記載事項訂正届	85
過去の成績（種目別成績・総合成績）	86
会場配置図	92
会場周辺図	94
トラッキングシステム案内	95
レース中継放送案内	96
チャイルドルーム案内	97
エコバッグ作成案内	98
アンチ・ドーピング講習案内	99
アスリートの身体と健康についての講演会	100
大会関係機関連絡先	101
広告	102



## あいさつ

公益財団法人日本スポーツ協会

会長 遠藤 利明

国の特別史跡に指定されている「吉野ヶ里遺跡」をはじめとする重要文化財や、ユネスコ無形文化遺産に登録された「唐津くんち」などの伝統的行事が根付く、ここ佐賀県において第78回国民スポーツ大会が開催されますことは、誠に喜ばしい限りであります。

スポーツを通じた明るく豊かな国づくりを目指して昭和21(1946)年からスタートした国民体育大会は、今日まで多くの関係者のたゆまぬ努力と情熱に支えられ、我が国最大のスポーツの祭典として発展を遂げ、本年から「国民スポーツ大会」へと名称を変え、新たなスタートを切ります。

今大会は、幅広い世代の人々が、スポーツが身近にある生活を体験出来る社会の実現を目指した「JAPAN GAMES」の取組を本格化し、すべての人に「スポーツの力」を届けることができる大会を目指しております。

スポーツを「する」人、「みる」人、「ささえる」人、すべての方々がスポーツのオモシロさを体現し、スポーツで日本を元気にする大会となることを願っております。

さて、国民スポーツ大会を巡っては、今後の在り方に関して様々なご意見が寄せられておりますが、より魅力ある持続可能な大会とするため、幅広い分野の皆様に参加いただいた有識者会議を設置しております。

今後、検討を進めるに当たっては、今回の佐賀大会における「JAPAN GAMES」をはじめとする新たな取組の成果も充分活かしていきたいと考えております。

今大会は、当初から1年遅れての開催となりましたが、佐賀県の関係者の皆様をはじめ、開催を控えていた各県の皆様方のご協力なくしては実現できなかったものであり、改めてお礼申し上げます。

結びに、今大会の開催にあたり、長年諸準備にご尽力いただきました、地元佐賀県をはじめ関係の皆様方のご支援、ご協力に対し心から深く感謝申し上げます。



## あいさつ

文 部 科 学 大 臣  
盛 山 正 仁

天皇皇后両陛下の御臨席を仰ぎ、ここ佐賀県において第78回国民スポーツ大会「SAGA2024国スポ」が盛大に開催されますことを、誠に喜ばしく存じます。佐賀県は玄界灘、有明海という多くの恵みをもたらす2つの海に面し、広大な佐賀平野やラムサール条約湿地に登録された「東よか干潟」「肥前鹿島干潟」等豊かな自然の魅力にあふれ、国の特別史跡である「吉野ヶ里遺跡」や400年以上の歴史を誇る「有田焼」を有する等、歴史と文化が息づく県です。

昭和51年の若楠国体以来48年ぶりの佐賀県での開催となり、「新しい大会へ。すべての人に、スポーツのチカラを。」をメインメッセージに、エンタメ性の高い式典、ナイトゲームの開催、スポーツホスピタリティ等、スポーツの可能性を追求する「新しい」取組に挑戦し、県全域を舞台に熱戦が繰り広げられます。

また、トップアスリートの育成を通じ、県民がスポーツを「する」「育てる」「観る」「支える」「稼ぐ」というスポーツ文化の裾野拡大を目指し、スポーツのチカラを生かした人づくり、地域づくりを進める「SAGAスポーツピラミッド構想」という「新しい」仕組みも広がっています。国民体育大会から国民スポーツ大会への名称変更後初めての開催にふさわしい、今後のモデルケースとなる魅力的ですばらしい取組となっております。

郷土の代表として参加される選手の皆さんが、これまで積み重ねてこられた練習の成果を思う存分発揮され、我が国の国際競技力の向上が図られるとともに、この機会に全国の仲間や佐賀県民の皆さんとの交流の輪を広げられ、思い出に残る大会となりますことを期待しております。

本年はパリオリンピック・パラリンピック競技大会が開催され日本代表選手が大活躍し、国民のスポーツへの関心はますます高まっています。

文部科学省としましても、アスリートや子供たちの活動の機会を確保し、スポーツの持つ力やすばらしさが社会の活力につながるよう関係の皆様と一丸となって取組を進めてまいります。

結びに、「SAGA2024国スポ」の開催に当たり御尽力いただいた地元佐賀県、会場となる各市町をはじめとする関係の皆様の御支援、御協力に対し、心から敬意と感謝の意を表しまして、御挨拶といたします。

令和6年7月29日



## ご挨拶

公益財団法人日本セーリング連盟

会長 馬場 益 弘

第78回国民スポーツ大会「SAGA2024」が数々の名セーラーを輩出し続けている、佐賀県ヨットハーバーで盛大に国民スポーツ大会セーリング競技が開催されることを心からお慶び申し上げます。

大会開催に御尽力いただきました佐賀県、佐賀県教育委員会、佐賀県スポーツ協会、唐津市、海上自衛隊佐世保警備隊、佐賀玄海漁業協同組合、福岡県糸島市漁業協同組合、佐賀県立唐津東高校、佐賀県立唐津西高校、佐賀県立唐津工業高校、NPO法人佐賀県ヨット連盟、SAGA2024 国スポ・障スポ唐津市実行委員会の関係各位に心からお礼申し上げます。

「SAGA2024」大会は、長年親しまれてきた国民体育大会から国民スポーツ大会に名称を変更して開催される最初の非常に重要な大会です。参加選手の皆さんが正々堂々戦い、レースオフィシャルズの方々は公平公正なレースを提供し、セーリング競技の成功を願いサポートしてくださる佐賀県民の皆さまに感謝し、全員で今大会が後世に語り継がれる良い大会になるように作り上げましょう。

皆さんご存知かと思いますが、470級で日本セーリング界初のオリンピックのメダルを獲得した重・木下組は、ここ唐津の海から輩出しています。最近では、470級世界選手権で優勝し、東京2020オリンピック、パリオリンピックに出場された岡田奎樹選手も、高校生の頃は、唐津の海で練習し世界のトップセーラーに育ちました。この挨拶文の寄稿時点ではパリオリンピックは始まっていませんが、本大会では嬉しい報告が出来ることを期待しております。

終わりに、今大会が、「最初の国スポは佐賀県で良かったね」と誰もが笑顔で終わる大会になるよう好天に恵まれ、安全かつ成功裏に進みますことを祈念してご挨拶いたします。



## 歓迎のことば

SAGA2024実行委員会会長

佐賀県知事 山口 祥義

「すべての人に、スポーツのチカラを。」新しい大会へようこそ。

感動する。魂が揺さぶられる。年齢や国境を超えて、人と人がつながる。心身ともに健やかになる。スポーツには、人間の根源的な喜びを生み出すチカラがあります。

こうしたスポーツの真の価値を大切にする佐賀県では、「SAGAスポーツピラミッド（SSP）構想」と銘打ち、アスリートの人生にコミットした人材育成、セカンドキャリア支援やスポーツビジネスの創出を進めて、アスリートが現役時代も引退後も、キャリアを活かして輝き続けることができる社会の実現を目指してきました。

その中で開催する「SAGA2024」は、スポーツ新時代を多くの方に実感できる大会として、日本に世界標準のスポーツ文化が根付く転機となると確信しています。

「SAGA2024」セーリング競技会、いよいよスタートです。

競技の舞台となる“キャッスル・ベイ”唐津湾は、日本三大松原である虹の松原や唐津城を望む美しい舞台であり、今、新たなマリンアクティビティの拠点として注目を集めつつあります。もともと、世界大会も行われてきたセーリングの聖地。青く広い空とは対照的に激しい攻防が観られることでしょう。

「SAGA2024」は”国体”から”国スポ”へと変わる大会です。

競技会では、選手個人にスポットを当てた表彰制度やメダルの授与、ナイトゲームや動画配信により選手の活躍を称え、熱戦をより多くの方に届けます。式典でも新たな演出に取り組みます。総合開会式の自由で楽しさあふれる選手団入場、音と光、映像を最大限に活かした総合閉会式など、大会に関わるすべての人と感動を分かち合います。

選手の皆様には、日々の練習に打ち込んできた情熱と、磨き上げてきた技を、この舞台で披露していただければ、これ以上の喜びはありません。

佐賀県は、「弥生時代の吉野ヶ里遺跡」、「日本文化が花開いた肥前名護屋城」、「明治維新の礎を築いた偉人の輩出」と三回にわたり日本史転換の舞台となりました。これは「挑戦なくして、伝統なし」のマインドがこの地で培われているからだと考えます。有田焼、佐賀牛、佐賀酒といった文化・食材が世界で高い評価を受けていることもその証です。スポーツの世界も例外ではありません。佐賀県は、先人達の積み重ねに想いを馳せながら、新たな挑戦を続けていきます。

スポーツ新時代の幕が上がる、その瞬間を一緒に体感できることを嬉しく思うとともに、開催にあたり、多大な御支援と御協力を賜りました関係者の皆様に心から感謝を申し上げ、歓迎のことばといたします。



## 歓迎のことば

SAGA2024 国スポ・全障スポ唐津市実行委員会会長

唐津市長 峰 達 郎

第 78 回国民スポーツ大会「SAGA2024」セーリング競技が、ここ唐津市において盛大に開催できますことは誠に光栄です。

市民を代表して、全国各地からお越しいただいた選手・監督並びに関係者の皆様を心から歓迎申し上げます。

今年の夏に開催されたパリオリンピックでは、日本代表選手が活躍され、海外大会では最高となる 45 個のメダルを獲得し、日本が大いに盛り上がりました。セーリング競技においても混合 470 級で岡田奎樹選手（唐津西高出身）と吉岡美帆選手ペアが銀メダルを獲得され、ここ唐津も歓喜の声で沸き、1996 年アトランタオリンピックでの重・木下ペアが銀メダルを獲得された当時の情景を思い起こしたところです。

さて、「国体」の愛称で親しまれた「国民体育大会」は、今回の第 78 回大会から「国民スポーツ大会（国スポ）」へと生まれ変わり、佐賀県は新たな「はじまりの地」となります。

ここ唐津市は、約 430 年前に太閤豊臣秀吉が大坂城に次ぐ規模で「肥前名護屋城」を築き、全国から名だたる戦国武将たちが参集し、能や茶の湯を楽しむなど、今につながる文化や交流が生まれた「はじまりの地」として語り継がれています。

歴史や文化が息づくここ唐津市で、群雄割拠しながら全国の都道府県代表選手の皆様が、日ごろの鍛錬とたゆまぬ努力の成果を十分に発揮され、熱い戦いを繰り広げていただき、競技を「する人」「観る人」「支える人」、すべての人にスポーツのチカラが届く、新しい大会となることを期待しています。

本市では、セーリング競技をはじめとする正式競技 6 競技、公開競技 1 競技、デモンストラーションスポーツ 3 競技を行います。

本市を訪れるすべての皆様を、心のこもったおもてなしでお迎えできるよう大会関係者や市民の皆様が一体となり、準備を進めてまいりました。

また、本市は、特別名勝「虹の松原」や特別史跡「肥前名護屋城跡並びに陣跡」、「唐津城」、伝統工芸「唐津焼」、ユネスコ無形文化遺産に登録された「唐津くんちの曳山行事」など、風光明媚なロケーションと多くの歴史や文化を有しています。

あわせて、「呼子のイカ」や「佐賀牛」など新鮮な海の幸、山の幸も豊富に取りそろえておりますので、本大会をとおして唐津市のさまざまな魅力を十分に感じていただき、「自然・歴史・食の宝庫 からつ」を満喫していただければ幸いです。

結びに、本大会の開催にあたり、多大なるご尽力を賜りました関係者の皆様に感謝申し上げますとともに、選手の皆様のご健闘を祈念申し上げ、歓迎のことばといたします。



## さわやかに

特定非営利活動法人佐賀県ヨット連盟

理事長 藤原 雄

皆様、ようこそ SAGA2024 第 78 回国民スポーツ大会セーリング競技会へお越しく  
ださいましたこと、心より感謝申し上げます。

この度、日本全国から集まったセーラーの皆様が、各県の名譽をかけて競い合う  
場として、この唐津市にお迎えできることを誇りに思います。しかしながら、この  
大会は単なる競技の場であるだけでなく、セーリングを通じて選手同士の友情を深  
める重要な機会でもあります。

私たち NPO 法人佐賀県ヨット連盟は、ここ唐津市でこの素晴らしい大会が開催さ  
れることに、大きな喜びを感じています。唐津の海は、私たちの「心の海」として、  
その美しい自然環境を誇りにしています。この海は長い年月を経ても変わらず存在  
し続け、唐津城がその歴史的景観を象徴しています。この海は「七つの顔を持つ」  
と称され、セーリングにおいて様々なシチュエーションを提供してくれます。年間  
を通じて良好な風に恵まれ、初心者から上級者まで、幅広いセーラーが楽しめる理  
想的な環境です。どうか大会を通じて、この唐津の海の魅力を存分に味わってい  
ただければ幸いです。

佐賀県におけるセーリング競技は、1976 年の若楠国体に向けて 51 年前に唐津の  
地で誕生しました。この地からは多くのセーラーが巣立ち、1996 年アトランタオリ  
ンピック女子 470 級で重ノ木下ペアが銀メダルを獲得するなど、数々のオリンピ  
アンを輩出してきました。さらに、今回のパリオリンピック混合 470 級で銀メダルを  
獲得した岡田奎樹君も、我が唐津西高の出身であることは大いなる誇りです。この  
歴史と美しさを誇る海で、全国からの皆様をお迎えできることは、私たちにとって  
大変喜ばしいことであり、心より感謝申し上げます。

皆様が日頃の錬磨の成果を存分に発揮し、さわやかに戦いが繰り広げられること  
を期待しております。

最後に、この大会の開催にあたりご支援、ご協力を賜りました関係者の皆様、そ  
して全国からお集まりいただいた選手の皆様に、改めて深く感謝申し上げます。ど  
うぞ、唐津の海の魅力を存分にお楽しみください。



天皇杯

皇后杯

## 国民スポーツ大会天皇杯・皇后杯授与規程

**第1条** 国民スポーツ大会開催基準要項第11項に基づき、天皇杯は、男女総合成績第1位の都道府県、皇后杯は、女子総合成績第1位の都道府県に授与する。

2 第1位が2都道府県以上の場合は、当該都道府県で共有する。

**第2条** 天皇杯及び皇后杯は、総合閉会式に授与し、次回の総合開会式において返還する。

**第3条** 天皇杯又は皇后杯を授与された都道府県は、次の各項の義務を有する。

- (1) 信託会社又は確実な金庫に保管する。
- (2) 破損、紛失等の場合は、当該都道府県の責任とする。
- (3) 公益財団法人日本スポーツ協会が優勝都道府県名刻印のため又はその他の必要により一時返還を求めた場合は、これに応じなければならない。

**第4条** 本規程の改廃は、国民スポーツ大会委員会の決議を経て行う。

**附 則** 本規程は、昭和41年4月1日制定

昭和45年1月22日一部改定

昭和48年7月10日一部改定

昭和54年5月9日一部改定

平成17年6月16日一部改定

平成22年3月17日一部改定

本規程は、公益財団法人日本体育協会の設立の登記の日(平成23年4月1日)から施行する。

平成30年4月1日一部改訂

令和6年1月1日一部改訂



大会会長トロフィー

## 国民スポーツ大会会長トロフィー授与規程

**第1条** 国民スポーツ大会開催基準要項第11項に基づき、国民スポーツ大会会長トロフィー（以下「大会会長トロフィー」という。）は、正式競技別男女総合成績第1位の都道府県に授与する。

2 第1位が2都道府県以上の場合は、当該都道府県で共有する。

**第2条** 大会会長トロフィーは、競技会表彰式に授与し、次回競技会において返還する。

**第3条** 大会会長トロフィーを授与された都道府県は、次の各項の義務を有する。

(1) 責任をもって保管する。

(2) 破損、紛失等の場合は、当該都道府県の責任とする。

(3) 優勝の刻印を次回大会までに行うものとする。ただし、第1条第2項の場合は、当該都道府県で協議して決めるものとする。

(4) 公益財団法人日本スポーツ協会が必要により一時返還を求めた場合は、これに応じなければならない。

**第4条** 本規程の改廃は、国民スポーツ大会委員会の決議を経て行う。

**附 則** 本規程は、昭和41年4月1日制定

昭和45年1月22日一部改定

昭和48年7月10日一部改定

昭和54年5月9日一部改定

平成17年6月16日一部改定

本規程は、公益財団法人日本体育協会の設立の登記の日（平成23年4月1日）から施行する。

平成30年4月1日一部改定

令和6年1月1日一部改定

# 大会役員

2024年7月31日現在  
(順不同・敬称略)

名誉会長	盛山正仁				
会長	遠藤利明				
副会長	越川均	坂元要	益子直美	森岡裕策	
	室伏広治	山口祥義			
顧問	伊藤雅俊	森善朗	安西孝之	岡崎助一	
	大野敬三	山本浩	岩田史昭	池田めぐみ	
	今井純子	今浦千信	上島しのぶ	鹿島丈博	
	勝田隆	角屋憲正	刈谷好孝	工藤保子	
	國吉富美子	高井志保	高野瑞洋	田畑綾美	
	靈池恵量	東瀬義人	坂東美紀	松井守	
	丸山由美	室伏由佳	山倉紀子	山下泰裕	
	草野満代	藤田裕司	森井じゅん	室城信之	
	金子日出澄	湯川和之	若月等	土橋登志久	
	石丸元国	石川伸男	坂巻義男	鬼頭有紀子	
	長谷川洋子	吉田長寿	齋木尚子	多賀恒雄	
	安藤淳	上治丈太郎	湧永寛仁	上原絵美	
	佐藤健司	馬場美香	山口宏	南和文	
	宮永美寿津	千田健一	中里壮也	岡本友章	
	大野淳	加藤出	田村恒彦	蒔田実	
	山崎勝洋	眞下昇	山口徹正	田中伸周	
	村田利衛	建部彰弘	市野保己	丸石博	
	中村ゆり子	齋藤良太郎	谷田部和彦	木村博美	
	井上弘	今川啓一	近藤重和	池谷正成	
	大澤明美	古城資久	小野賢二	園山和夫	
	中山俊行	衣笠剛	知念かおる	出口弘之	
	田邊哲人	城門政文	前川恵	上杉晃央	
	布村幸彦	茂野直久	生島典明	大沢陽子	
	谷藤節雄	熊谷幸一	千葉玲佳	奥山雅信	
	穂本哲哉	藤田知己	石松英昭	田子昌之	
	久保正美	山崎成夫	塩見清仁	田中不二夫	
	井出仁	今西博一	中村宏平	松本智広	
	森山喜博	南部則雄	福永秀樹	高橋繁浩	

河	口	端	子	增	田	和	伯	中	嶋	実	山	本	誠	三
松	本	恭	幸	船	田	一	彦	奥	田	晃	横	尾	英	治
近	藤	一	幸	小	寺		洋	河	村	祐	渡	邊	浩	三
田	中		稔	馬	越	祐	希	青	木	章	城	戸	英	敏
旗	生	康	之	小	柳	勝	彦	辛	木	秀	宮	成	康	藏
藤	本		格	岩	元	幸	成	平	良	朝	藤	原	正	樹
大河	原	嘉	朗	川	上	隆	弘	佐	藤	廣	奈	良		隆
小	菅		司	宇	津	木	妙	菊		幸	小	林	久	美
寺	澤	正	孝	山	口	純	子	あ	べ	俊	今	枝	宗	一
本	田	顕	子	安	江	伸	夫	藤	原	章	矢	野	和	彦
西	條	正	明	寺	門	成	真	尾	縣		鈴	木	大	地
田	嶋	幸	三	山	西	健	一	坂	田	東	三	須	和	泰
内	田	貞	信	川	合	俊	一	藤	田	直	三	屋	裕	子
富	山	英	明	馬	場	益	弘	砂	岡	良	金	丸	恭	文
橋	本	聖	子	安	道	光	二	河	田	正	千		玄	室
中	村	真	一	三	宅		豊	村	井		松	丸	喜	一
網	代	忠	宏	土	田	雅	人	丸		誠	福	田	達	夫
世	耕	弘	成	笹	川		堯	番	匠	幸	不	老	安	正
久	保	素	子	北	川		薫	岩	城	光	清	野		智
石	井	良	之	加	藤	勝	信	荒	川	裕	柏	木		司
達	増	拓	也	鶴	田	有	司	吉	村	美	北	村	清	士
大	井	川	和	福	田	富	一	遠	藤	祐	大	野	元	裕
熊	谷	俊	人	山	本		博	岡	田	伸	花	角	英	世
新	田	八	朗	馳			浩	杉	本	達	高	野		剛
阿	部	守	一	田	口	義	隆	中	谷	多加	大	村	秀	章
向	井	弘	光	河	本	英	典	西	脇	隆	牧	野	明	次
齋	藤	元	彦	池	田	誠	也	岸	本	周	林		昭	男
丸	山	達	也	越	宗	孝	昌	苧	田	知	村	岡	嗣	政
柿	内	慎	市	楨	田		實	大	塚	岩	服	部	誠	太
大	石	賢	吾	甲	斐	隆	博	麻	生	益	春	山	豪	志
塩	田	康	一	玉	城	ヱ	ニ	原	口	一	岩	田	和	親
大	串	博	志	古	川		康	福	岡	資	山	下	雄	平
大	場	芳	博	甲	斐	直	美	奥	田	律	井	上	伸	一
江	里	口	秀	次	田	島	健	一	山	口	弘			展

参	与	橋 場 健	大 杉 住 子	西久保 弘 克	留 守 茂 幸
		武 藤 明 美	木 原 奉 文	徳 光 清 孝	藤 崎 輝 樹
		江 口 善 紀	古 賀 陽 三	中 本 正 一	一ノ瀬 裕 子
		青 木 一 功	木 村 雄 一	富 田 幸 樹	田 中 秀 和
		桃 崎 祐 介	酒 井 幸 盛	指 山 清 範	中 村 圭 一
		下 田 寛	野 田 勝 人	岡 口 重 文	弘 川 貴 紀
		猪 村 利 恵子	石 丸 太 郎	土 井 敏 行	坂 口 祐 樹
		藤 木 卓 一 郎	池 田 正 恭	石 井 秀 夫	八 谷 克 幸
		古 川 裕 紀	宮 原 真 一	古 賀 和 浩	原 田 寿 雄
		石 倉 秀 郷	定 松 一 生	落 合 裕 二	南 里 隆
		牟 田 清 敬	加 藤 雅 世 子	飯 盛 清 彦	飯 盛 裕 介
		荒 木 薫	長 村 順 也	愛 野 時 興	岩 瀬 豊 美
		末 次 康 裕	陣 内 芳 博	野 田 亮	吉 松 幸 宏
		深 草 光 明	竹 田 敬 道	廣 重 昭 博	吉 田 聖
		中 村 直 人	峰 英 太 郎	園 田 耕 太 郎	大 島 信 之
		西久保 敏	川 寄 和 正	志 田 正 典	南 里 玲 子
		平 川 幸 雄	松 田 孝	大 竹 義 治	牛 島 英 人
		谷 政 司	吉 田 彰 友	山 口 七 重	内 田 伸 也
		秀 島 寛	小 松 政		
委 員 長		山 本 浩			
副 委 員 長		岩 田 史 昭	日 比 謙 一 郎	宮 原 耕 史	
総 務 委 員		川 原 貴	菅 原 哲 朗	ヨーコ セッターランド	二 宮 智 浩
		加 藤 光 国	松 田 基 子	松 永 敬 子	三 ヶ 田 礼 一
		森 丘 保 典	守 屋 志 保	辻 睦 弘	廣 田 暢 実
		宮 野 欣 也	樋 口 和 彦	出 崎 和 夫	宇 野 武
		野 口 友 里	加 藤 弘 和	小 澤 大 樹	塚 原 弘 幸
		森 岡 貴 之			

委	員	平野了	高橋聖一	吉村政弘	松本康夫
		能村卓	栗原崇	細野光史	小泉芳孝
		佐久間裕司	品田奥義	濱野勉	寺澤淳
		黒川重男	舟喜信生	高野修	中梶秀則
		安藤正美	加藤憲二	宮川良輔	鈴木章広
		川口巖	和田潔	岡泉茂	田口大祐
		平井宏治	岸川剛之	西原斗司男	菅原正幸
		高橋昇	長南哲生	衛藤敬輔	渡辺久雄
		三井千壽	鈴木信吾	山中博史	井本亘
		関根明子	中山二三男	越前浩司	吉田由美子
		杉本好二	東野真理子	田中徹	川口雅三
		金子和裕	品治恵子	富澤佑也	小竹純太
		政岡航大	小河原百映	田口雅紀	吉丸尚宏
		宇田俊太郎	西口卓司	鈴木宏幸	宮村元忠
		高階匡平	松井直樹	坂本雄大	鈴木清
		見田茂樹	大泉定幸	金丸利博	高橋直史
		山形信之	神久直巳	高野正規	岩埜直史
		小林雄一	深谷祐紀	矢島裕久	金田貴人
		新保暢	江野浩一郎	児玉晶香	井澤克行
		近本彰	大村文孝	松井直樹	藤田隆司
		西島義典	井上哲	木原哲也	高橋健二
		宮崎聖	田伏利久	田中将	渡部浩二
		山本浩之	田口新也	伊藤啓一郎	青木秀夫
		渡邊浩司	辻岡英幸	三谷哲生	中野一成
		松山度良	濱本昌宏	佐保宏二	横山美和
		徳田清信	宮城直人	遠藤信哉	千葉雅也
		菅間裕晃	庄司忠男	細貝和司	竹内延和
		北野善樹	北村正博	武田知己	木平芳定
		今井良広	山崎嘉彦	田部長右衛門	住吉徳彦
		荒木健治	西村浩二	渡嘉敷通之	綾部吉也
		木塚俊博	北村志帆	瀬戸要	川原恵
		田久保真美	遠藤彰		

# 競技会役員

(順不同、敬称略)

※=兼務

【名誉会長】 峰 達 郎

【会 長】 馬 場 益 弘

【副会長】 中村 隆夫 富田 三和子 船澤 泰隆 土肥 美智子 岩本 真二  
藤原 雄※ 伊藤 浩

【顧問】 植 松 眞 中川 千鶴子 桑原 啓三 中澤 信夫 福田 さとし  
菊池 浩太郎 長塚 奉司 石川 光次郎 佐藤 利秋 齋藤 和久  
高橋 哲司 安藤 真理子 船田 元 須藤 昭男 進藤 義孝  
前田 彰一 石原 伸晃 末木 創造 堀内 光一郎 小保 祥一  
横山 眞 八嶋 浩久 大西 治夫 高間 正信 加藤 敏純  
小栗 一朗 岸田 慶仁 森 正弘 神野 佳樹 岡田 栄三  
中西 克誠 森田 豊三 堀井 康弘 中井 國雄 安田 由毅  
大西 和彦 竹内 宣昭 安永 裕司 河野 亨 中 博史  
石井 良直 黒川 重男 谷田 豊明 秋山 雄治 藤原 雄※  
福田 豊 西山 宗孝 岩屋 毅 橋口 昭彦 そのだ 修光  
有銘 兼一 笹山 茂成 栗山 宣康※

【参 与】 大谷 たかを 小山 泰彦 坂谷 定生 森田 豊三 川添 雄彦  
水上 勝義 宮原 辰海 久保 美樹 大宮路美奈子 岡部 高広  
伊藤 一之 原 雄一郎 古藤 宏治 江里 孝男 青木 茂  
中村 健一 山下 壽次 伊藤 泰彦 黒木 初 浦田 関夫  
吉村 慎一郎 大西 康之 石崎 俊治 進藤 健介 熊本 大成  
檜崎 三千夫 宮本 悦子 中川 幸次 白水 敬一 宮崎 美和  
篠原 智文 石山 貴子 佐伯 玄一郎 脇山 秀明 脇山 行人  
藤田 千穂 草野 陽 青山 泰三 西山 将夫 江頭 雅彦  
中村 勝 田中 寿幸 木下 恵介 八島 大三 岩熊 真一  
岩崎 俊 宅井 宏文 中山 誠 林山 弘美 峰 達郎※  
井上 洋一郎 久保田 俊史 栗原 宣康※ 鶴 登 藤原 雄※  
石井 秀夫 祖岩 亨道 川添 豊 宮島 治 今泉 守正  
廣重 昭博 永田 泰志 木原 啓介 丹野 到 岡本 隆  
渡邊 義浩 宮島 清一 富永 祐司 坂本 金満 服巻 信也

吉田 善道	山崎 一夫	坂本 直樹	愛野 時興	阿部 俊浩
奥村 豊	小野 史朗	坂口 和広	保利 守男	井上 宏※
古川 康	山下 雄平	大場 芳博	田中 秀和	富田 幸樹
桃崎 祐介				

【委員長】 安藤 敦

【副委員長】 井上 宏※

【委員】	望月 宣武	中村 和哉	萩原 ゆき	宮野 幹弘	古屋 勇人
	尾形 依子	地川 浩二	長田 美香子	鈴木 祥子	濱野 文
	鷹野 淳子	秋田 正紀	石川 彰	伊藤 亮一	井上 貴支
	川戸 仁	岩瀬 喜貞	村田 光宏	側田 晴楽	西尾 隆
	平岡 志帆	大槻 映幸	五十川 浩司	田中 葉子	吉田 愛
	佐藤 公俊	上野 保	紙谷 雅子	鈴木 保夫	稲葉 伸理
	中山 英弘	梅田 美保	保利 正孝	中島 昌英	山口 徳広
	増本 哲也	吉田 侑司	嶺川 政行	宮崎 祥士朗	鬼塚 弥那美
	増本 さやか	脇山 淳一	重 陽 一	鈴木 純子	近藤 敬介
	佐々木 優実	中江 章	福岡 修	廣嶋 幸喜	

# 競 技 役 員

令和6年9月10日現在

(順不同・敬称略)

※印は兼務

## 【競技委員会】

委員長 黒川 重男  
副委員長 長塚 奉司 藤原 雄

## 【レース委員会】

プリンシパル・レースオフィサー

京黒 太郎

デピュティ・プリンシパルレースオフィサー

松本 遥香

委員 根津 久一郎※ 坂口 陽平※ 土岡 正治※ 古宮 裕介※ 井上 宏※

## 【レース委員会事務局】

事務局長 井上 宏※

事務局次長 根津 久一郎※ 山本 伸善※

事務局員 濱野 文 高谷 智 外尾 竜一 平島 昇 山元 麻理  
柴樂 洋光 橋元 郷 齊藤 瑞紀 上原 ゆいか 田窪 りん  
高見 優羽 島田 治弥 鈴木 純子 中森 一彰※ 渡邊 晃平  
檜崎 由紀子 青木 佳織 押久保 早恵 西岡 聡子 麻生 綾  
坂本 幸子

## 【プロテスト委員会】

委員長 藤井 裕文

副委員長 増田 開

委員 岡嶋 佳治 前園 昇 本多 哲也 山本 正樹 間下 正司  
加藤 圭二 谷田 豊明 林 健太 田中 正昭 中村 孝宏  
渡邊 範夫 岡部 幸司 高木 紀寿 高野 由美子 富松 潔  
古賀 誠次 米 良 格 真崎 邦彦

## 【プロテスト委員会事務局】

事務局長 吉本 昌弘

事務局次長 中島 昌英

事務局員 原田 二千夏 江波 維求 原田 宇彩 松宮 哲夫 吉原 あゆみ

【総務・報道部】

部長	嬉野 雅也					
副部長	中里 英一					
部員	佐藤 麻衣子	西宮 敬宏	松澤 憲秀	坂口 英章	川合 徹	
	馬場 秀夫	深堀 ユリエ アリーシア	濱口 和孝	谷河 一郎	竹内 りか	
	小塚 美穂	櫻井 秀樹	岩永 和子	神田 裕子	野中 まり子	
	山口 朋美	今泉 和恵	浦丸 智美	江藤 美希	太田 仁美	
	金子 正和	金子 祥子	川添 智美	久保 田 聡	黒田 量子	
	古賀 康弘	古賀 理絵	坂田 朱未	坂田 勝哉	坂本 みどり	
	佐伯 祐二	辻 清美	堤 泰子	手塚 真由美	中川 千映	
	西田 由紀	西分 直美	仁部 順子	福郷 幸子	福島 利加	
	増本 智美	米倉 真美	長田 美香子	古賀 恵智子	野元 聡美	
	梅田 美保	川口 美和	桑原 稔美	高崎 日登美	寺田 由香里	
	宮口 智美	森下 千恵	山口 好恵	栗原 茂勝	澤地 由介	
	三羽 まり子	南部 俊朗	三浦 多満枝	森田 光一	永井 真美	
	宮田 毅志	竹岡 正登	大津 雅隆	宮田 晃三	川副 陽子※	

【記録部】

部長	前田 修之				
副部長	古宮 裕介※				
部員	深瀬 宗久	岩瀬 広志	井上 兼一	松本 雄一郎	岡 高 昭※
	佐藤 啓明	金子 征史			

【テクニカル委員会】

委員長	宇田川 真帆				
副委員長	中村 和哉				
事務局長	宮崎 祥士朗※				
事務局次長	山本 明※				
事務局員	岸田 峰雄	三 森 淳	松尾 博文		
委員	東島 和幸	黒川 健一郎	西村 博行	小久保 伸一	櫻井 真也
	徳丸 元彦	石崎 五一郎	久寶 垂弥	岩田 俊彦	松崎 飛鳥
	坂本 帆嵩	山本 敏雄※	中森 一彰※	重 陽 一※	吉田 侑司※
	田中 裕美※	宮崎 貞克※	佐藤 誠※	岡 高 昭※	池田 龍平※
	小山 拳旺	平片 心花※	渡邊 結来※	竹本 怜史※	

【競艇部】

部長	宮崎 祥士朗※				
副部長	山本 明※				
部員	山本 悟	白石 潤一郎	小林 正季	巽 美 則	勝木 海斗
	小林 隆	市倉 隆裕			

【運行・通信部】

部長	嶺川 政行				
副部長	佐々木 優実				
部員	重信 隆彰	佐々木 輝秀	坂田 輝人	川副 康博	岸川 敬
	松元 節子	宮崎 辰喜	山本 敏雄※	滑川 博信	平川 誠
	宮崎 正人	藤吉 陽一	堀川 正志	水谷 健治	宮原 一希

【発着水路部（A）】

コース・レースオフィサー

中山 英弘

コース・レップ

坂口 陽平※

部員

野元 健一郎	宮野 美恵子	神木 由紀美	宮崎 公邦	西岡 昌章
市橋 隆司	田中 努	増本 慎司	西村 真洋	増本 哲也
好多 英次	坂元 明広	宮崎 貞克※	坂本 大成	近藤 敬介
太田 晶久	宮崎 太一	田中 秀洋	福田 慎之介	森下 勇示
平野 央	弘中 健史	崎山 耕喜	岡村 勝美	坂口 智耶※
兼平 祐斗	鈴木 克宗	甲斐 孝光	入口 朋昌	竹本 怜史※
平片 心花※	小村 聡	江村 知紘	山口 珠里	瀬戸 正人
市橋 栄理	後藤 さつき	石本 恭子	大河内 啓子	

【発着水路部（B）】

コース・レースオフィサー

稲葉 伸理

コース・レップ

土岡 正治※

部員

伊地知 俊昭	藤井 弥那美	橋本 和	渡邊 結来※	古賀 俊介
川副 陽子※	堤 晋一	酒井 裕介	榊原 和久	原田 隆
山口 徳広	内山 貴宣	上妻 明弘	平田 竜紀	奥田 耕大
江川 雅也	渡辺 真吾	青山 貴志	神 真也	桑野 安史
田川 昭信	大串 学	田中 裕美※	山崎 清香	小早川 昌雄
関根 孝大	重 陽一※	辻 浩行	吉田 侑司※	

【海上安全部】

部長

川口 雅喜

副部長

松尾 正幸

部員

岩永 和昭	肥田木 貴大	保利 正孝	長野 洋三	久松 幸志
伊東 俊輔	池田 龍平※	野島 颯真	小山 拳旺※	秀嶋 琳太郎
宇多村 祐輝	阿波連 本周	佐藤 誠※	増本 優太	平井 嶺太郎
藤原 直人	永目 航	辻 宗範	蓮尾 恵慶	田中 克治
木下 晋丞	渡辺 琉夢	中川 望夢	吉永 啓次郎	川脇 義美
高森 邦彦	出口 学	永井 真司	中川 陽介	林田 一幸
仁戸田 匡史	田中 孝宜	山中 洋平	木下 博登	青谷 弘司
川崎 卓	酒井 竜矢	山崎 覚志	椎葉 輝	片岡 竜馬
野崎 隆夫	野崎 洋一	野崎 保久	坂本 智彦	坂本 奈緒子
坂本 まき子	野崎 隆夫	水田 実	小野尾富士男	佐々木 照美
吉田 藤吉	山口 文雄	吉田 典功	吉田 光治	高尾 龍二
坂本 安則	坂口 修一	坂口 登	坂本 春也	荒巻 信弘
栗原 嘉紀				

# 競技補助員

(順不同・敬称略)

## 【唐津東高等学校】

西分 航太	小塚 幹太	武藤 穂乃果	市丸 まりん	古川 まみこ
江藤 直柔	加藤 良悠	出 優希奈	上田 あかり	竹野 慧
能美 多聞	坂井 清太郎	川 口 花		

## 【唐津西高等学校】

太田 尊士	堤 彩乃	益田 鈴那	向 美沙希	浦田 ことね
佐伯 柊	田中 美桜	増本 心海	松岡 祐希菜	堀田 玲奈
古館 博人	後藤 紗絢	中村 有李	小出 祐実	溝口 純香
米倉 烈	田中 瑚々夏	藤本 美尋	古賀 美羽	宮田 真湖
金子 琉和	田中 玖実	古川 紗希	竹本 さくら	久保 あいな
宮口 釉美	中島 日菜	浦野 蘭々	池田 咲綾	辻 望来
徳永 和葉	宮口 雅琵	多田 琴音	大石 結愛	

## 【唐津工業高等学校】

中山 桜雅	坂本 壘	今村 昊矢	岡口 昂瑛	吉村 颯真
吉野 照太郎	洲崎 銀次	熊本 流河	坂田 陽人	樋口 昂人
辻 こうめ	住吉 惺太	豊福 琉衣	竹内 煌翔	古川 倅基
磯寄 悠佑	前川 博飛	原田 和空	富田 龍誠	若林 零月
手塚 一真	筒井 純平	平野 遥希	西 琳登	栗原 翔太
福島 利輝	山口 颯陽	脇山 慶二郎	岩野 真裕	浦田 丈一郎
脇山 辰昇				

# 競技会補助員・競技会係員・競技運営支援

(順不同、敬称略)

## 【競技会補助員】

唐津市ボランティア一同

## 【競技会係員】

唐津市実施本部職員一同

## 【競技運営支援】

海上自衛隊佐世保警備隊

佐賀玄海漁業協同組合唐津市統括支所

佐賀玄海漁業協同組合浜崎支所

糸島漁業協同組合（福岡県）

唐津海上保安部

## 【競技会場運営支援】

佐賀県ヨットハーバー

唐津市スポーツ協会

## 【おふるまい御協力団体】

唐津玄海地区水産物消費拡大協議会

J Aからつ女性部

## 【会場装飾協力団体】

城内シオン保育園

唐津カトリック幼稚園

昭和幼稚園・なかよし保育園



# 総 則

## 開催の趣旨

国民スポーツ大会は、広く国民の間にスポーツを普及し、スポーツ精神を高揚して国民の健康増進と体力の向上を図り、併せて地方スポーツの推進と地方文化の発展に寄与するとともに、国民生活を明るく豊かにしようとする国内最大のスポーツの祭典である。

佐賀県で開催する第78回国民スポーツ大会「SAGA2024」は「新しい大会へ。すべての人に、スポーツのチカラを。」をメインメッセージに掲げ、「する」「観る」「支える」の視点から、選手も、選手でない人も参加できる大会、エンターテインメント性の高い大会、みんなで力を合わせ、つくる大会をコンセプトに、体育からスポーツに変わる、今だからこそ、すべての人にスポーツのチカラを届ける新しい大会を目指して開催する。

## 実施方針

### 1 実施競技

#### (1) 正式競技 (37 競技)

陸上競技、水泳、サッカー、テニス、ローイング、ホッケー、バレーボール、体操、バスケットボール、レスリング、セーリング、ウエイトリフティング、ハンドボール、自転車、ソフトテニス、卓球、軟式野球、相撲、馬術、フェンシング、柔道、ソフトボール、バドミントン、弓道、ライフル射撃、剣道、ラグビーフットボール、スポーツクライミング、カヌー、アーチェリー、空手道、銃剣道、クレー射撃、なぎなた、ボウリング、ゴルフ、トライアスロン

#### (2) 公開競技 (7 競技)

綱引、ゲートボール、武術太極拳、パワーリフティング、グラウンド・ゴルフ、バウンドテニス、エアロビック

#### (3) デモンストレーションスポーツ (28 競技)

合気道、アジャタ、いごてだま、ウォーキング、草スキー、クップ、皿かぶり競走、さわやかグラウンド・ゴルフ、3B体操、室内ペタンク、シャッフルボード、スカットボール、スケートボード、スポGOMI、スポーツウエルネス吹矢、スポーツチャンバラ、ソフトバレーボール、滝登り、チャレンジ・ザ・ゲーム、パークゴルフ、バグジー、ビリヤード、フライングディスク、マリンスポーツ、ユニカール、ラージボール卓球、ラダーゲッター、ロープ・ジャンプ・X

#### (4) 特別競技 (1 競技)

高等学校野球

## 2 会期及び会場地

### (1) 正式競技・特別競技（13市、11町：計24市町）

会 期	会 場 地
2024年10月5日（土） ～10月15日（火） 〔11日間〕	佐賀市、唐津市、鳥栖市、多久市、伊万里市、武雄市、鹿島市、小城市、嬉野市、神埼市、吉野ヶ里町、基山町、上峰町、みやき町、玄海町、有田町、大町町、江北町、白石町、太良町、大分県日田市、兵庫県三木市
2024年9月5日（木） ～9月17日（火） 〔13日間〕	佐賀市、伊万里市、鹿児島県湧水町 ※ 水泳、ローイング、バレーボール（ビーチバレー）、体操（体操競技、トランポリン）、カヌー（SL・WW） 競技会は上記会場地で実施
2024年9月21日（土） ～10月1日（火） 〔11日間〕	佐賀市、唐津市、鳥栖市、神埼市、大分県由布市 ※ サッカー、テニス、体操（新体操）、セーリング、ソフトテニス、ライフル射撃、剣道、クレー射撃競技会は上記会場地で実施

### (2) 公開競技（6市、1町：計7市町）

会 期	会 場 地
2024年8月24日（土） ～9月22日（日）	佐賀市、唐津市、鳥栖市、武雄市、鹿島市、嬉野市、基山町

### (3) デモンストレーションスポーツ（7市、8町：計15市町）

会 期	会 場 地
2024年4月21日（日） ～10月13日（日）	佐賀市、唐津市、鳥栖市、武雄市、鹿島市、嬉野市、神埼市、吉野ヶ里町、基山町、上峰町、有田町、大町町、江北町、白石町、太良町

### (4) 文化プログラム

文化プログラムの実施については、「文化プログラム実施基準」に基づき、2024年4月1日から2024年12月31日までの期間で、原則として、県内市町で開催する。

## 3 競技方法

各競技別実施要項に示す方法とし、正式競技は都道府県対抗で実施する。

## 4 ドーピング検査の実施

大会におけるアンチ・ドーピング活動（ドーピング検査及びアンチ・ドーピング教育活動）は、公益財団法人日本アンチ・ドーピング機構が定める「日本アンチ・ドーピング規程」及び別に定める「国民スポーツ大会アンチ・ドーピング活動に関するガイドライン」に基づき実施する。

なお、治療の目的で禁止物質・禁止方法を用いる必要がある場合は、事前に「治療使用特例」(TUE)の手続きを行うこと。

各都道府県の代表選手は、大会期間中は常に「国民スポーツ大会ドーピング検査同意書」を所持しなければならない。選手が18歳未満の場合、本人の署名及び親権者の署名がある同意書を所持すること。

## 5 参加資格、所属都道府県及び選手の年齢基準

選手及び監督の参加資格、所属都道府県及び選手の年齢基準は、次のとおりとする。

なお、参加資格については、「第 78 回国民スポーツ大会参加資格、所属都道府県及び年齢基準等の解釈・説明」を併せて確認すること。

【 公益財団法人日本スポーツ協会ホームページ <http://www.japan-sports.or.jp/> 】

### (1) 参加資格

ア 日本国籍を有する者であることとするが、選手及び監督のうち、次の者については、日本国籍を有しない者であっても、大会に参加することができる。

(ア) 「出入国管理及び難民認定法」に定める在留資格のうち「永住者」（「日本国との平和条約に基づき日本の国籍を離脱した者等の出入国管理に関する特例法」に定める「特別永住者」を含む。）

(イ) 少年種別年齢域に該当し、次の要件をいずれも満たす者

a 「学校教育法」第 1 条に規定する学校に在籍する学生又は生徒で、「8 参加申込方法」で定めた参加申込締切時に 1 年以上在籍していること。

b 「出入国管理及び難民認定法」に定める在留資格のうち、「留学」、「家族滞在」又は「定住者」に該当していること。

(ウ) 成年種別年齢域に該当し、次の要件をいずれも満たす者

a 少年種別年齢域にあった時点において前号(イ)に該当していた者であること。

b 「出入国管理及び難民認定法」に定める在留資格のうち、大会参加時から終了時まで「留学」に該当しないこと。

[注] 上記(ウ)b について、大学及び専修学校等に在籍する成年種別の年齢域に該当する者は、「出入国管理及び難民認定法」に定める「留学」以外の在留資格を有する場合も「留学」と同等に扱う。

イ 選手及び監督は、所属都道府県の当該競技団体会長（代表者）と体育・スポーツ協会会長（代表者）が代表として認め、選抜した者であること。

ウ 第 77 回又は 2023 年開催の特別大会（都道府県大会及びブロック大会を含む）において選手又は監督として参加した者は、次の場合を除き、第 77 回又は 2023 年開催の特別大会と異なる都道府県から参加することはできない。

(ア) 成年種別

a 「学校教育法」第 1 条に規定する学校を卒業した者

b 結婚又は離婚に係る者

[注] a 及び b は当該要件発生後、初めて参加するものに限る。

c ふるさと選手制度を活用する者（別記 1 「国民スポーツ大会ふるさと選手制度」による。）

[注] 別記 3 「JOC エリートアカデミーに係る選手の参加資格の特例措置」の適用を受け、ふるさと選手として参加する者を含む。

d 東日本大震災に係る参加資格特例措置を活用する者（別記 5 「東日本大震災に係る選手及び監督の国民スポーツ大会参加資格の特例措置」による。）

e 能登半島地震に係る参加資格特別措置を活用する者（別記 6 「能登半島地震に係る選手及び監督の国民スポーツ大会参加資格の特例措置」による。）

(イ) 少年種別

a 「学校教育法」第 1 条に規定する学校を卒業した者

- b 結婚又は離婚に係る者
- c 一家転住に係る者（別記2「『一家転住等』に伴う特例措置」による。）  
[注] aからcは当該要件発生後、初めて参加するものに限る。
- d JOC エリートアカデミーに在籍する者（別記3「JOC エリートアカデミーに係る選手の参加資格の特例措置」による。）
- e 東日本大震災に係る参加資格特例措置を活用する者（別記5「東日本大震災に係る選手及び監督の国民スポーツ大会参加資格の特例措置」による。）
- f 能登半島地震に係る参加資格特別措置を活用する者（別記6「能登半島地震に係る選手及び監督の国民スポーツ大会参加資格の特例措置」による。）

エ 選手と監督の兼任は、同一種別内に限る。

オ 選手及び監督は、回数を同じくする大会において、冬季大会及び本大会にそれぞれ1競技に限り参加できる。

カ 選手及び監督は、回数を同じくする大会において、異なる都道府県から参加することはできない。

キ 選手、監督並びに本部役員帯同のスポーツドクター及びアスレティックトレーナーは、大会参加前の1年以内に公益財団法人日本スポーツ協会（以下「日本スポーツ協会」という。）が指定するアンチ・ドーピング教育を受講し、「国スポ本戦出場前のアンチ・ドーピング教育履歴」に記載した者であること。

ク 上記のほか、選手については次のとおりとする。

- (ア) 都道府県大会及びブロック大会に参加し、これを通過した者であること。
- (イ) 健康診断を受け、競技会への参加に支障がない者であること。
- (ウ) ドーピング検査対象に選定された場合は、検査を受けなければならない。

ケ 上記のほか、監督については日本スポーツ協会公認スポーツ指導者制度に基づく競技別指導者資格を有する者とし、監督が不在の場合選手は参加することができない。各競技における対象資格については当該競技実施要項によるものとする。

## (2) 所属都道府県

所属都道府県は、当該競技団体が限定する場合を除き、次のいずれかが属する都道府県から選択することができる。

### ア 成年種別

- (ア) 居住地を示す現住所
- (イ) 勤務地
- (ウ) ふるさと（別記1「国民スポーツ大会ふるさと選手制度」による。）

[注] 別記3「JOC エリートアカデミーに係る選手の参加資格の特例措置」の適用を受け、ふるさと選手として参加する者を含む。

### イ 少年種別

- (ア) 居住地を示す現住所
- (イ) 「学校教育法」第1条に規定する学校の所在地（以下「学校所在地」という。）
- (ウ) 勤務地
- (エ) 別記3「JOC エリートアカデミーに係る選手の参加資格の特例措置」に定める小学校の所在地

※ 「居住地を示す現住所」、「勤務地」、「学校所在地」のいずれかから参加する場合は、2024年4月30日以前から本大会終了時（2024年10月15日）まで、引き続き当該地に、それぞ

れ居住、勤務、又は通学していなければならない。ただし、次の者はこの限りではない。

[成年種別]

- a 別記4「トップアスリートの国民スポーツ大会参加資格の特例措置」の適用を受ける者
- b 別記5「東日本大震災に係る選手及び監督の国民スポーツ大会参加資格の特例措置」の適用を受ける者
- c 別記6「能登半島地震に係る選手及び監督の国民スポーツ大会参加資格の特例措置」の適用を受ける者

[少年種別]

- a 別記2「『一家転住等』に伴う特例措置」の適用を受ける者
- b 別記4「トップアスリートの国民スポーツ大会参加資格の特例措置」の適用を受ける者
- c 別記5「東日本大震災に係る選手及び監督の国民スポーツ大会参加資格の特例措置」の適用を受ける者
- d 別記6「能登半島地震に係る選手及び監督の国民スポーツ大会参加資格の特例措置」の適用を受ける者

(3) 選手の年齢基準

ア 選手の年齢基準については、下記を原則とする。

- (ア) 成年種別に参加する者は、2006年4月1日以前に生まれた者とする。
- (イ) 少年種別に参加する者は、2006年4月2日から2009年4月1日までに生まれた者とする。
- (ウ) 年齢を区分している種別へ参加する者の年齢計算は、2024年4月1日を基準とする。

イ 日本スポーツ協会が特に認める場合は、上記アにかかわらず、競技ごとに年齢区分を設定することができる。ただし、年齢の下限は中学3年生（2009年4月2日から2010年4月1日までに生まれた者）とする。

(4) 前記の各事項に疑義のあるときは、日本スポーツ協会及び当該競技団体が調査・審議のうえ、日本スポーツ協会がその可否を決定する。

## 6 各正式競技の総合成績決定方法

各正式競技の総合成績決定方法は次のとおりとする。

(1) 次のア、イの得点を合計したものを男女総合成績（天皇杯得点）及び女子総合成績（皇后杯得点）とする。

ア 競技得点

競技得点は、各種別、種目などの第1位から第8位までの都道府県に与え、次のとおりとする。ただし、同順位の場合は、次の順位のを加え、当該都道府県で等分し、割り切れない場合は、小数第3位以下を切り捨てる。

		1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位
種別	4人以下	24点	21点	18点	15点	12点	9点	6点	3点
	5人以上7人以下	40点	35点	30点	25点	20点	15点	10点	5点
	8人以上	64点	56点	48点	40点	32点	24点	16点	8点
種目	—————	8点	7点	6点	5点	4点	3点	2点	1点

[注] 「種別」：種別などに与える競技得点 「種目」：種目などに与える競技得点

#### イ 参加得点

参加得点は10点とし、大会（ブロック大会を含む。）に参加した都道府県に与える。

ただし、ブロック大会で本大会の出場権を獲得しながら、本大会に参加しなかった場合は与えない。

(2) 各競技の総合成績は、当該競技団体が決定する。

ただし、天候その他の事情により一部競技が中止になった場合は、当該競技団体と大会総務委員会が協議する。

(3) 参加資格違反等に関わる得点等の取り扱いについては、「国民スポーツ大会における違反に対する処分に関する規程」によるものとする。

## 7 表彰

(1) 冬季大会及び本大会で実施した全正式競技の男女総合成績第1位の都道府県に天皇杯を、同じく女子総合成績第1位の都道府県に皇后杯をそれぞれ授与する。

(2) 冬季大会及び本大会で実施した全正式競技の男女総合成績及び女子総合成績の第1位から第8位までの都道府県に、それぞれ表彰状を授与する。

(3) 各正式競技の男女総合成績第1位の都道府県に、国民スポーツ大会会長トロフィーを授与する。

(4) 各正式競技の男女総合成績及び女子総合成績の第1位から第8位までの都道府県に、それぞれ表彰状を授与する。

(5) 各競技の各種別及び各種目などの第1位から第8位までに賞状を授与する。団体競技の場合は、その都道府県名とチーム全員（監督を含む）の氏名を記載したものを都道府県用に1枚、更にその都道府県名と個人名を記載したもの、又は都道府県名とチーム全員（監督を含む）の氏名を記載したものをチーム全員に授与する。

## 8 参加申込方法

(1) 参加申込

都道府県体育・スポーツ協会会長（代表者）及び競技団体会長（代表者）は、連署の上、都道府県大会又はブロック大会において選抜された者及び公益財団法人日本高等学校野球連盟が選出したチームを、大会会長宛に申込みものとする。

(2) 参加申込締切

参加申込は、定められた締切日までに国民スポーツ大会参加申込システムにより行う。なお各競技別実施要項の「参加申込み方法」を併せて確認すること。

(3) 参加申込締切日

締切日	競技
2024年 8月15日(木) 【5競技】	水泳、ローイング、バレーボール（ビーチバレーボール）、体操、カヌー
2024年 8月28日(水) 【12競技】	サッカー、レスリング、セーリング、自転車、ソフトテニス、相撲、ライフル射撃、剣道、クレー射撃、ボウリング、ゴルフ、トライアスロン

2024年 9月4日(水) 【22競技】	陸上競技、テニス、ホッケー、バレーボール(6人制)、バスケットボール、ウエイトリフティング、ハンドボール、卓球、軟式野球、馬術、フェンシング、柔道、ソフトボール、バドミントン、弓道、ラグビーフットボール、スポーツクライミング、アーチェリー、空手道、銃剣道、なぎなた、高等学校野球
----------------------------	---

(4) 参加申込様式

参加申込様式は、日本スポーツ協会が実施競技団体と協議の上、作成する。

(5) 公開競技の参加申込

公開競技については、別途当該中央競技団体が定める所定の手続きにより行う。

(6) 選手の交代

参加申込締切後の選手の交代は、特別な事情がない限り認めない。特別な事情で選手を交代する場合は、所定の様式、方法により次のア～ウ宛に届け出なければならない。

ア 全国を統轄する各中央競技団体事務局

イ SAGA2024実行委員会事務局

ウ SAGA2024各競技会場地市町実行委員会事務局

なお、日本スポーツ協会に対しては、大会終了後、所定の手続きにより参加申込情報を修正すること。

## 9 棄権手続

参加申込締切後から競技初戦までの間において、特別な事情で選手が競技会を棄権する場合には、所定の棄権手続をとらなければならない。

なお、棄権手続に係る届出については選手交代届と同じ様式を用いること。

## 10 大会参加負担金

(1) 大会に参加選手団(視察員を除く)を派遣する都道府県体育・スポーツ協会は、大会参加負担金を納入する。一人当たりの大会参加負担金の額は下記のとおりとする。

区 分	負 担 金
少年の種別に参加する選手	3,000円
上記以外の者(本部役員、監督、成年の種別に参加する選手等)	6,000円

[注] 地震、風水害、感染症およびその他主催者の責によらない事由により大会を中止した場合、大会参加負担金の返金を行わない。

(2) 大会参加負担金は、都道府県体育・スポーツ協会に取りまとめ、次のとおり納入する。

ア 納入期限 2024年9月5日(木)

イ 納入先 みずほ銀行 渋谷支店 普通預金口座 513729  
公益財団法人日本スポーツ協会

## 11 宿泊申込

大会参加者は、SAGA2024実行委員会が指定した所定の様式により、定められた締切日までに申込み。

## 12 都道府県選手団本部役員編成

- (1) 都道府県選手団本部役員は、次のとおりとする。
  - ア 参加選手 500 名以上の場合は、団長、総監督及び総務ほか、計 20 名以内とする。
  - イ 参加選手 300 名以上 500 名未満の場合は、団長、総監督及び総務ほか、計 15 名以内とする。
  - ウ 参加選手 300 名未満の場合は、団長、総監督及び総務ほか、計 10 名以内とする。
- (2) 上記役員のほか、5 名以内の顧問を設けることができる。
- (3) 上記(1)及び(2)による本部役員総数の範囲内で、スポーツドクターを帯同するものとする。なお、帯同するスポーツドクターは日本スポーツ協会公認スポーツドクター資格を有する者とする。
- (4) 上記(1)及び(2)による本部役員総数の範囲内で、原則としてアスレティックトレーナーを帯同するものとする。

なお、帯同するアスレティックトレーナーは日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー資格を有する者とする。
- (5) 都道府県選手団本部役員の 1 日あたりの編成人数については、上記(1)及び(2)による人数を上限とする。
- (6) 都道府県選手団本部役員の参加申込は、2024 年 9 月 4 日（水）までに国民スポーツ大会参加申込システムにより行う。

## 13 視察員

- (1) 視察員は、1 都道府県 3 名以内とする。ただし、2025 年以降の国民スポーツ大会の開催が決定又は内定している県については、滋賀県 100 名以内、青森県及び宮崎県 60 名以内、長野県及び群馬県 40 名以内とする。
- (2) 都道府県の視察員の参加申込は、2024 年 9 月 4 日（水）までに国民スポーツ大会参加申込システムにより行う。

## 14 大会参加章、記念章及び AD カードの交付

大会参加章、記念章及び AD カードは、次の者に交付する。

- (1) 大会参加章  
都道府県選手団本部役員、監督及び選手並びに大会役員、競技会役員及び競技団体が指定した競技役員
- (2) 記念章  
公開競技・デモンストレーションスポーツ参加者  
※ 公開競技参加者への交付は、中央競技団体との協議による。
- (3) AD カード  
都道府県選手団、公開競技に参加する選手・監督及び役員、大会役員・競技会役員及び競技団体が指定した競技役員、大会主催者及び競技会主催者が認めた者には AD カード (Accreditation Card) を交付する。

## 15 参加上の注意

- (1) 大会期間中は、交付された AD カードを携帯しなければならない。
- (2) 各都道府県の代表選手は、競技に際し、「国民スポーツ大会ユニフォーム規程」に基づき、ユ

ニフォームを着用しなければならない。

## 16 個人情報及び肖像権に関わる取り扱い

日本スポーツ協会、SAGA2024実行委員会、SAGA2024各競技会場地市町実行委員会及び国民スポーツ大会実施競技中央競技団体（以下「国スポ関係機関・団体」という。）は、参加申込等を通じて取得する個人情報及び肖像権の取り扱いに関して以下のとおり対応するものとする。

### (1) 個人情報の取り扱い

#### ア 利用目的

大会参加申込として国民スポーツ大会参加申込システムへ登録された個人情報は、国スポ関係機関・団体において、参加資格の確認や競技組合せなどをはじめとする大会運営業務のために利用し、目的以外に利用しない。

#### イ 公表の範囲と方法

個人情報のうち、所属都道府県、氏名、性別、年齢、学校名、チーム名等、所属と個人を識別するために必要な情報については、以下の方法等により公表することがある。

- (ア) 総合プログラム及び競技別プログラムへの掲載
- (イ) 競技会場内におけるアナウンス等による紹介
- (ウ) 競技会場内外の掲示板等への掲載
- (エ) 大会関連ホームページへの掲載
- (オ) 報道機関への提供

#### ウ 競技結果（記録）等

競技結果（記録）については、上記イで定めた個人情報とともに、以下の方法等により公表することがある。

- (ア) SAGA2024実行委員会が設置する記録本部を通じた公開
- (イ) 国スポ関係機関・団体及び報道機関等による新聞・雑誌及び関連ホームページ等への掲載
- (ウ) 国スポ関係機関・団体が作成する大会報告書等への掲載
- (エ) 次回以降の大会プログラムへの掲載【新記録、優勝及び上位入賞結果（記録）等】

### (2) 肖像権に関する取り扱い

#### ア 写真

国スポ関係機関・団体又はこれらに認められた報道機関等によって撮影された写真が、新聞・雑誌・報告書及び関連ホームページ等で公開されることがある。

#### イ 写真（写真撮影企業等）

国スポ関係機関・団体に認められた写真撮影企業等によって撮影された写真等が販売されることがある。

なお、各競技・会場における販売の有無等の詳細は、当該中央競技団体を中心に対応する。

#### ウ 映像

国スポ関係機関・団体又はこれらに認められた報道機関等によって撮影された映像が、中継・録画放映及びインターネットによって配信されることがある。また、DVD等に編集され、販売・配付されることがある。

### (3) 対応

#### ア 承諾の確認

大会参加申込として国民スポーツ大会参加申込システムへ登録された時点で、上記取り扱いに関する承諾を得たものとして対応する。

なお、各競技会における取り扱いに伴い、別途、当該中央競技団体等によって個別に承諾を確認することがある。

#### イ 役員等

大会役員、競技役員、運営役員、その他各種委員や補助員、国スポ関係機関・団体と大会に関する契約をしている者及び大会運営関係者については、上記取り扱いに関する承諾を得たものとして対応する。

## 17 都道府県大会及びブロック大会

正式競技については、本大会の予選として次のとおり都道府県大会（ブロック大会）を開催しなければならない。

(1) 都道府県の主催団体は、必要に応じて日本スポーツ協会及び中央競技団体等関係団体と協議の上、本要項に基づき実施要項を作成する。

なお、日本スポーツ協会及び中央競技団体は、その内容に不備がある場合、適宜指導を行うものとする。

(2) 都道府県大会の実施にあたり、当該都道府県主催団体は、適正な手続きに則り決定した代表選手の選抜方法・選考基準について、予め関係者に周知徹底を図るものとする。

(3) 参加者は、実施要項に基づき当該主催団体に申込み。

なお、参加は1人1競技に限る。

(4) ブロック大会の申込みは、原則として国民スポーツ大会参加申込システムにより行い、様式は日本スポーツ協会及び当該主催団体が協議の上、作成する。

なお、参加申込システムを使用しない場合の様式については、当該主催団体において別途作成する。

(5) 都道府県大会の参加申込様式は、当該主催団体において作成する。

(6) 参加料を徴収する場合の金額は、当該主催団体が中央競技団体と協議の上、定める。

(7) 競技運営に差し支えない限り、佐賀県選手は当該競技ブロック大会を経ることなく本大会に参加することができる。

## 18 国民スポーツ大会参加者傷害補償制度

日本スポーツ協会及び都道府県体育・スポーツ協会は、国民スポーツ大会参加者に対する社会的責任体制を整えるとともに、大会参加者の相互扶助の精神に基づいた補償制度として大会参加者による国民スポーツ大会参加者傷害補償制度を運営する。

(1) 本制度の対象となる参加者は、ブロック大会及び本大会に参加する本制度給付規定に定められた選手、監督、選手団本部役員（顧問を含む）、視察員並びにその他選手団役員とする。

(2) 大会参加の都道府県体育・スポーツ協会は、国民スポーツ大会参加者傷害補償制度の対象となる参加者数に応じた制度負担金（一人あたり1,000円）を、日本スポーツ協会に納入する。

(3) 納入締切日及び納入先については、別途日本スポーツ協会から都道府県体育・スポーツ協会へ通知する。

## 19 SAGA2024の取り組み

(1) 選手の活躍にスポットを当てた表彰

選手の活躍は、観る人、支える人などにとって「感動する。魂が揺さぶられる」など「スポーツのチカラ」を多くの方に届けることができる。それぞれの選手の活躍にスポットを当てた「称える・伝える」表彰制度を創設し、表彰する。

## (2) 観戦機会の拡大

「すべての人に、スポーツのチカラを。」の実現に向け、全国で大会の観戦・応援ができる環境づくりとしてインターネットを活用した正式競技の動画配信に取り組む。また、「一人でも多くの方に会場で観戦・応援を楽しんでほしい。」という思いから、夕方以降の試合が可能な一部の競技においてナイトゲーム開催に取り組む。

## (3) 健康づくりの推進

健康増進法（平成 14 年法律第 103 号）の趣旨に鑑み、開・閉会式会場及び競技会場を原則禁煙とする。また、望まない受動喫煙を生じさせることがないように、大会参加者は、会場周辺の道路や駅、一般の店舗等における受動喫煙防止についても十分な配慮すること。

## 20 その他

(1) 参加申込及び宿泊申込が、定められた締切日までに行われない場合、又は、参加負担金が定められた納入期限までに納入されない場合は、本大会への参加を認めない。

(2) 大会運営にあたり、選手・観客・大会関係者への安全を最優先に配慮し、気象状況・感染状況・交通状況・テロ行為等の各種災害に伴い、安全確保が見込めないと主催者が判断した場合は、主催者の指示に従うものとする。また、安全確保のために、参加申込システムに登録された以外の個人情報を取得する場合がある。取得した情報については、目的以外に利用しない。

(3) その他の事項については、国民スポーツ大会開催基準要項及び同細則による。

## 別記1 「国民スポーツ大会ふるさと選手制度」

- 1 成年種別年齢域の選手は、国民スポーツ大会開催基準要項細則第3項〔国民スポーツ大会開催基準要項第8項第1号及び第10項第4号（参加資格及び年齢基準等）〕に基づき、下記のいずれかを拠点とした都道府県から参加することができる。
  - (1) 居住地を示す現住所
  - (2) 勤務地
  - (3) ふるさと
- 2 「ふるさと」とは、卒業小学校、卒業中学校又は卒業高等学校のいずれかの所在地が属する都道府県とする。

ただし、JOC エリートアカデミーに係る選手については、別に定める「JOC エリートアカデミーに係る選手の参加資格の特例措置」第3項により取り扱うものとする。
- 3 我が国の競技力向上を支援する観点より、日本国籍を有する者及び「永住者」については、日本における滞在期間に関わらず、本制度を活用できるものとする。ただし、「日本国籍を有する者および『永住者』」に該当しない者であっても、当該大会年の4月30日（冬季大会は前年の4月30日）以前から本大会終了時（冬季大会は各競技会終了時）まで継続的に日本に滞在している場合は、本制度を活用できるものとする。なお、やむを得ない事情により、一時的に日本を離れる場合は、総日数の半数を超えて日本で滞在していること。
- 4 「ふるさと選手制度」を活用し参加を希望する選手は、予め所定の方法により「ふるさと」を登録しなければならない。なお、一度登録した「ふるさと」は変更できないものとする。
- 5 「ふるさと」から参加する選手は、国民スポーツ大会開催基準要項細則第3項-(1)-1-③（国内移動選手の制限）に抵触しないものとする。
- 6 ふるさと選手制度の活用については、原則として、1回につき2年以上連続とし、利用できる回数は2回までとする。
- 7 参加都道府県は「ふるさと選手」を所定の様式、方法により、当該大会実施要項で定めた参加申込締切期日までに、日本スポーツ協会宛に提出する。

## 別記2 「『一家転住等』に伴う特例措置」

### 転校への特例

- 1 次の内容をすべて満たすことにより、国内移動選手の制限（国民スポーツ大会開催基準要項細則第3項-(1)-1-③）に抵触しないものとする。
  - (1) この特例の対象は、「少年種別」への参加者に限る。
  - (2) 本特例を受けることができるのは、一家転住等やむを得ない理由に限ることとする。  
なお「一家転住等」とは概ね次のことを言う。
    - ア 親の転勤による一家の転居
    - イ 親の結婚、離婚による一家の転居
    - ウ 上記以外に、やむを得ない理由による一家の転居
  - (3) 転居した時点に応じて、以下の手続きを終了していること。
    - ア 本特例を受けようとする参加者は、下記2(1)の場合は転居元、下記2(2)の場合は転居先が属する都道府県体育・スポーツ協会及び都道府県競技団体に対し、その旨報告すること。
    - イ 報告を受けた都道府県体育・スポーツ協会及び都道府県競技団体は、下記2(1)の場合は転居先、下記2(2)の場合は転居元が属する都道府県体育・スポーツ協会及び都道府県競技団体に対し、その旨報告し了承を得ること。
- 2 本特例を受ける当該大会において、参加することができる都道府県は以下のとおりとする。
  - (1) 転居した時点において、以下に該当する場合は転居元が属する都道府県から参加することができる。
    - ア 転居先が属する都道府県の代表が既に決定している場合
    - イ 当該参加者が、転居元が属する都道府県の代表として既に決定している場合
    - ウ 当該参加者が、転居元が属する都道府県の代表選考過程にある場合
  - (2) 転居した時点において、以下に該当する場合は転居先が属する都道府県から参加することができる。
    - ア 転居元が属する都道府県において、当該大会における都道府県代表の選考が開始されていない場合

### 別記3 「JOC エリートアカデミーに係る選手の参加資格の特例措置」

公益財団法人日本オリンピック委員会が実施する「JOC エリートアカデミー」に係る選手のうち、下記1に該当する者については、国民スポーツ大会開催基準要項細則第3項〔国民スポーツ大会開催基準要項第8項第1号及び第10項第4号（参加資格及び年齢基準等）〕及び別記1「国民スポーツ大会ふるさと選手制度」に関し、次の2～4の特例を適用する。

#### 1 対象者

- (1) 少年種別年齢域の選手で JOC エリートアカデミーに在籍する者
- (2) 成年種別年齢域の選手で JOC エリートアカデミーを修了した者、または同アカデミーに在籍する者

#### 2 少年種別年齢域の選手の所属都道府県

本特例第1項-(1)に定める少年種別年齢域の選手は、その所属都道府県について、国民体スポーツ大会開催基準要項細則第3項-(1)-2)-②に定める「居住地を示す現住所」、「学校教育法第1条に規程する学校の所在地」、「勤務地」のほか、卒業小学校の所在地が属する都道府県を選択することができる。

なお、同アカデミーへの入校時において小学生であった場合には、入校する直前まで通学していた小学校の所在地が属する都道府県を選択することができる。

#### 3 成年種別年齢域の選手の「ふるさと」

本特例第1項-(2)に定める成年種別年齢域の選手は、別記1「国民スポーツ大会ふるさと選手制度」第2項に定める卒業小学校、卒業中学校又は卒業高等学校のいずれかの所在地が属する都道府県のほか、同アカデミーでの入校時において小学生であった場合には、入校する直前まで通学していた小学校の所在地が属する都道府県を「ふるさと」とすることができる。

#### 4 国内移動選手の制限に係る例外適用

本特例第1項-(1)に定める少年種別年齢域の選手が前回の大会（都道府県大会を含む）と異なる都道府県から参加する場合、国民スポーツ大会開催基準要項細則第3項-(1)-1)-③（国内移動選手の制限）に抵触しないものとする。

[注] 本特例第1項-(2)に定める成年種別年齢域の選手については、国民スポーツ大会開催基準要項細則第3項-(1)-1)-③（国内移動選手の制限）の規定に従い取り扱うものとする。

#### 5 その他

中央競技団体が国際競技力向上施策として独自に実施するアカデミー事業については、当該中央競技団体からの申請を踏まえ、当該事業の内容が JOC エリートアカデミーに準拠し実施されていることが、公益財団法人日本オリンピック委員会により確認された場合に限り、当該事業を本特例の対象に加えることができる。

## 別記4 「トップアスリートの国民スポーツ大会参加資格の特例措置」

我が国の競技力向上を支援する観点より、一定の競技力を有する選手に対して、「トップアスリートの国民スポーツ大会参加資格の特例措置（以下「本特例」という。）」を下記のとおり定める。

### 1 特例の対象となる選手

本特例の対象となる選手は、下記の条件のいずれかを満たす者とする。

- (1) 第32回オリンピック競技大会（2021年・東京）に参加した者。
- (2) 2024年4月30日時点で、下記のいずれかに該当し、各中央競技団体が本特例の対象として認めた者

ア JOC オリンピック強化指定選手

イ 各競技（種目）における国内ランキング上位10位以内の者

ウ 中央競技団体が定めた強化指定選手

※ 強化指定ランクについては、各競技における全日本選手権大会入賞レベル以上のカテゴリーを対象とする。

### 2 特例の内容

#### (1) 予選会の免除

本特例の対象となる選手については、都道府県予選会及びブロック大会を経ずに国民スポーツ大会本大会に参加することができるものとする。ただし、ブロック大会実施競技種目・種別においては、当該都道府県代表選手又はチームがブロック大会に参加し、本大会参加枠を獲得している場合とする。

#### (2) 資格要件（日数要件の緩和）

本特例の対象となる選手が所属都道府県として「居住地を示す現住所」又は「勤務地」を選択する場合は、日数に関する要件を定めないこととし、以下のとおりとする。

##### ア 居住地を示す現住所

次の要件をいずれも満たすものとする。

- (ア) 2024年4月30日以前から大会終了時（2024年10月15日）まで引き続き、住民票記載の住所に存する都道府県において生活している実態があり、当該都道府県以外（海外を含む）において生活している実態がないこと。

なお、生活の実態については、下記要件により判断する。

- a 自ら所有する住居、又は自らの名義で住居を賃借していること
- b 当該住居に生計を一にする家族と共に住んでいること
- c 当該住居の水道光熱費など費用を自ら負担していること
- d 当該住居に主要な家財道具が存すること

- (イ) 合宿、試合等により当該都道府県外で活動を行う場合、当該都道府県を移動の起点としていること。

##### イ 勤務地

次の要件をいずれも満たすものとする。

- (ア) 2024年4月30日以前から大会終了時（2024年10月15日）まで引き続き、雇用主と雇用契約を締結した上で、当該都道府県内に存する雇用主の会社や事業所等に現実に通勤し、勤務していること。
- (イ) 当該都道府県内で、競技普及活動等の事業に参加すること。

### 3 国内移動選手の制限

本特例の対象となる選手の国内移動選手の制限については、国民スポーツ大会開催基準要項細則第3項－(1)－1)－③のとおりとする。

## 別記5 「東日本大震災に係る選手及び監督の国民スポーツ大会参加資格の特例措置」

### 1 特例の対象となる被災地域都道府県

震災による被害状況及び影響等を総合的に勘案し、青森県、岩手県、宮城県、福島県、茨城県、千葉県の6県を本特例の適用対象となる被災地域都道府県(以下「特例対象県」という。)とする。

なお、特例対象県以外の都道府県において対応が必要となった場合は、個別に取り扱うこととする。

### 2 特例の内容

#### (1) 特例対象県を所属都道府県とする場合の要件緩和

以下の選手及び監督は、「居住地を示す現住所」、「学校所在地」又は「勤務地」の各要件を満たしていなくとも、当該特例対象県から参加することができる。

##### 【特例の対象者】

被災地域からの避難等、災害の影響によるやむを得ない事情によって、当該特例対象県における「居住地を示す現住所」、「学校所在地」又は「勤務地」の各要件を満たすことができなくなった者。

ただし、以下の事項のいずれにも該当していること。

ア 2011年3月11日(震災発生時)時点において、当該特例対象県内に居住又は勤務していた者。もしくは当該特例対象県内の「学校教育法」第1条に規定する学校に在籍していた者であること。

イ 災害が発生しなかったと仮定した場合、2024年4月30日以前から大会終了時(2024年10月15日)まで継続して当該特例対象県を「居住地を示す現住所」、「学校所在地」又は「勤務地」とする要件を満たしていたと合理的に推測される者であること。

#### (2) 避難等による移動先の都道府県を所属都道府県とする場合の要件緩和

ア 被災地域からの避難等により、当該特例対象県と異なる都道府県に移動した以下の選手及び監督については、移動先の都道府県から参加することができる。

なお、この場合、第77回または2023年開催の特別大会に当該特例対象県から参加していても、国民スポーツ大会開催基準要項細則第3項-(1)-1)-③(国内移動選手の制限)には抵触しないものとする。

##### 【特例の対象者】

被災地域からの避難等、災害の影響によるやむを得ない事情によって、当該特例対象県から移動せざるを得なかった者。

ただし、以下の事項のいずれにも該当していること。

(ア) 2011年3月11日時点において、当該特例対象県内に居住又は勤務していた者。もしくは当該特例対象県内の「学校教育法」第1条に規定する学校に在籍していた者であること。

(イ) 移動先の都道府県を「居住地を示す現住所」、「学校所在地」又は「勤務地」とする要件を満たしていること。

なお、移動が生じた時期が2024年4月30日以降の場合は、移動先の都道府県の予選会開始までに要件を満たしていることとする。

[注] 「居住地を示す現住所」及び「学校所在地」として参加を希望する者については、当該自治体への住所に関する届出又は学籍に係る要件を満たしていなくとも、それに準ずる公的な証明書類を提出でき、かつ移動先の都道府県に居住あるいは通学している実態を有していると日本スポーツ協会が認めた場合、移動先の都道府県から出場することができる。

イ 本項アを適用して避難等による移動先の都道府県から 2023 年開催の特別大会または第 78 回大会に参加した者が、第 79 回大会において、以下のような震災にかかる理由により再度都道府県を移動して参加する場合は、国民スポーツ大会開催基準要項細則第 3 項-(1)-1)-③(国内移動選手の制限)には抵触しないものとする。

＜例＞ ○ 避難先を離れ、当該特例対象県に戻る場合

○ 避難先を離れ、他の都道府県を「居住地を示す現住所」、「学校所在地」又は「勤務地」とする場合

○ 他の都道府県に避難先を移す場合

(3) 避難等による移動先の属する都道府県において学校を卒業した場合の「ふるさと」選択要件の緩和

避難等による移動先の属する都道府県において小学校、中学校または高等学校を卒業した者が、成年種別年齢域に達した際、「国民スポーツ大会ふるさと選手制度」を活用して参加する場合、以下のいずれかを「ふるさと」として登録することができる。

ア 卒業小学校、卒業中学校または卒業高等学校の所在地

イ 災害の発生した時点で在籍していた小学校、中学校または高等学校の所在地

なお、本特例を適用して上記イの学校所在地を「ふるさと」登録した場合についても、卒業小学校、卒業中学校または卒業高等学校の所在地を「ふるさと」とする場合と同様、一度登録した「ふるさと」は変更できない。

**【特例の対象者】**

2011年度から2012年度（小学校は2015年度）までに、避難等による移動先の属する都道府県において小学校、中学校または高等学校を卒業した者。

## 別記6 「能登半島地震に係る選手及び監督の国民スポーツ大会参加資格の特例措置」

### 1 特例の対象となる被災地域都道府県

震災による被害状況および影響等を総合的に勘案し、新潟県、富山県、石川県、福井県の4県を本特例の適用対象となる被災地域都道府県（以下「特例対象県」という。）とする。

なお、特例対象県以外の都道府県において対応が必要となった場合は、個別に取り扱うこととする。

### 2 特例の内容

#### (1) 特例対象県を所属都道府県とする場合の要件緩和

以下の選手および監督については、「居住地を示す現住所」、「学校所在地」または「勤務地」の各要件を満たしていなくとも、当該特例対象県から参加することができる。

##### 【特例の対象者】

被災地域からの避難等、災害の影響によるやむを得ない事情によって、当該特例対象県における「居住地を示す現住所」、「学校所在地」または「勤務地」の各要件を満たすことができなくなった者。

ただし、以下の事項のいずれにも該当していること。

ア 2024年1月1日（震災発生時）時点において、当該特例対象県内に居住または勤務していた者。もしくは当該特例対象県内の「学校教育法」第1条に規定する学校に在籍していた者であること。

イ 災害が発生しなかったと仮定した場合、2024年4月30日以前から当該大会終了時（2024年10月15日）まで継続して当該特例対象県を「居住地を示す現住所」、「学校所在地」または「勤務地」とする要件を満たしていたと合理的に推測される者であること。

#### (2) 避難等による移動先の都道府県を所属都道府県とする場合の要件緩和

ア 被災地域からの避難等により、当該特例対象県と異なる都道府県に移動した以下の選手および監督については、移動先の都道府県から参加することができる。

なお、この場合、第77回大会または2023年開催の特別大会に、当該特例対象県から参加していても、国民スポーツ大会開催基準要項細則第3項-(1)-1)-③（国内移動選手の制限）には抵触しないものとする。

##### 【特例の対象者】

被災地域からの避難等、災害の影響によるやむを得ない事情によって、当該特例対象県から移動せざるを得なかった者。

ただし、以下の事項のいずれにも該当していること。

(ア) 2024年1月1日時点において、当該特例対象県内に居住または勤務していた者。もしくは当該特例対象県内の「学校教育法」第1条に規定する学校に在籍していた者であること。

(イ) 移動先の都道府県を「居住地を示す現住所」、「学校所在地」または「勤務地」とする要件を満たしていること。

なお、移動が生じた時期が2024年4月30日以降の場合は、移動先の都道府県の予選会開始までに要件を満たしていることとする。

[注] 「居住地を示す現住所」および「学校所在地」として参加を希望する者については、当該自治体への住所に関する届出または学籍に係る要件を満たしていなくとも、それに準ずる公的な証明書類を提出でき、かつ移動先の都道府県に居住あるいは通学している実態を有していると日本スポーツ協会が認めた場合、移動先の都道府県から出場

することができる。

イ 本項アを適用して避難等による移動先の都道府県から 2023 年開催の特別大会または第 78 回大会に参加した者が、第 79 回大会において、以下のような震災に係る理由により再度都道府県を移動して参加する場合は、国民スポーツ大会開催基準要項細則第 3 項-(1)-1)-③(国内移動選手の制限)には抵触しないものとする。

- <例> ○ 避難先を離れ、当該特例対象県に戻る場合  
○ 避難先を離れ、他の都道府県を「居住地を示す現住所」、「学校所在地」または「勤務地」とする場合  
○ 他の都道府県に避難先を移す場合

(3) 避難等による移動先の属する都道府県において学校を卒業した場合の「ふるさと」選択要件の緩和

避難等による移動先の属する都道府県において小学校、中学校または高等学校を卒業した者が、成年種別年齢域に達した際、「国民スポーツ大会ふるさと選手制度」を活用して参加する場合、以下のいずれかを「ふるさと」として登録することができる。

ア 卒業小学校、卒業中学校または卒業高等学校の所在地

イ 災害の発生した時点で在籍していた小学校、中学校または高等学校の所在地

なお、本特例を適用して上記イの学校所在地を「ふるさと」として登録した場合についても、卒業小学校、卒業中学校または卒業高等学校の所在地を「ふるさと」とする場合と同様、一度登録した「ふるさと」は変更できない。

**【特例の対象者】**

2024年度から2025年度(小学校は2028年度)までに、避難等による移動先の属する都道府県において小学校、中学校または高等学校を卒業した者。

# 〔11〕セーリング競技

1 期 日 2024年9月28日（土）から10月1日（火）まで（4日間）

〔計測 9月26日（木）・9月27日（金）、トライアルレース 9月27日（金）〕

月 日	時 間	内 容
9月26日（木）	9:00～17:00	計 測 （佐賀県ヨットハーバー）
9月27日（金）	8:30～10:00	計測予備日 （佐賀県ヨットハーバー）
	16:30～17:30	監督会議 （佐賀県ヨットハーバー式典テント）
10月1日（火）	13:00～13:30	種目別表彰式（佐賀県ヨットハーバー式典テント）
	14:00～14:30	
	15:00～15:40	総合表彰式（佐賀県ヨットハーバー式典テント）

月 日	予告信号 時 刻	A・C海面	予告信号 時 刻	B・C海面		
9月27日 （金）	10:55	少年男子420級	トライアルレース	10:55	少年男子ILCA6級	トライアルレース
	11:02	少年女子420級	トライアルレース	11:02	少年女子ILCA6級	トライアルレース
	11:09	成年女子ILCA6級	トライアルレース	11:55	成年女子セーリングスピリッツ級	トライアルレース
	12:55	成年男子470級	トライアルレース	12:55	成年男子国 <sup>♫</sup> ウインドサーフィン級	トライアルレース
	13:02	成年男子ILCA7級	トライアルレース	13:02	成年女子国 <sup>♫</sup> ウインドサーフィン級	トライアルレース
9月28日 （土）	9:25	少年男子420級	第1レース	9:25	少年男子ILCA6級	第1レース
	9:32	少年女子420級	第1レース	9:32	少年女子ILCA6級	第1レース
	9:39	成年女子ILCA6級	第1レース			
	引続き	少年男子420級	第2レース	引続き	少年男子ILCA6級	第2レース
		少年女子420級	第2レース		少年女子ILCA6級	第2レース
		成年女子ILCA6級	第2レース			
	12:55	成年男子470級	第1レース	11:55	成年女子セーリングスピリッツ級	第1レース
13:02	成年男子ILCA7級	第1レース	引続き	成年女子セーリングスピリッツ級	第2レース	
引続き	成年男子470級 成年男子ILCA7級	第2レース 第2レース	14:25	成年男子国 <sup>♫</sup> ウインドサーフィン級	第1レース	
			14:32	成年女子国 <sup>♫</sup> ウインドサーフィン級	第1レース	
			引続き	成年男子国 <sup>♫</sup> ウインドサーフィン級 成年女子国 <sup>♫</sup> ウインドサーフィン級	第2レース 第2レース	
9月29日 （日）	9:25	成年男子470級	第3レース	9:25	成年女子セーリングスピリッツ級	第3レース
	9:32	成年男子ILCA7級	第3レース	引続き	成年女子セーリングスピリッツ級	第4レース
	引続き	成年男子470級 成年男子ILCA7級	第4レース 第4レース	11:55	少年男子ILCA6級	第3レース
				12:02	少年女子ILCA6級	第3レース
				引続き	少年男子ILCA6級	第4レース
					少年女子ILCA6級	第4レース
	12:55	少年男子420級	第3レース	14:25	成年男子国 <sup>♫</sup> ウインドサーフィン級	第3レース
13:02	少年女子420級	第3レース	14:32	成年女子国 <sup>♫</sup> ウインドサーフィン級	第3レース	
13:09	成年女子ILCA6級	第3レース				
引続き	少年男子420級 少年女子420級 成年女子ILCA6級	第4レース 第4レース 第4レース	引続き	成年男子国 <sup>♫</sup> ウインドサーフィン級	第4レース	
				成年女子国 <sup>♫</sup> ウインドサーフィン級	第4レース	
9月30日 （月）	9:25	少年男子420級	第5レース	9:25	少年男子ILCA6級	第5レース
	9:32	少年女子420級	第5レース	9:32	少年女子ILCA6級	第5レース
	9:39	成年女子ILCA6級	第5レース			
	引続き	成年女子ILCA6級	第6レース	10:55	成年女子セーリングスピリッツ級	第5レース
				引続き	成年女子セーリングスピリッツ級	第6レース
	12:55	成年男子470級	第5レース	13:55	成年男子国 <sup>♫</sup> ウインドサーフィン級	第5レース
13:02	成年男子ILCA7級	第5レース	14:02	成年女子国 <sup>♫</sup> ウインドサーフィン級	第5レース	
引続き	成年男子470級 成年男子ILCA7級	第6レース 第6レース	引続き	成年男子国 <sup>♫</sup> ウインドサーフィン級	第6レース	
				成年女子国 <sup>♫</sup> ウインドサーフィン級	第6レース	
10月1日 （火）	9:25	少年男子420級	第6レース	9:25	少年男子ILCA6級	第6レース
	9:32	少年女子420級	第6レース	9:32	少年女子ILCA6級	第6レース

- (1) 各海面の引続き行うレースは、その前のレースの各種目終了後引続き行う。
- (2) 天候等の事情により、競技日程及びレース海面は、レース委員会において変更することがある。
- (3) 10月1日（火）には、11時00分より後に予告信号を発しない。

## 2 会 場 唐津市 佐賀県ヨットハーバー

### 3 種別（種目）及び参加人員

種 別	種 目	1艇当りの乗員数	艇数	監督	選手	参加都道府県	計(人)
成年男子	470級	2	1	1	2	47	703
	ILCA7級	1	1		1		
	国スポウインドサーフィン級	1	1		1		
成年女子	セーリングスピリッツ級	2	1		2		
	ILCA6級	1	1		1		
	国スポウインドサーフィン級	1	1		1		
少年男子	420級	2	1	1	2		
	ILCA6級	1	1		1		
少年女子	420級	2	1		2		
	ILCA6級	1	1		1		

- (1) 参加人員が703名を超えるときは、日本セーリング連盟が調整する。
- (2) 成年種別は選手が監督を兼任することができる。
- (3) 各種目で使用する艇及びボードは選手の所有するもの、都道府県が所有するもの、またはチャーターしたもので、参加都道府県が持参するものとする。  
会場に持ち込める各級の艇体数は、参加申込みが完了した種目の艇数とする。  
なお、各種別（種目）の計測で受付した艇及びセール等に変更、交換することはできない。  
ただし、損傷等によりテクニカル委員会が認めた場合を除く。  
また、支援者艇の持込みは参加都道府県毎に1艇とし、参加申込時に登録（記載）しなければならない。
- (4) 個人用浮揚用具（ライフジャケット）に関する規程
  - ア 体重を支えるに十分な浮力があり、体形・体重に合致したサイズ表示と浮力表示が明示されていること。
  - イ 着用した状態でセーリング等を行うのに支障なく、かつ誤った方法で着用されないように作られたものであること。
  - ウ 通常的环境条件及び油または油性品により急激な強度劣化及び浮力変化のないものであること。
  - エ 水中において、顔面を水面上で支持できるものであること。
  - オ 浮力体の抜き取り等の改造を施したり、自作したりしたものでないこと。
  - カ クラスルールに規定がある場合はクラスルールに適合したものを使用すること。

#### 4 競技上の規程及び方法

[NP]の表記は、その規則の違反は艇による抗議の根拠とならないことを意味する。これはRRS60.1(a)を変更している。

[DP]の表記は、その規則の違反に対するペナルティーをプロテスト委員会の裁量により失格より軽減することができることを意味する。

- (1) 2021-2024 セーリング競技規則（以下「RRS」という。）に定義された規則を適用する。

なお、本実施要項は、RRSにおけるレース公示に該当するものである。

RRSの定義：規則（g）に基づくその他の文書には、サポートチーム規程（STR）及び計測指示書が含まれる。

各クラス規則のセール番号及び艇体番号の同一性に関する条項並びに個人会員登録（艇及びセール登録は除く）に関する条項は適用しない。

[NP] [DP]本大会は、公益財団法人日本スポーツ協会の「国民体育大会企業協賛に関するガイドライン」（平成22年12月16日制定）に基づき、一切の広告が制限される。

- (2) 帆走するコースは、トラペゾイド・コース及び風上/風下コースを予定しており、詳細は帆走指示書に記載する。
- (3) 天候その他の事情により各種目6回のレースが実施できなかった場合でも、それぞれの種目でレースが1回以上完了していれば、その種目は成立とする。
- (4) 本大会における上告の権利は、RRS70.5(b)及び日本セーリング連盟規程5.4に基づき否認される。
- (5) 470級及び420級の各種目に使用する艇は、所定の計測証明書（艇体とセール番号が異なる場合は、それぞれの計測証明書）を持参するものとする。  
470級及び420級のセールについては、基本計測を終了しクラス規則に適合していることを示すステッカー又はスタンプ及び公式計測員のサインと計測を行った日付が記載されていること。
- (6) レースに使用する艇は、クラス規則、470級及び420級は計測証明書に合致していなければならない（RRS78参照）。さらに、レース前にテクニカル委員会による計測を受けるか、または、その承認を得たものに限られる。  
各種目共、各レース終了後に任意に抜き取り、海上または陸上で計測を行うことがある。
- (7) 計測を受けられるセールの数は、参加申込みが完了した種目につき1セットとする。ただし、国スポウインドサーフィン級は、2枚のセールの使用を許可する。  
また、異なる種別であっても同一のセール番号は使用できない。
- (8) I L C A 7級及びI L C A 6級は水上にいる間は、直径6mm、長さ8m以上のバウ・ラインをバウ・アイにつけておかなければならない。
- (9) セーリングスピリッツ級、I L C A 7級、I L C A 6級の艇は、マストトップに着脱可能な浮力体を取りつけてもよい。形状は球形に限り、1か所のロープで取り付けなければならない。ただし、コンディションにより付けた外したりしてもよい。
- (10) 国スポウインドサーフィン級は、マストの本数は制限しない。
- (11) レース前の計測時には、艇及びボードは乾燥した状態でなければならない。
- (12) 計測後の艇及びボード等は、テクニカル委員会の許可なく装備の修理及び交換をすることができない。計測済みの艇及びボード等に、破損その他事故が生じたときは、テクニカル委員会の承認により、改めて計測を受けたものに限り、使用を許されることがある。
- (13) レース艇の損傷等については、テクニカル委員会の承認後、各都道府県の責任において対応

する。

- (14) [NP] [DP]各種目のセールには、県名と県番号を付けていなければならない。県名（片面・スターボード側）は、470級、セーリングスピリッツ級、420級は1字 450mm×450mmで太さ40mm、国スポウインドサーフィン級、ILCA7級、ILCA6級は1字 380mm×380mmで太さ32mm、県番号（両面・スターボード側上位）は、1字 270mm×150mmで太さ40mmとし、色は黒色でほぼ一定の太さのラインで書かれたものであること。

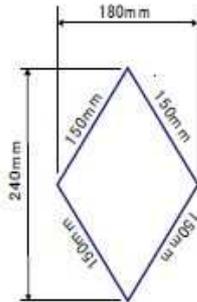
ただし、国スポウインドサーフィン級及びセーリングスピリッツ級（マイラーセール使用）のセールは、実行委員会が用意する白地のセールクロスの上に、県番号を貼付しなければならない。

なお、白地のセールクロスは受付時に配布する。配布された白地のセールクロスは加工してはならない。

- (15) [NP] [DP]セール上の識別

識別マーク（ひし形）は実行委員会が用意し、受付時に配布する。識別マークを両面の同じ位置に表示しなければならない。

なお、クラスルールに従った識別マークが表示されている場合は、そのまま使用してもよい。

種 別	種 目	色	形 状
成年女子	国スポウインドサーフィン級 ILCA6級	赤	下記サイズ以上 
少年男子	ILCA6級	青	
少年女子	420級	赤	対角線の長さ最小 250mm

- (16) [NP] [DP]選手は、乗艇する際に着用する上着（個人用浮揚用具：ライフジャケット、ハーネス、その他の衣類等）には、その背面に地色と明確に識別できる単色の文字で所属都道府県名を付けなければならない。文字は漢字とし、1文字の大きさは縦100mm以上、横80mm以上とする。

- (17) [NP] [DP]県名、県番号及び識別マークの表示位置

県名、県番号及び識別マークの表示位置、計測の手順及び提出書類、また大会期間中の装備の交換と修理に関しては、大会ホームページに掲載される計測指示書に示す。

- (18) 各種目のセールに付ける県番号は、下記のとおりとする。

1	北海道	13	東 京	25	滋 賀	37	徳 島
2	青 森	14	神奈川	26	京 都	38	愛 媛
3	岩 手	15	山 梨	27	大 阪	39	高 知
4	宮 城	16	新 潟	28	兵 庫	40	福 岡
5	秋 田	17	長 野	29	奈 良	41	佐 賀

6	山形	18	富山	30	和歌山	42	長崎
7	福島	19	石川	31	鳥取	43	熊本
8	茨城	20	福井	32	島根	44	大分
9	栃木	21	静岡	33	岡山	45	宮崎
10	群馬	22	愛知	34	広島	46	鹿児島
11	埼玉	23	三重	35	山口	47	沖縄
12	千葉	24	岐阜	36	香川		

- (19) 競技者への通告は、第 78 回国民スポーツ大会（SAGA2024）セーリング競技会ホームページ（以下「大会ホームページ」という。）に設置された公式掲示板に掲示される。公式掲示板はオンラインのみとし、ホームページの不具合等は、艇からの救済の要求の根拠とはならない。これは、RRS60.1(b)を変更している。

大会ホームページ URL : <https://www.saga2024-sailing-karatsu.com>

- (20) [NP][DP]競技者は、大会 LINE オープンチャット（以下「大会オープンチャット」という。）で情報を得ることが出来る。競技者は大会オープンチャットへ登録しなければならない。ただし、大会オープンチャットでの選手・監督・支援者からの投稿は認めない。大会オープンチャットへの登録及びオンライン手続きについては、帆走指示書に示す。

## 5 参加資格、所属都道府県及び選手の年齢基準

- (1) 総則 5 に定めるものとする。

なお、少年種別に参加できる選手には、2009 年 4 月 2 日から 2010 年 4 月 1 日までに生まれた中学 3 年生を含むものとする。

- (2) 同一人の参加は、1 都道府県の 1 種目に限る。  
(3) 監督、選手は日本セーリング連盟の有効な 2024 年メンバー登録者であること。  
(4) 当該種別選手は、次の有資格者であること。

ア 成年男子・成年女子 日本セーリング連盟バッジテスト中級 4 級以上、ただし、国スポウインドサーフィン級の選手は日本セーリング連盟ウインドサーフィン・バッジテスト 8 級

イ 少年男子・少年女子 日本セーリング連盟バッジテスト初級 5 級以上

- (5) 選手は、World Sailing 規定 19.4(a)に従うこと。  
(6) 監督は、公益財団法人日本スポーツ協会公認スポーツ指導者資格制度に基づく公認セーリングコーチ 3 または公認セーリングコーチ 4 の資格を有する者とする。

## 6 総合成績決定方法

男女総合成績（天皇杯得点）及び女子総合成績（皇后杯得点）は、競技得点と参加得点の合計とし、その得点の多い都道府県順に第 1 位から第 8 位までを決定する。

ただし、同点の場合は、その順位を共有し、次の順位を欠位とする。

(1) 競技得点

天皇杯対象種別	皇后杯対象種別	競 技 得 点
成 年 男 子 成 年 女 子 少 年 男 子 少 年 女 子	成 年 女 子 少 年 女 子	<p>470級、セーリングスピリッツ級及び420級の各種目に1位24点、2位21点、3位18点、4位15点、5位12点、6位9点、7位6点、8位3点の競技得点を与える。</p> <p>ILCA7級、国スポウインドサーフィン級及びILCA6級の各種目に1位8点、2位7点、3位6点、4位5点、5位4点、6位3点、7位2点、8位1点の競技得点を与える。</p> <p>ただし、同順位の場合は、その順位を共有し、次の順位を欠位とする。なお、得点は次の順位のものに加え、当該都道府県で等分する。</p>

(2) 参加得点

大会に参加した都道府県に10点を与える。

(3) 各種目のレース得点方法と順位

完了したレースが3レース未満の場合は、艇の得点は全レースの合計得点として順位を決定する。完了したレースが3レース以上の場合は、艇の得点は最も悪いレースの得点を除外したレースの得点合計として順位を決定する。

(4) 参加艇数

各種目の参加艇数は、2024年9月26日（木）午後3時の時点における艇数を参加艇数とする。

## 7 表 彰

- (1) 男女総合成績及び女子総合成績第1位から第8位までの都道府県に、表彰状を授与する。
- (2) 男女総合成績第1位の都道府県に、大会会長トロフィーを授与する。
- (3) 各種目の第1位から第8位までに、賞状を授与する。

## 8 参加申込み方法

- (1) 国民スポーツ大会参加申込システムにより、必要項目を入力の上、所属都道府県体育・スポーツ協会を通じて、2024年8月28日（水）までに申込手続きを完了すること。
- (2) 下記の書類は、2024年8月16日（金）までに送付すること。

申 込 先	必 要 書 類
公益財団法人日本セーリング連盟 〒160-0013 東京都新宿区霞ヶ丘町4番2号 JAPAN SPORT OLYMPIC SQUARE 9階 TEL 03-6447-4881 FAX 03-6447-4882 E-mail: kokutai@jsaf.or.jp	参加資格証明書（所定のファイルに添付） 1. 監督・選手は2024年日本セーリング連盟メンバーズカード（電子版）の写し 2. 監督は公益財団法人日本スポーツ協会公認スポーツ指導者登録証（裏面）の写し 3. 選手は日本セーリング連盟バッジテスト認定証の写し

- (3) 参加申込締切後の選手・監督の交代は、疾病、傷害、転勤等の特別な場合にのみ認めるものとし、1種目1名とする。

選手・監督の交代及び棄権については、所定の様式により下記の提出先に届けなければなら

ない。

ア 提出期日 2024年9月26日(木) 午後3時まで

イ 提出先

(ア) 公益財団法人日本セーリング連盟

〒160-0013 東京都新宿区霞ヶ丘町4番2号 JAPAN SPORT OLYMPIC SQUARE 9階  
TEL 03-6447-4881 FAX 03-6447-4882 E-mail: kokutai@jsaf.or.jp

(イ) SAGA2024実行委員会事務局

(佐賀県SAGA2024・SSP推進局)

SAGA2024競技運営チーム 国民スポーツ大会担当  
〒840-8570 佐賀県佐賀市城内一丁目1番59号  
TEL 0952-25-7405 FAX 0952-25-7354

(ウ) SAGA2024国スポ・全障スポ唐津市実行委員会事務局

(唐津市スポーツ局 国スポ・全障スポ競技課 競技担当)

〒847-8511 佐賀県唐津市南城内1番1号(大手口センタービル5階)  
TEL 0955-53-7176 FAX 0955-75-2289

なお、公益財団法人日本スポーツ協会に対しては、大会終了後、別途所定の手続きにより参加申込情報を修正すること。

## 9 参加上の注意

- (1) 参加艇及び支援者艇の会場への搬入は、2024年9月23日(月)午前9時から受け入れる。また、搬出は、9月30日(月)から10月1日(火)に実行委員会の搬出計画により行う。
- (2) 各都道府県の計測順は、9月26日(木)8:30に計測会場において、都道府県代表者による抽選で決定する。なお、抽選時に未到着の都道府県については、受付順とする。
- (3) 9月27日(金)は、海上練習を禁止する。
- (4) 支援者艇は、競技者への全ての支援を行うことができる。ただし、支援者艇は大会ホームページに掲載されるサポートチーム規程(STR)に従わなければならない。

## 10 その他

- (1) 帆走指示書は2024年7月31日(水)までに大会ホームページに公開する。  
帆走指示書についての質問は2024年8月30日(金)まで文書で受け付ける。  
質問の送り先は、日本セーリング連盟宛とする。質問についての回答は、大会ホームページの公式掲示板に掲示する。
- (2) 大会会長トロフィー返還・監督会議  
日時 2024年9月27日(金) 午後4時  
場所 佐賀県ヨットハーバー式典テント

# SAGA2024 国民スポーツ大会セーリング競技大会

## JAPAN GAMES Sailing



### 帆走指示書 (SAILING INSTRUCTIONS)

#### 1. 規則

- 1.1. 本大会は『2021-2024 セーリング競技規則』(以下『規則』という)に定義された規則を適用する。なお、SAGA2024 国民スポーツ大会セーリング競技実施要項を[レース公示](#) (以下「NoR」という。)とする。
- 1.2. 規則 70.5 及び日本セーリング連盟規程 5.4 に規定されたとおり、プロテスト委員会の判決を最終とする。
- 1.3. 本大会に適用される全ての規則において、[SP] [NP]の表記は以下を意味する。
  - a) [SP]は、レース委員会が審問無しに標準ペナルティーを適用することができる規則を意味する。これらの違反と関連するペナルティーのガイドラインは、[公式掲示板](#)に掲示される。標準ペナルティーを課された艇またはボード (以下「艇」という。)の得点略語は「STP」である。レース委員会は抗議することもでき、その場合は審問を経てプロテスト委員会の裁量でペナルティーが決定する。これは規則 63.1、A5 及び A10 を変更している。
  - b) [NP]は、この規則の違反は艇による抗議の根拠とはならないことを意味する。これは規則 60.1(a)を変更している。
- 1.4. 国スポウインドサーフィン級について、規則 B5 中の規則 61 の変更及び規則 B8 は適用しない。
- 1.5. 参加資格に係る違反及び日本アンチ・ドーピング規程第2条に定める内容に係る違反の得点等の取り扱いについては、国民スポーツ大会諸規程「[国民スポーツ大会における違反に対する処分に関する規程](#)」による。

#### 2. 帆走指示書の変更

- 2.1. 帆走指示書 (以下「SI」という。)の変更(レース・エリアの変更を含む)は、それが発効する当日の当該種目の最初の予告信号の60分以前までに、公式掲示板に掲示される。

2.2. レース日程の変更は、それが発効する前日の 19:00 までに公式掲示板に掲載される。

### 3. コミュニケーション

3.1. 競技者への通告は、[公式掲示板](#)（大会 RacingRulesOfSailing.org）に掲載される。[公式掲示板](#)はオンラインのみとし、大会 web サイトで利用できる。サイト等の不具合等は、艇からの救済の要求の根拠とはならない。これは規則 62.1(a)を変更している。

大会公式掲示板 URL: <https://www.racingrulesofsailing.org/documents/9251/event>

大会 web サイト URL: <https://www.saga2024-sailing-karatsu.com>

3.2. [DP]緊急の場合を除き、レース中の艇は、音声やデータを送信してはならず、かつ、すべての艇が利用できない音声やデータ通信を受信してはならない。ただし、レース委員会が用意するトラッキングシステムは含まない。

3.3. 海上ではレース委員会は主催団体が用意した無線機か VHF 無線で競技者に連絡を行う。詳細はサポートチーム規程（STR）に示す。

3.4. [DP][NP]競技者は、大会 LINE オープンチャットで情報を得ることが出来る。ただし、大会 LINE オープンチャットでの選手・監督・支援者からの投稿は認めない。登録については付属文書 A を参照のこと。

### 4. 行動規範

4.1. [DP]競技者は、主催団体、レース委員会、テクニカル委員会、プロテスト委員会からの合理的な要求に応じなければならない。

4.2. [SP][NP]競技者は、レース委員会により準備されたトラッキングシステムの端末機器を指定された位置に搭載しなければならない。

4.3. [SP][NP] 端末機器は、レース委員会の指示通り返却しなければならない。なお、トラッキングシステム端末機器受け渡し方法については、別途案内するものとする。

### 5. 陸上で発せられる信号

5.1. 陸上で発する信号は、本部棟 B 2 階に設置された掲揚ポールに掲揚する。

5.2. [DP][NP] 音響 1 声と共に掲揚される D 旗は、「予告信号は、A 海面は 45 分、B 海面は 30 分、C 海面は 20 分以降に発する。」ことを意味する。艇は、この信号が発せられるまで、ハーバーを離れてはならない。「D 旗」が「クラス旗」の上に掲揚された場合、その種目のみに適用する。

5.3. レース日程に示された個別のレースに対して、回答旗は掲揚しない。予告信号予定時刻の A 海面は 45 分、B 海面は 30 分前、C 海面は 20 分前までに D 旗が掲揚されない場合、そのレースの予告信号は時間の定めなく延期されている。

5.4. [DP][NP] Y 旗が掲揚された場合、規則 40.1 の規定に従うこと。

### 6. スケジュール

#### 6.1. レース日程

月 日	時間	内容
9月26日（木）	9:00～17:00	計測
9月27日（金）	8:30～10:00	計測予備日
	10:55～ 16:30～17:30	トライアルレース 監督会議
9月28日（土）	9:25～	最初の種別・種目の予告信号時刻
9月29日（日）	9:25～	最初の種別・種目の予告信号時刻
9月30日（月）	9:25～	最初の種別・種目の予告信号時刻
10月1日（火）	9:25～	最初の種別・種目の予告信号時刻

	13:00～13:30	種目別表彰式（佐賀県ヨットハーバー式典テント）
	14:00～14:30	種目別表彰式（佐賀県ヨットハーバー式典テント）
	15:00～15:40	総合表彰式（佐賀県ヨットハーバー式典テント）

また、付属文書 B にレース日程及びレース数詳細を示す。

- 6.2. 各海面の引続き行うレースは、その前のレースの各種目終了後、引続き行う。
- 6.3. 天候等の事情により、レース日程及びレース海面は、レース委員会において変更することがあり、その変更は SI 2 に従って行われる。
- 6.4. 1 つのレースまたは一連のレースがまもなく始まることを艇に注意喚起するために、予告信号を発する最低 5 分以前に音響 1 声とともにオレンジ色のスタート・ライン旗を掲揚する。
- 6.5. 当該種目の 1 日に実施する最大レース数は 4 レースとする。
- 6.6. 10 月 1 日(火)には、11 時 00 分より後に予告信号を発しない。

## 7. クラス旗

- 7.1. 各種目のクラス旗は、以下のとおりとする。

クラス旗	旗色
成年男子	
470 級	白地に青記章
ILCA7 級	白地に赤記章
国スポウインドサーフィン級	白地に青記章
成年女子	
セーリングスピリッツ級	白地に黒記章
ILCA 6 級	ピンク地に赤記章
国スポウインドサーフィン級	ピンク地に青記章
少年男子	
420 級	白地に青記章
ILCA6 級	黄色地に赤記章
少年女子	
420 級	黄緑地に青記章
ILCA6 級	黄緑地に赤記章

## 8. レース・エリア

- 8.1. 付属文書 C にレース・エリアの位置を示す。
- 8.2. レース・エリアの指示に変更がある場合、当該レースの「D 旗」掲揚までに[公式掲示板](#)に掲示される。
- 8.3. レース・エリアが付属文書 C のとおりとならなくても、艇からの救済要求の根拠とはならない。この項は、規則 62.1(a)を変更している。

## 9. コース

- 9.1. 付属文書 D の見取り図は、レグ間の概ねの角度、通過するマークの順序、それぞれのマークをどちら側に見て通過するかを含むコースを示す。
- 9.2. 予告信号以前にシグナルボートに、帆走すべきコース及び最初のレグのおおよそのコンパス方位を掲示する。
- 9.3. コースの短縮は行わない。これは規則 32 を変更している。

## 10. マーク

10.1. マークは、次のとおりとする。

レース・エリア	マーク 1, 2	3s,3p, 4s,4p	新しいマーク	スタート・マーク フィニッシュ・マーク
A 海面	ピンク色の円錐台形	オレンジ色の □ボットマーク	黄色の円錐台形	レース委員会船
B 海面	赤色の円錐台形	赤色の □ボットマーク	緑色の円錐台形	レース委員会船
C 海面	ピンク色の円錐台形か 赤色の円錐台形	オレンジ色か赤色の □ボットマーク	黄色の円錐台形か 緑色の円錐台形	レース委員会船

C 海面に使用するマークの色は、付属文書 B でレース・エリアが採用された場合に示される。

## 11. スタート

- 11.1. スタート・ラインは、スタート・マーク上のオレンジ色旗を掲揚しているマストまたはポールの間とする。
- 11.2. [DP][NP] 他のレースのスタート手順の間、予告信号が発せられていない艇は、スタート・ラインから概ね 50m以内のスタート・エリアを回避しなければならない。
- 11.3. スタート信号後 4 分以内にスタートしない艇は、審問なしに『スタートしなかった(DNS)』と記録される。これは規則 A5.1 と A5.2 を変更している。
- 11.4. 規則 30.4 の「セール番号」を「県番号」に置き換える。

## 12. コースの次のレグの変更

- 12.1. 規則 33 に基づきコースの次のレグを変更する場合、レース委員会は、次の対応を行う。
- (a) SI 10 に規定する新しいマークを設置する
  - (b) フィニッシュ・ラインを動かす
  - (c) 風下ゲートを動かす
- 12.2. 実行できれば直ぐに元のマークを除去する。その後の変更で新しいマークを置き換える場合、そのマークは元のマークで置き換える。

## 13. フィニッシュ

- 13.1. フィニッシュ・ラインはフィニッシュ・マーク上の青色旗を掲揚しているマストまたはポールの間とする。

## 14. ペナルティー方式

- 14.1. 規則 42 違反に対し、規則 P1 の「セール番号」を「県番号」に置き換え付則 P を適用する。
- 14.2. 付則 T を適用する。『レース後ペナルティー』を履行した艇は、得点略語「PRP」を用いて記録される。これは、規則 A10 を変更している。

## 15. タイム・リミットとターゲット・タイム

15.1. タイム・リミットとフィニッシュ・ウィンドウ及びターゲット・タイムは、次のとおりとする。

A 海面・B 海面

種目	レース・タイム・リミット	マーク 1 のタイム・リミット	フィニッシュ・ウィンドウ	ターゲット・タイム
470 級	60 分	25 分	12 分	40 分
セーリングスピリッツ級	60 分	25 分	12 分	30 分

420 級	60 分	25 分	12 分	40 分
ILCA7 級	60 分	25 分	12 分	40 分
ILCA6 級	60 分	25 分	12 分	40 分
国スポウインドサーフィン級	30 分	15 分	10 分	20 分

## C 海面

種目	レース・タイム・リミット	マーク 1 のタイム・リミット	フィニッシュ・ウィンドウ	ターゲット・タイム
470 級	40 分	18 分	12 分	30 分
セーリングスピリッツ級	40 分	18 分	12 分	20 分
420 級	40 分	18 分	12 分	30 分
ILCA7 級	40 分	18 分	12 分	30 分
ILCA6 級	40 分	18 分	12 分	30 分
国スポウインドサーフィン級	30 分	15 分	10 分	20 分

- 15.2. 規則 32.1 に加え、マーク 1 のタイム・リミット内に 1 艇もマーク 1 を通過しなかった場合、レースは中止される。
- 15.3. 先頭艇フィニッシュ後、フィニッシュ・ウィンドウ内にフィニッシュしない艇は DNF と記載される。この項は規則 35 と A4、A5.1、A5.2 を変更している。
- 15.4. ターゲット・タイムどおりとならなくても、救済要求の根拠とはならない。これは規則 62.1(a)を変更している。

## 16. 審問の要求

- 16.1. 抗議及び救済または審問再開の要求は、大会 RacingRulesOfSailing.org (以下 RRS.org) のオンラインフォーム "[Hearing Request \(審問要求書フォーム\)](#)" により、適切な制限時間内にプロテスト委員会事務局に提出しなければならない。ただし、オンラインフォームにより提出することが困難な場合には、プロテスト委員会事務局で入手できる用紙に記入し、同事務局に持参して提出することができる。
- 16.2. それぞれの種別・種目に対して、抗議締め切り時刻はその日の当該種別・種目の最終レース終了後、またはレース委員会が、「本日はこれ以上レースを行わない」という信号を発した後、どちらか遅い方から下記に示す時間とする。ただし、プロテスト委員会の裁量により、この時刻を延長することがある。公式掲示板の「[抗議締め切り時刻通告](#)」より確認することができる。

レース・エリア	時間
A 海面	80 分
B 海面	60 分
C 海面	40 分

- 16.3. 審問の当事者であるか、または証人として名前があげられている競技者に審問のことを知らせるため、抗議締め切り時刻後 30 分以内に通告を[公式掲示板](#)に掲示する。審問は本部棟 B 1 階のプロテスト審問室にて公式掲示板に掲示した時刻に始められる。
- 16.4. レース委員会、テクニカル委員会またはプロテスト委員会による抗議の通告を、規則 61.1(b)に基づき艇に伝えるために[公式掲示板](#)に掲示する。
- 16.5. SI 14.1 に基づき規則 42 違反に対するペナルティーを課せられた艇のリストを[公式掲示板](#)に掲示する。

- 16.6. 規則 50.1(b) および各クラス規則の違反に対するペナルティーは、プロテスト委員会の裁量により失格より軽減することができる。
- 16.7. 審問再開は、判決を通告された日の翌日の 9 時 00 分までの間に限り求めることができる。ただし、10 月 1 日(火)に判決を通告された場合には、判決を通告されてから 15 分以内とする。これは、規則 66 を変更している。
- 16.8. 10 月 1 日(火)では、プロテスト委員会の判決に基づく救済要求は判決の掲示から 15 分以内でなければならない。これは規則 62.2 を変更している。
- 16.9. SI17.2 に基づく得点照会の結果として要求する根拠を知った後に提出された救済要求は、以下の場合に限り、規則 62.2 の期限を満たしている。
  - a) 得点照会は、得点またはシリーズ成績が[公式掲示板](#)に掲示された後、常識的にできるだけ早く提出された。かつ
  - b) 救済要求は、得点照会に対するレース委員会からの回答が[公式掲示板](#)に掲示された後、常識的にできるだけ早く提出された。
 これは、規則 62.2 を変更している。

## 17. 得点

- 17.1. 本大会は各種目とも 6 レースが予定され、それぞれ 1 レースの完了をもって成立する。
- 17.2. 艇は、公式掲示板に掲示された得点またはシリーズ成績に誤りがあると判断した場合、大会 RRS.org のオンラインフォーム“[Scoring Inquiry \(成績照会のフォーム\)](#)”をレース委員会事務局に提出することで、得点及び成績の訂正を要請する事ができる。ただし、オンラインフォームにより提出することが困難な場合には、レース委員会事務局に持参して提出することができる。
- 17.3. カットレース
  - a) 3 レース未満しか完了しなかった場合、艇のシリーズの得点は、レース得点の合計とする。
  - b) 3 レース以上完了した場合、艇のシリーズの得点は、最も悪い得点を除外したレース得点の合計とする。
- 17.4. 規則 A5 の「シリーズに参加した艇の数」とは、NoR 6(4)に示す艇数とする。なお、国民スポーツ大会諸規程「国民スポーツ大会における違反に対する処分に関する規程」による違反艇は、シリーズに参加した艇の数から除外する。
- 17.5. 各種目とも、上記得点方法に従い順位を決定し、下記の種目別の競技得点を与える。ただし、同順位の場合は、その順位を共有し、次の順位を欠位とする。なお、競技得点は次の順位のものに加え、当該都道府県で等分する。

470 級、セーリングスピリッツ級、420 級

順位	1 位	2 位	3 位	4 位	5 位	6 位	7 位	8 位
競技得点	24 点	21 点	18 点	15 点	12 点	9 点	6 点	3 点

ILCA7 級、ILCA6 級、国スポウインドサーフィン級

順位	1 位	2 位	3 位	4 位	5 位	6 位	7 位	8 位
競技得点	8 点	7 点	6 点	5 点	4 点	3 点	2 点	1 点

- 17.6. 総合成績決定方法は、下記のとおりとする。
  - a) 大会に参加した都道府県に参加得点 10 点を与える。
  - b) 男女総合成績（天皇杯得点）及び女子総合成績（皇后杯得点）は、SI 17.5 の種目別の競技得点と参加得点（10 点）を合計し、その合計得点が多い都道府県を上位とし第 1 位から第 8 位を決定する。ただし、同点の場合は順位を共有し、その次の順位を欠位とする。
- 17.7. 参加資格違反及び日本アンチ・ドーピング規程違反が確定した艇は、順位を取り消され、違反艇より下位の艇の順位を繰り上げる。またシリーズに参加した艇の数からも削除され、各レースの艇の順位及び得点も変更する。

## 18. [NP]安全規定

### 18.1. [SP]チェックアウトチェックイン

- a) レースに参加しようとする艇は、出艇申告書に艇長が署名しなければならない。また、レースに参加（出艇）しない艇は、その日の予告信号予定時刻の30分前までにリタイア DNC 申告書に艇長若しくは監督（代理）が署名しなければならない。
- b) 帰着した艇は、帰着後速やかに、また、その日の当該種別・種目の最終レース終了後、またはレース委員会が、「本日はこれ以上レースを行わない」という信号を発した後、どちらか遅い方から下記に示す時間以内に帰着申告書に艇長が署名しなければならない。

レース・エリア	時間
A 海面	80 分
B 海面	60 分
C 海面	40 分

- c) 水上でリタイアした艇は、実行可能であればレース・エリアを離れる前に SI 21 の運営船にその旨を伝えること。また、帰着後速やかに SI 18.1.a のリタイア DNC 申告書に艇長若しくは監督（代理）が署名しなければならない。また、帰着した競技者は、抗議締切り時間内にレガッタオフィスにて「帰着申告書」にサインしなければならない。
- d) 一度ハーバーに帰着した艇（SI 18.1.c）及び、SI 18.1.a のリタイア DNC 報告の手続きを行った艇が再度レースに参加しようとする（出艇する）場合、競技者はリタイア DNC 申告書に出艇の申告署名をしなければならない。

18.2. [DP]レース中でない艇は、レース中の艇から離れていなければならない。

18.3. 救助を必要とする艇の乗員は、頭上で手を大きく振って救助要請を行うこと。

18.4. レース委員会またはプロテスト委員会は、危険な状態にあると判断した艇に対し、リタイアの勧告及び強制救助を行うことができる。これは艇による救済要求の根拠にはならない。これは規則 62.1(a)を変更している。

18.5. レース委員会が V 旗を掲揚した場合、支援者艇に対する救助要請を示しており、支援者艇はレース委員会の指示に従わなければならない。（サポートチーム規程（STR）5.1 参照）

## 19. [DP]装備の交換

19.1. 損傷または紛失した装備の交換は、テクニカル委員会の承認なしでは許可されない。交換の要請は、最初の妥当な機会に大会 RRS.org のオンラインフォーム“[Equipment Substitution Form（装備交換フォーム）](#)”にてテクニカル委員会に行われなければならない。ただし、オンラインフォームにより提出することが困難な場合には、テクニカル委員会事務局で入手できる用紙に記入し、同事務局に持参して提出することができる。また、交換申請の詳細は計測指示書に示す。

## 20. [DP] 装備と計測のチェック

20.1. 水上で艇はフィニッシュ後、テクニカル委員会より、検査のために直ちに指定されたエリアに向かうことを指示されることがある。陸上では、艇または装備がクラス規則、NoR および SI に従っていることを確認するため、いつでも検査されることがある。

## 21. 運営船

21.1. 運営船の標識は次の通りである。

運営船	識別旗
競技委員会船	白地に黒字「VIP」
レース委員会船	白地(文字なし)

プロテスト委員会船	赤地(文字なし)
テクニカル委員会船	白地に黒字「T」
救助船	緑地(文字なし)
報道船	白地に黒文字「報」
警戒船	緑地(文字なし)

## 22. 支援者艇

22.1. 支援者艇は、サポートチーム規程（STR）に従わなければならない。

## 23. ゴミの処分

23.1. ゴミは支援者艇または運営船に渡してもよい。

## 24. 賞

24.1. 男女総合成績（天皇杯）及び女子総合成績（皇后杯）の第1位から第8位までの都道府県に賞状を授与する。

24.2. 男女総合成績第1位（天皇杯）の都道府県に大会会長トロフィーを授与する。

24.3. 各種目の第1位から第8位までに賞状を授与する。

## 25. リスク・ステートメント

25.1. 規則 3 には『レースに参加するか、またはレースを続けるかについての艇の決定の責任は、その艇にのみある。』とある。大会に参加することによって、それぞれの競技者は、セーリングには内在するリスクがあり、潜在的な危険を伴う行動であることに合意し、認めることになる。これらのリスクには、強風、荒れた海、天候の突然の変化、機器の故障、艇の操船の誤り、他艇の未熟な操船術、バランスの悪い不安定な足場、疲労による傷害のリスクの増大などがある。セーリング・スポーツに固有なのは、溺死、心的外傷、低体温症、その他の原因による一生消えない重篤な傷害、死亡のリスクである。

## 26. 肖像権

26.1. 競技者は、本大会に参加することにより、大会期間中の競技者または装備に関する動画、スチール写真及び撮影された映像またはその製版について、対価を求めることなく、主催団体に独自の判断で使用する権利を与えるものとする。

## 27. 故意または過失によって生じた損害の補償

27.1. 主催団体は、競技者または支援者に対して、その故意または過失によって生じたすべての損害の補償を命じることができる。その損害の補償に関しては、競技委員会の査定に従うものとする。

## SI に関する質問

SI に関する事前の質問は、令和6年8月30日（金）までは文書で受け付ける。

質問の送り先は、次のとおりとする。それ以降は、大会期間中に公式掲示板のオンラインフォーム「[オフィシャルへの質問](#)」により、提出することができる。質問についての回答は公式掲示板に掲載される。

<送付先> 公益財団法人日本セーリング連盟

〒160-0013 東京都新宿区霞ヶ丘町4-2 JAPAN SPORT OLYMPIC SQUARE 9階902号室

Email [jimukyoku@jsaf.or.jp](mailto:jimukyoku@jsaf.or.jp)

## 付属文書 A リンク先

### ◇大会ホームページのリンク URL

<https://www.saga2024-sailing-karatsu.com>



### ◇大会 LINE オープンチャットのリンク URL

[SAGA 国スポ 2024](#)



- ・大会 LINE オープンチャットへの登録は1艇 最低1名とする。
- ・選手の登録名は「県番号種別種目」とするが、下記表の通りそれぞれ省略した表記とする。

種別	種目	登録用：省略した表記	例：佐賀県の場合
成年男子	470 級	県番号 成男 470 スkipパー	41 成男 470 s
		県番号 成男 470 クルー	41 成男 470 c
	ILCA7 級	県番号 成男 L	41 成男 L
	国スポウインドサーフィン級	県番号 成男 WS	41 成男 WS
成年女子	セーリングスピリッツ級	県番号 成女 SS スkipパー	41 成女 SS s
		県番号 成女 SS クルー	41 成女 SS c
	ILCA6 級	県番号 成女 LR	41 成女 LR
	国スポウインドサーフィン級	県番号 成女 WS	41 成女 WS
少年男子	420 級	県番号 少男 420 スkipパー	41 少男 420 s
		県番号 少男 420 クルー	41 少男 420 c
	ILCA6 級	県番号 少男 LR	41 少男 LR
少年女子	420 級	県番号 少女 420 スkipパー	41 少女 420 s
		県番号 少女 420 クルー	41 少女 420 c
	ILCA6 級	県番号 少女 LR	41 少女 LR

- ・ 監督・コーチの登録名は「県番号名字」とする。(例：佐賀県の鈴木監督→ 41 鈴木 )
- ・ 県番号、種別、種目はマスをあけずに続けて入力し、英数字は半角とする。
- ・ LINE での質問、問い合わせは受け付けない。
- ・ 登録に必要なパスワードは申し込み手続き締め切り後、各県連宛メールにて送付する。なお、選手・監督・コーチ以外へのパスワードの開示は厳禁とする。

◇大会公式掲示板 URL

<https://www.racingrulesofsailing.org/documents/9251/event>

大会 RRS.org QR コード

[公式掲示板](#)



[得点照会フォーム](#)



[審問要求書フォーム](#)



[装備交換フォーム](#)



[審問予定](#)



[審問の判決](#)

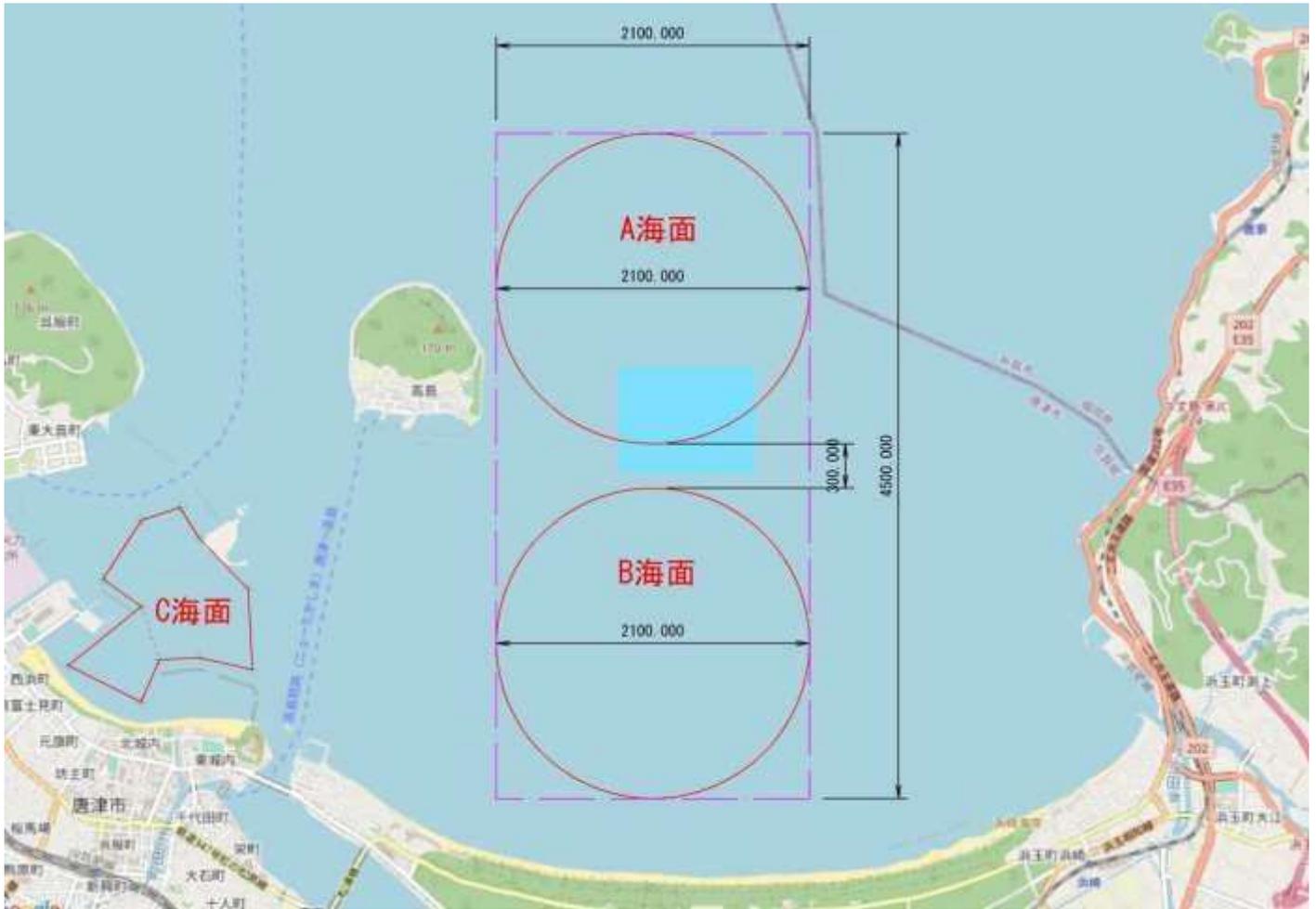


## 付属文書 B レース日程及びレース数

種別	9月27日(金)		9月28日(土)		9月29日(日)		9月30日(月)		10月1日(火)	
	種目	レース・エリア 予告信号時刻	レースNO	レース・エリア 予告信号時刻	レースNO	レース・エリア 予告信号時刻	レースNO	レース・エリア 予告信号時刻	レースNO	レース・エリア 予告信号時刻
成年男子	470級	A 12:55	R1 R2	A 12:55	R1 R2	A 9:25	R3 R4	A 12:55	R5 R6	
		A 13:02	R1 R2	A 13:02	R1 R2	A 09:32	R3 R4	A 13:02	R5 R6	
	国スポウインドサーフィン級	B 12:55	R1 R2	B 14:25	R1 R2	B 14:25	R3 R4	B 13:55	R5 R6	
		B 11:55	R1 R2	B 11:55	R1 R2	B 9:25	R3 R4	B 10:55	R5 R6	
成年女子	ILCA6級	A 11:09	R1 R2	A 9:39	R1 R2	A 13:09	R3 R4	A 9:39	R5 R6	
		B 13:02	R1 R2	B 14:32	R1 R2	B 14:32	R3 R4	B 14:02	R5 R6	
	420級	A 10:55	R1 R2	A 9:25	R1 R2	A 12:55	R3 R4	A 9:25	R5 R6	R6
		B 10:55	R1 R2	B 9:25	R1 R2	B 11:55	R3 R4	B 9:25	R5 R6	R6
少年男子	420級	A 11:02	R1 R2	A 9:32	R1 R2	A 13:02	R3 R4	A 9:32	R5 R6	R6
		B 11:02	R1 R2	B 9:32	R1 R2	B 12:02	R3 R4	B 9:32	R5 R6	R6
	ILCA6級		TR		TR		TR		TR	
			TR		TR		TR		TR	

※TR トライアルレース

## 付属文書C レース・エリア



A海面とB海面の位置は、重ならない範囲で、天候等の事情を勘案してエリアを設定する。

付属文書 D コース図

**I**

Course: Inner Trapezoid

Signal	Mark Rounding Order
I2	Start - 1 - 4s/4p - 1 - 2 - 3p - Finish
I3	Start - 1 - 4s/4p - 1 - 4s/4p - 1 - 2 - 3p - Finish
I4	Start - 1 - 4s/4p - 1 - 4s/4p - 1 - 4s/4p - 1 - 2 - 3p - Finish

**O**

Course: Outer Trapezoid

Signal	Mark Rounding Order
O2	Start - 1 - 2 - 3s/3p - 2 - 3p - Finish
O3	Start - 1 - 2 - 3s/3p - 2 - 3s/3p - 2 - 3p - Finish
O4	Start - 1 - 2 - 3s/3p - 2 - 3s/3p - 2 - 3s/3p - 2 - 3p - Finish

**LG**

Course: Windward/Leeward

Signal	Mark Rounding Order
LG2	Start - 1 - 4s/4p - 1 - 4s - Finish
LG3	Start - 1 - 4s/4p - 1 - 4s/4p - 1 - 4s - Finish
LG4	Start - 1 - 4s/4p - 1 - 4s/4p - 1 - 4s/4p - 1 - 4s - Finish

**LR**

Course: Windward/Leeward

Signal	Mark Rounding Order
LR2	Start - 1 - 4s/4p - 1 - 4p - Finish
LR3	Start - 1 - 4s/4p - 1 - 4s/4p - 1 - 4p - Finish
LR4	Start - 1 - 4s/4p - 1 - 4s/4p - 1 - 4s/4p - 1 - 4p - Finish

# SAGA2024 国民スポーツ大会セーリング競技大会

## サポートチーム規程（STR）

### 1 総則

- 1.1 このサポートチーム規程（以下「STR」という。）は、支援者が大会の会場内（陸上及び水上）にいる間常時適用される。
- 1.2 STR は、SAGA2024 国民スポーツ大会セーリング競技実施要項(レース公示、以下「NoR」という。)に規定された大会の期日（計測およびトライアルレースを含む）の間適用される。
- 1.3 STR においては、次の定義が適用される。
  - 1.3.1 “支援者（サポートパーソン）”とは、規則 定義にて定められた人物をいう。
  - 1.3.2 “サポートチーム”とは、各都道府県連盟及びその競技者に関連している支援者の集団をいう。
  - 1.3.3 “支援者艇（サポートボート）”とは、サポートチームの管理又は監督下にある船舶をいう。
- 1.4 主催団体は、いつでも支援者艇が STR に従っているかを確認するために検査を行うことがある。支援者艇の責任者は検査に協力しなければならない。
- 1.5 主催団体は、いつでも STR を変更することがある。変更は公式掲示板に掲示される。
- 1.6 主催団体は、その裁量で、適切でないとする支援者艇の登録を取り消すことがある。
- 1.7 全ての支援者、ドライバー及び支援者艇は、9月26日9時から開始され、9月27日の9時半までにレース委員会事務局で登録し、識別旗の貸与を受けなければならない。また、貸与された識別旗は、10月1日の13時までにはレース委員会事務局に返却しなければならない。
  - 1.7.1 各支援者艇はインシデント毎に少なくとも 1 億円（又は同等の）を補償する有効な第三者賠償責任保険に加入していなければならない。
  - 1.7.2 支援者艇のドライバーは登録されたサポートチームのメンバーでなければならない。
  - 1.7.3 主催団体が用意した無線機がある場合、支援者艇の責任者は出艇申告から帰着申告まで、通信可能な状態で無線機を保持しなければならない。（別図参照）
  - 1.7.4 上記の無線に加え国際 VHF の搭載が可能な支援者艇は、国際 VHF も支援者艇に登載することを推奨する。その場合のチャンネルは **74ch** とする。
- 1.8 支援者艇は、水上では常時、主催団体から貸与された識別旗を水面より 1.5m 以上の高さで支援者艇に掲揚しなければならない。

### 2 搬入および停泊

- 2.1 支援者艇は、艇を水面に浮かべる際は指定された斜路／区域を使用すること。艇を浮かべたら、トレーラーは直ちにトレーラー置き場又は主催団体に指示された場所に移動すること。
- 2.2 登録された支援者艇のみがセーリング競技の会場に入ることを許される。
- 2.3 使用している場合を除き、支援者艇は会場で割り当てられたエリアに適切に係留するものとする。

### 3 安全

- 3.1 支援者艇は、法定備品に加えて以下を艇に積み込んでいなければならない。
  - 3.1.1 主催団体から貸与された識別旗
  - 3.1.2 主催団体が用意した無線機がある場合、その無線機
  - 3.1.3 レース海面の深さに対応する適切なアンカー及び索具(ロープ等)
  - 3.1.4 曳船用ロープ(長さ15メートル以上で直径10ミリメートル以上、2本)
  - 3.1.5 競技者確保済を識別するための主催団体が用意するカラーリボン
- 3.2 エンジンを使用しギアが入っている時は、常時キルコードをしっかりとドライバーに取り付けていなければならない。
- 3.3 乗員はレスキュー活動ができる体制でなければならない、また艇の定められた最大搭載人員制限の1/2を超えてはならない。
- 3.4 支援者艇の登録されたドライバーを含む支援者は、レースオフィシャルズの権限にて与えられた指示に従わなければならない。これには要請された場合の救助作業を含む。
- 3.5 支援者艇のその当日のドライバーは、出艇・帰着申告所で出艇・帰着申告をしなければならない。また、当日の乗員全ての名前を出艇申告書に記載しなければならない。
- 3.6 主催団体から貸与される無線機は、出艇申告時に受け取り、帰着申告時に返却しなければならない。
- 3.7 支援者艇は、競技者同様にSI5.2に従わなければならない。

### 4 支援者艇の待機エリア及び制限エリア

- 4.1 支援者艇の待機エリアを付図1に示し、制限エリアを付図2に示す。
- 4.2 支援者艇は最初にスタートする種別・種目の準備信号から一連のレースの最後にスタートする種別・種目のスタート信号までの間、待機エリアのコース・サイドではない側にいなければならない。
- 4.3 支援者艇は最初にスタートする種別・種目の準備信号からすべての艇がフィニッシュまたはリタイアするか、またはレース委員会が延期、ゼネラル・リコールもしくは中止の信号を発するまで制限エリアに侵入してはならない。但し、危険な状態にある艇または乗員の救助を行う場合やレース委員会またはプロテスト委員会の要請があった場合を除く。
- 4.4 引き続きレースが行われる場合には、支援者艇は引き続きSTR 4.2に従わなければならない。
- 4.5 シグナルポート及び運営船にV旗が掲揚された場合、支援者艇は救助のために制限エリアに入ることができる。

### 5 特別安全規程

- 5.1 レース委員会は、競技者の安全確保のため支援者艇に救助協力を要請する場合、V旗を掲揚する。その場合、支援者艇はレース委員会からの無線による指示に従い、競技者の救助に協力しなければならない。これは規則37を変更している。
- 5.2 STR1.7.3にて主催団体から貸与された無線機は、常時スイッチを入れた状態で保持し、指定のチャンネルで安全交信のみに用いること。
- 5.3 乗員を救助し艇を艇体放棄する場合、支援者艇はその艇のバウへSTR3.1.5に規定されたカラーリボンを取り付けること。
- 5.4 V旗掲揚の有無に関わらず、支援者艇は危険な状態にある艇または乗員を救助しなければならない。

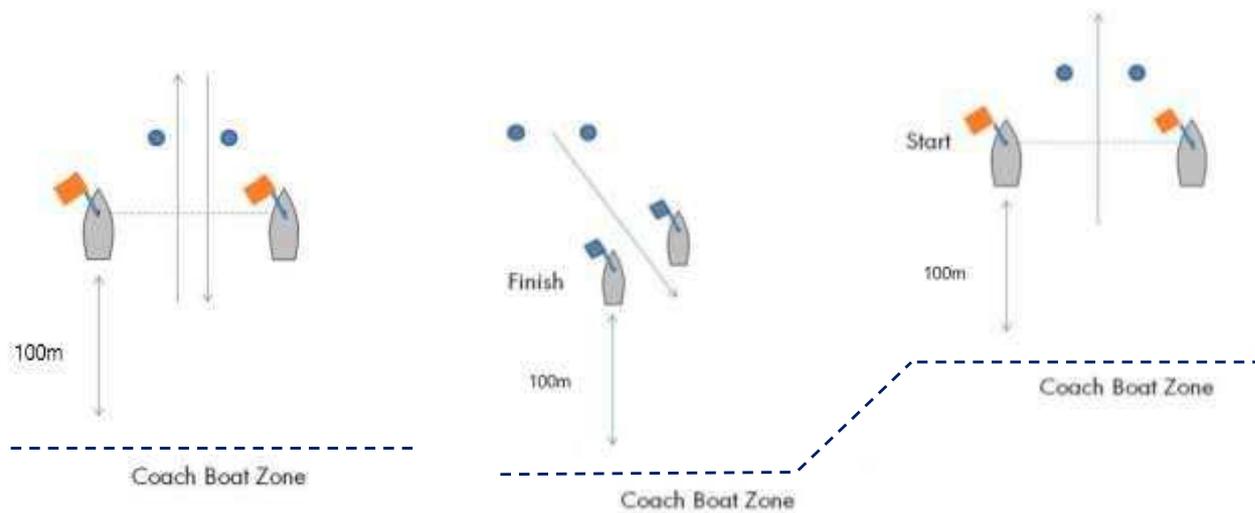
## 6 支援者艇の電子機器

- 6.1 支援者艇は、STR1.7.3 および 1.7.4 に記載された無線機のみ搭載することができる。
- 6.2 支援者艇及びサポートチームメンバーは、下記の電子機器以外は持ち込み使用してはならない。  
携帯電話、ビデオカメラ、写真機、風速計、風速計器、電子位置システム（GPS）
- 6.3 主催団体より電子位置システムが提供された場合、主催団体の指示に従い水上にいる間常時搭載すること。

## 7 支援者艇の責務

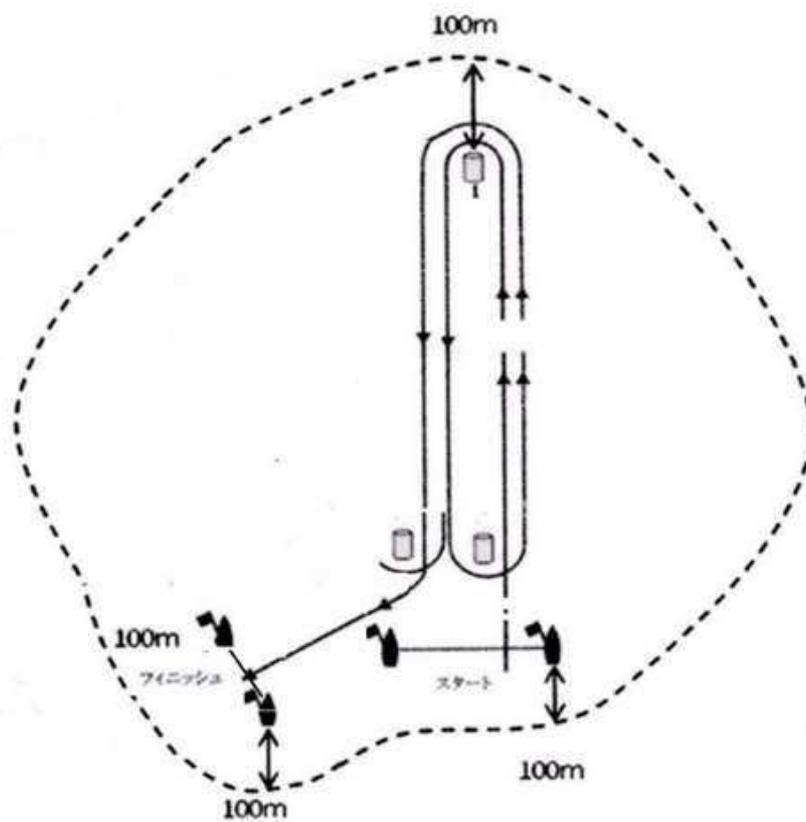
- 7.1 支援者艇及び支援者艇のメンバーは、NOR 及び SI に規定された事項のほか、STR1.7 の登録と同時に STR が適用されることに同意したものとする。

付図 1 待機エリア

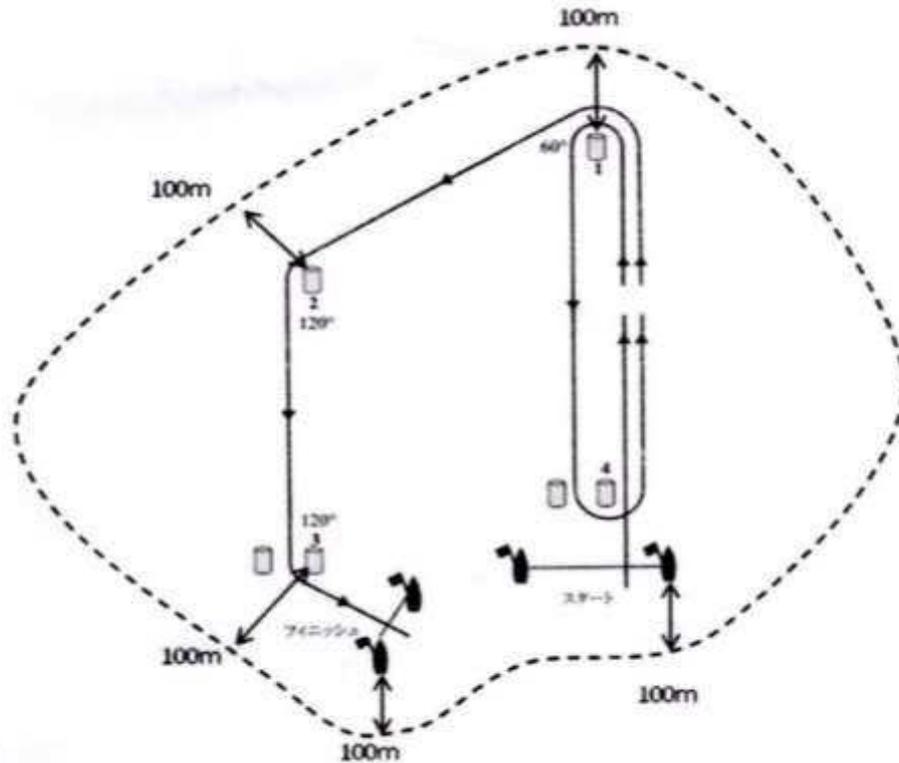


付図 2 制限エリア

上下コース



## トラペジッドコース



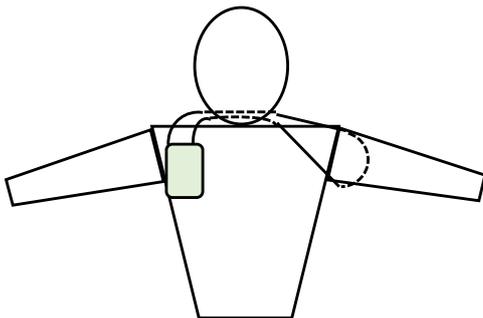
### 別図

#### 無線機の装着方法(参考)

下図のように装着していただくと、ドライビング中でも聞き取り易くなります。

※右の耳元に無線機を保持する場合

- ① ベルトを左の腕にベルトを通す
- ② 無線機を頭の後ろを回し右の胸の前に降ろす
- ③ 右手で操作しやすい位置（鎖骨の辺り）にベルトの長さを調節



☆無線機が耳元にあるため、リポートを運転していても傍受が可能

## 計測指示書

### 1 一般要件

1.1 本大会に参加するすべての艇はクラス規則及び本指示書、レース公示、帆走指示書に含まれる規則に従い検査される。ただし、各規則間で検査上矛盾が生じる場合はクラス規則及び本指示書が優先する。

### 1.2 装備の検査（大会計測）の流れ

流れ	留意事項
①受付（総務報道部）	識別マーク（ひし形）・白地シール
②計測シートを用意する	太線枠内を記入しておくこと。（大会 HP テクニカル委員会頁より各自ダウンロードし A4 サイズにて印刷すること）
③計測順番について	各クラスとも実施要項に基づき抽選された順番となる （SS は事前に抽選された順番となります。HP に記載） 9月26日（木）の10:30～10:45 と 12:00～13:00 15:00～15:15 は休憩時間とし計測は行わない。（時間は前後する可能性がある）
	計測日程は実施要項を参照
④必要書類用意	1.4 を参照
⑤各計測所にて受付	1.3 を参照
⑥検査	2 及び 5 を参照

### 1.3 計測受付・計測場所について（変更になる場合もある）

各計測場所前に各計測受付所があります。

470級	大型テント
420級	大型テント
国スポウインドサーフィン級	ウインドサーフィン計測所テント
セーリングスピリッツ級	バース計測（計測員が巡回計測）
ILCA 6級 及び ILCA 7級	シングルハンド計測所 ハーバー作業棟

### 1.4 必要書類について

艇種	確認書類	
	計測シート	計測証明書類
470級	必要	MC/MF（計測証明書）
420級	必要	MC/MF（計測証明書）
セーリングスピリッツ級	必要	不要
国スポウインドサーフィン級	必要	不要
ILCA 6級	必要	不要
ILCA 7級	必要	不要

※ 艇体とセール番号が異なる場合は、それぞれの「計測証明書」を持参すること。

※ 計測シートは、太枠内を事前に記入しておくこと。

※ MC/MFは必ず原本を持参のこと。

## 2 装備の検査（大会計測）

### 2.1 検査対象装備品について

- ① 470級、420級、セーリングスピリッツ級、ILCA6級、ILCA7級  
計測する艇体、セール、スパー、艀装品は、1艇1セットとする。
- ② 国スポウインドサーフィン級  
1つのボードに2枚のセールの使用が許可される。  
マストの本数、センターボード・フィンの枚数に制限は無い。使用予定の全ての計測を行う。

### 2.2 検査する艇体、セール、スパー、艀装品等について

#### (1) 470級の検査準備

- ① 艇は乾燥状態でなければならないが、雨天時は別途TCより指示を行う。
- ② マストを倒し、センターボードを艇体から取り外し、ラダーはラダーストックから取り外して持ち込むこと。
- ③ セールは本指示書6に規定されている位置に県名・県番号シールを貼付しておくこと。
- ④ 個人用浮揚用具（PFD；スキッパー、クルー兩名）及び曳航ロープの確認を行う。PFDはレースで使用するものを持参のこと。

#### (2) 420級の検査準備

- ① 艇は乾燥状態でなければならないが、雨天時は別途TCより指示を行う。
- ② マストを倒し、センターボードを艇体から取り外し、ラダーはラダーストックから取り外して持ち込んで下さい。
- ③ セールは本指示書に規定されている位置に県名・県番号シールを貼付しておくこと。少年女子420級は、クラスルールに基づき本指示書6に規定された赤色ひし形の識別マークも貼付しておくこと。
- ④ 個人用浮揚用具（PFD；スキッパー、クルー兩名）及び曳航ロープの確認を行う。PFDはレースで使用するものを持参のこと

#### (3) セーリングスピリッツ級の検査準備

- ① 完全艀装状態で実施する。ただし、セールについては当日指示する。
- ② 曳航用ロープの長さをすぐに計測できるように準備をしておくこと。
- ③ 年登録証の貼り付けを確認しておくこと。
- ④ セールには、本指示書6に規定されている位置に県名・県番号シールを貼付しておくこと。
- ⑤ 個人用浮揚用具（PFD；スキッパー、クルー兩名）の確認を行う。レースで使用するものを持参のこと。

#### (4) 国スポウインドサーフィン級の検査準備

- ① ボードは乾燥状態でなければならないが、雨天時は別途TCより指示を行う。
- ② センターボード、フィンは、外した状態とする。
- ③ フィンは使用するものをすべて提示すること。ボードの重量計測に用いるフィンは最も軽いものとする。
- ④ センターボードは使用するものをすべて提示すること。ボードの重量計測に用いるセンターボードは最も軽いものとする。
- ⑤ セールはエリア計測を行なえる状態のこと。（2枚/1艇まで使用許可）
- ⑥ セールは本指示書6に規定されている位置に県名・県番号シールを貼付しておくこと。
- ⑦ 成年女子ウインドサーフィン級は、赤色ひし形の識別マークも貼付しておくこと。
- ⑧ 個人用浮揚用具（PFD）の確認を行う。レースで使用するものを持参のこと。

#### (5) ILCA6級・ILCA7級の検査準備

- ① ボトムマストを立て、ブームをセットした状態でロープ類を艀装し、トップマスト、センターボード、ラダー一式、バテン一式は艇体と一緒に持参のこと。クラスステッカーが見えるようにしておくこと。

- ② コンパスを使用する選手はコンパスを持参すること。
  - ③ セールには本指示書 6 に規定されている位置に県名・県番号シールを貼付しておくこと。  
成年女子 ILCA 6 級は、実施要項に規定された赤色ひし形の識別マークをクラスルールに基づき貼付しておくこと。  
少年男子 ILCA 6 級は、実施要項に規定された青色ひし形の識別マークをクラスルールに基づき女子識別マークと同じ位置に貼付しておくこと。
  - ④ 個人用浮揚用具（PFD）及び曳航ロープの確認を行う。レースで使用するものを持参のこと。
- (6) 計測がスムーズに行えるよう、検査に不要なものはおろしておく、セールはバッグから取り出しておく等準備しておくことは選手の義務である。

### 3 検査が済んだ艇

- (1) 検査に合格した場合、「計測シート」は返却しない。
- (2) 不合格の場合、「計測シート」を返却する。不合格箇所を修正後に計測シートを持参のうえ計測受付を行い指示に従うこと。
- (3) 検査が終了した装備にはテクニカル委員会によって検査済み証（ステッカーまたはスタンプ）が付される。
- (4) 検査が終了した艇体、ボード、艀装品及びセールはテクニカル委員長の書面による許可無く決められたエリアから持ち出してはならない。

### 4 艇の交換・修理について

#### 4.1 変更

艇が大会計測（検査）を完了した後、通常行われるフィッティング、整備、調整を除き、変更を行ってはならない。

#### 4.2 交換・修理

[佐賀国スポ HP](https://www.saga2024-sailing-karatsu.com/) (URL : <https://www.saga2024-sailing-karatsu.com/>) より競技関連情報→各種申請→[装備品の交換](#)より入力し、申請すること。(racingsrulesofsailing.org 佐賀国スポのページに移動します。)

オンラインフォームにより行うことが 困難な場合には、「テクニカル委員会」（ハーバー北側本部棟裏のユニットハウス）で「装備品の交換」用紙を受け取り、記入後に「テクニカル委員会」に提出すること。

- ① 「テクニカル委員会」が申請を確認後、依頼者に連絡をおこなう。
- ② 修理の手配は各自で行うことテクニカル委員会は修理のアドバイス等を行わない。
- ③ 修理完了後に、「テクニカル委員会」にて交換・修理完了確認、または再計測を行う。

注1 艇体、ボード、艀装品及びセールを交換・修理しようとする艇は、上述の通り、必ず「テクニカル委員会」に申請した後に、交換・修理を行うこと。

注2 「テクニカル委員会」への「装備品の交換」の申請の受付は、その日の最終レース終了後、またはレース委員会が「本日はこれ以上レースを行わない」という信号を発した後のどちらか遅い方から70分まで、若しくは18時までの遅い方とする。  
それ以降の申請については翌日8時より受付する。

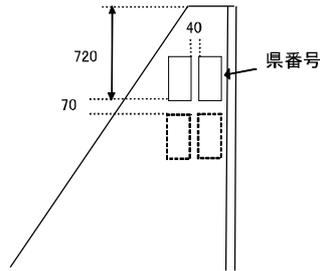
### 5 レース後の検査

各種目とも、各レース終了後に、海上または陸上にて確認検査を行うことがある。対象となった艇は速やかに計測員の指示に従い、確認検査を受けること。正当な理由なく確認検査を受けない艇は抗議の対象となる。

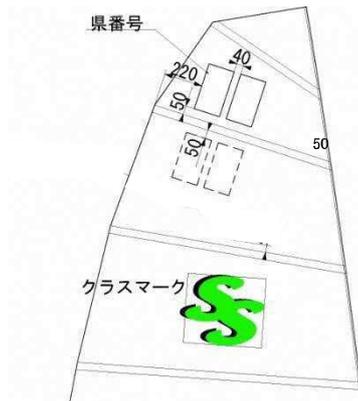
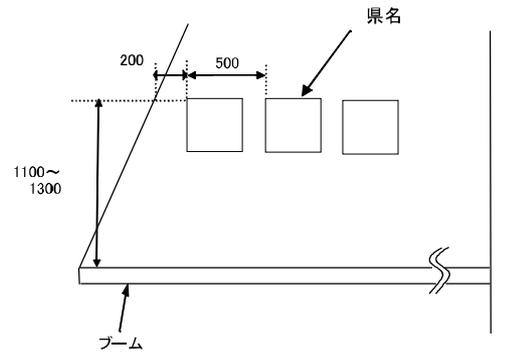
## 6 セール上の識別

- (1) 件名、県番号および識別マークの詳細は実施要項 4 競技上の規定及び方法 による。
- (2) 県名、県番号および識別マーク（ひし形）の表示位置  
表示位置は、原則として次図による。ただし、クラスや国籍を示す記号及びセール番号と重ならないこと。  
1桁の県番号の場合は、2桁県番号表示位置の中間に貼り付けること。  
また、各寸法については多少の誤差は許される。(単位：mm)

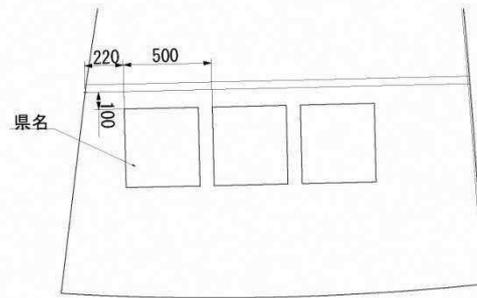
470 級 県番号表示位置



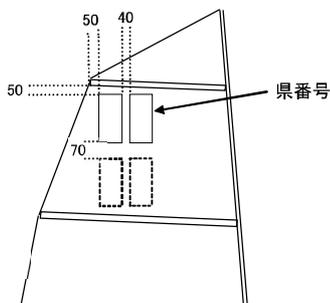
470 級・セーリングスピリッツ級ダクロンセール  
県名表示位置



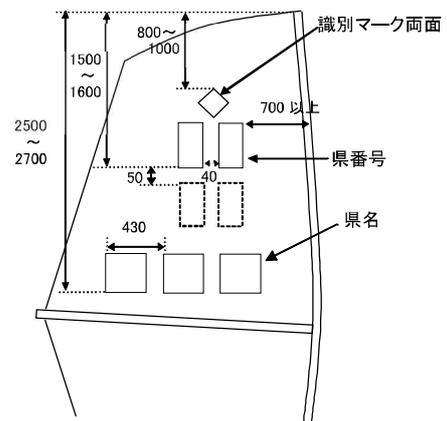
セーリングスピリッツ級マイラーセール 県番号・県名表示位置



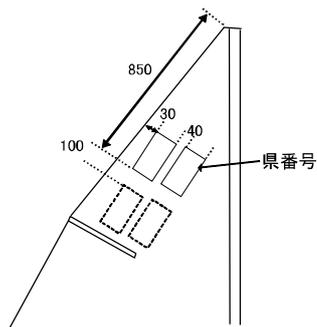
セーリングスピリッツ級ダクロンセール  
県番号表示位置



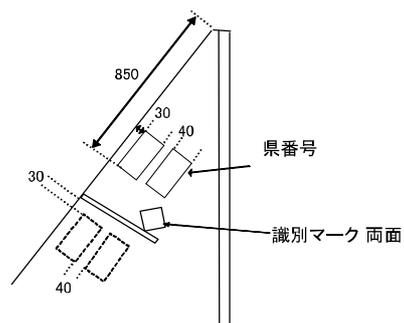
国スポウインドサーフィン級 県番号・県名表示位置



### ILCA7級 県番号表示位置

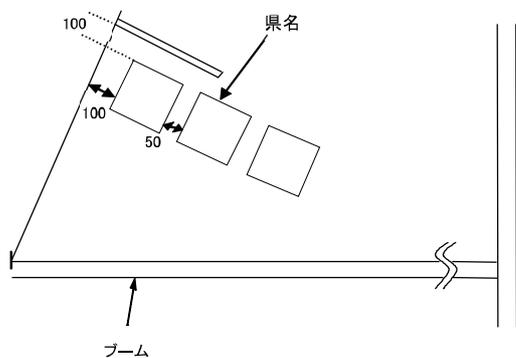


### ILCA6級 県番号表示位置



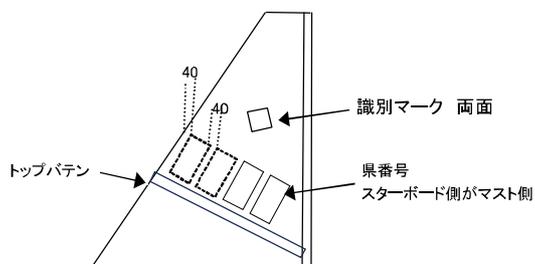
ILCA6の識別マークはILCAハンドブック36ページの図に従って貼らなければならない。  
男子ILCA6級の識別マークも女子識別マークと同じ位置に貼るものとする。

### ILCA7級・ILCA6級 県名表示位置

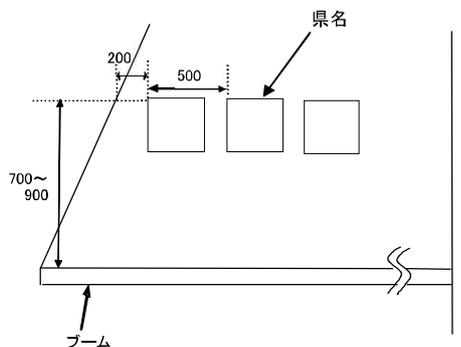


※ ILCA7級・ILCA6級 県名表示位置に関して  
ILCAについては「JPN」や「国旗」の表示は認められない。

### 420級 県番号表示位置



### 420級 県名表示位置



佐賀国スポ2024 テクニカル委員会

# 式典次第

## 【大会会長トロフィー返還】

1. 日時 令和6年9月27日（金）16:00～16:30
2. 会場 佐賀県ヨットハーバー式典テント
3. 式次第

開式予告	15:50
役員・選手着席	15:55
開式通告	16:00
競技会開始宣言	16:01
国旗儀礼	16:02
大会旗儀礼	16:04
大会会長トロフィー返還	16:06
競技会会長あいさつ	16:08
歓迎のことば	16:12
登壇者の紹介	16:20
選手宣誓	16:23
閉式通告	16:25
役員・選手退席	16:26

## 【種目別表彰式～前半の部～】

1. 日時 令和6年10月1日（火）13:00～13:30
2. 会場 佐賀県ヨットハーバー式典テント
3. 対象種目 令和6年9月30日（月）までに終了した種目
4. 式次第

開式予告	12:50
役員・選手着席	12:55
開式通告	13:00
種目別成績発表	13:01
種目別表彰	13:07
閉式通告	13:29
役員・選手退席	13:30

## 【種目別表彰式～後半の部～】

1. 日 時 令和6年10月1日（火）14：00～14：30
2. 会 場 佐賀県ヨットハーバー式典テント
3. 対象種目 令和6年10月1日（火）に終了した種目
4. 式次第

開 式 予 告	13：50
役員・選手着席	13：55
開 式 通 告	14：00
種目別成績発表	14：01
種 目 別 表 彰	14：05
閉 式 通 告	14：27
役員・選手退席	14：28

## 【総合表彰式】

1. 日 時 令和6年10月1日（火）15：00～16：00
2. 会 場 佐賀県ヨットハーバー式典テント
3. 式次第

開 式 予 告	14：50
役員・選手着席	14：55
開 式 通 告	15：00
綜 合 成 績 発 表	15：01
表 彰 状 授 与	15：06
大会会長トロフィー授与	15：21
競技会会長あいさつ	15：25
大会MVP表彰	15：31
感 謝 状 贈 呈	15：35
歓 送 の こ と ば	15：40
国 旗 儀 礼	15：50
大 会 旗 儀 礼	15：53
競 技 会 終 了 宣 言	15：56
閉 式 通 告	15：58
役員・選手退席	16：00

## ◇セーリング競技の見方◇

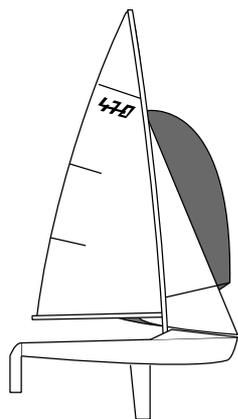
### セーリング競技について

セーリング競技は、ジュニアから高齢者まで幅広い年齢層で楽しめる生涯スポーツであり、自然を相手に風と波だけを動力として船を走らせる、環境に優しいスポーツです。

セーリング競技大会は、オリンピック競技を始めアジア大会、世界選手権等多くの大会が国内外で開催され国民スポーツ大会においては、昭和21年の第1回大会から採用されています。

### 国スポで採用されているヨットの種類 《2人乗り》

#### 470級(成年男子)



【全長】：4.7m 【幅】：1.68m  
【セール面積】：26.6㎡

470級は3枚の帆を使って走るプレーニングタイプ（滑走）のヨットで、オリンピック種目に採用されていることから、実業団、大学生、一般等で幅広く普及しています。

乗員の適正体重は2人の合計で130kg前後とされ、オリンピック種目の中でも最も軽量なクラスで、比較的日本人向きであると言われています。

#### セーリングスピリッツ級(成年女子)



【全長】：4.3m 【幅】：1.74m  
【セール面積】：27.6㎡

セーリングスピリッツ級は、世界の流れに合わせて日本セーリング連盟が開発したハイ・パフォーマンスな2人乗りヨットで、風下に向けてジェネカーセール(先頭にある帆)を展開すると、ハイスピードでパワフルなセーリングを楽しむことができます。

#### 420級(少年男子・少年女子)



【全長】：4.2m 【幅】：1.63m  
【セール面積】：22.05㎡

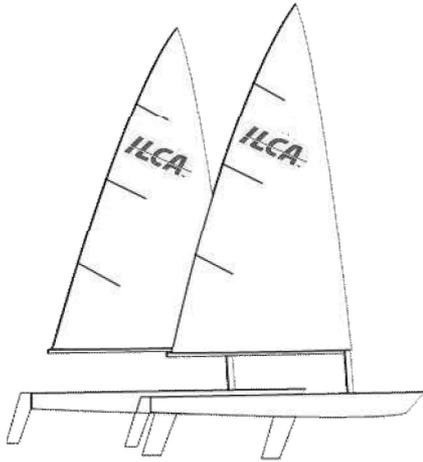
420級は、ISAF認定されたインターナショナルクラスで、世界的に普及しています。

大きな浮力タンクがあり、転倒状態でも艇は非常に安全です。世界中でユース世代のトレーニングボートとして活用され、平成27年高校総体和歌山インターハイ、和歌山国体から導入された種目です。

## 《 1 人乗り 》

ILCA 7 級(成年男子)

ILCA 6 級(成年女子・少年男子・少年女子)

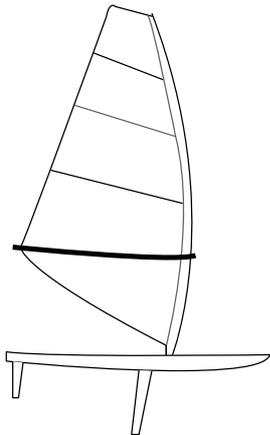


【全長】：4.23m 【幅】：1.37m  
【ILCA 7 級セール面積】：7.06m<sup>2</sup>  
【ILCA 6 級セール面積】：5.7m<sup>2</sup>

ILCA 7 級と ILCA 6 級は同じ艇体を使用し、2 本つなぎのマストの下部の長さを変えて使用します。

オリンピック種目に採用されていることから、ジュニアから一般まで幅広く普及していますが、強風時は、体力と気力の勝負になります。

国スポウインドサーフィン級(成年男子・成年女子)



【全長】：2.7～3.1m  
【幅】：1.005m以下  
【セール面積】：8.0m<sup>2</sup>以下

国スポウインドサーフィン級はワンデザインクラスではなく、規則に適合すれば、どこでもメーカーのボード・リグ・セールも使用できます。スピード感あふれるセーリング競技の中でも、最も体力が要求されます。

サーフボードとセールのためのシンプルな構造で、風速が6m/sを超えると、飛ぶように走ります。

## 都道府県別 参加申込 一覧表

地区	番号	都道府県	成 年				少 年			合 計			総計	
			監督		選手		監督	選手		監督		選手		
			専任	兼任	男子	女子	専任	男子	女子	専任	兼任			
北海道	1	北海道	1		3	1	1	3	1	2	(0)	8	10	
	東北	2	青森県	1		3	2	1	3	3	2	(0)	11	13
		3	岩手県	1		4	2	1	2	2	2	(0)	10	12
		4	宮城県	1		3	3	1	3	3	2	(0)	12	14
		5	秋田県	1		2	1	1	3	3	2	(0)	9	11
		6	山形県	1		1	0	1	1	0	2	(0)	2	4
		7	福島県	1		1	1		0	0	1	(0)	2	3
関東	8	茨城県	1		4	3	1	3	3	2	(0)	13	15	
	9	栃木県		(1)	1	1		0	0	0	(1)	2	2	
	10	群馬県	1		2	0	1	0	1	2	(0)	3	5	
	11	埼玉県	1		4	1		0	0	1	(0)	5	6	
	12	千葉県	1		4	4	1	3	3	2	(0)	14	16	
	13	東京都	1		4	3	1	3	3	2	(0)	13	15	
	14	神奈川県	1		4	4	1	3	1	2	(0)	12	14	
北信越	15	山梨県	1		4	1	1	3	3	2	(0)	11	13	
	16	新潟県	1		3	3		0	0	1	(0)	6	7	
	17	長野県	1		4	4	1	1	1	2	(0)	10	12	
	18	富山県	1		4	4	1	3	3	2	(0)	14	16	
	19	石川県	1		3	2	1	3	1	2	(0)	9	11	
東海	20	福井県	1		4	1	1	3	3	2	(0)	11	13	
	21	静岡県	1		4	3	1	2	3	2	(0)	12	14	
	22	愛知県	1		4	4	1	3	3	2	(0)	14	16	
	23	三重県	1		4	1	1	3	2	2	(0)	10	12	
近畿	24	岐阜県	1		4	3	1	3	3	2	(0)	13	15	
	25	滋賀県	1		4	4	1	3	3	2	(0)	14	16	
	26	京都府	1		4	3	1	3	2	2	(0)	12	14	
	27	大阪府	1		2	3	1	3	3	2	(0)	11	13	
	28	兵庫県		(1)	4	3	1	3	3	1	(1)	13	14	
	29	奈良県	1		2	3	1	1	0	2	(0)	6	8	
中国	30	和歌山県	1		2	3	1	3	3	2	(0)	11	13	
	31	鳥取県	1		3	2	1	3	3	2	(0)	11	13	
	32	島根県			0	0		0	0	0	(0)	0	0	
	33	岡山県	1		4	3	1	3	0	2	(0)	10	12	
	34	広島県	1		4	3	1	3	3	2	(0)	13	15	
四国	35	山口県	1		4	3	1	3	3	2	(0)	13	15	
	36	香川県	1		2	4	1	3	3	2	(0)	12	14	
	37	徳島県	1		4	0		0	0	1	(0)	4	5	
	38	愛媛県	1		3	2	1	3	0	2	(0)	8	10	
九州	39	高知県	1		3	1	1	1	0	2	(0)	5	7	
	40	福岡県	1		4	4	1	3	3	2	(0)	14	16	
	41	佐賀県	1		4	4	1	3	3	2	(0)	14	16	
	42	長崎県	1		4	1	1	3	3	2	(0)	11	13	
	43	熊本県	1		2	3	1	1	0	2	(0)	6	8	
	44	大分県	1		4	4	1	3	3	2	(0)	14	16	
	45	宮崎県	1		4	3	1	3	0	2	(0)	10	12	
	46	鹿児島県	1		4	2	1	3	1	2	(0)	10	12	
47	沖縄県	1		4	2	1	3	2	2	(0)	11	13		
合 計			44	(2)	153	112	41	108	86	85	(2)	459	544	
					265		194							

※ 選手兼任監督の人数は、監督の「兼任」欄に記入し、選手数としてカウントする。

## 監督名（成年・少年）一覧表

県番	都道府県	成年		少年	
		氏名	所属	氏名	所属
1	北海道	三原 隆彰	室蘭セーリング協会	高橋 憲太	北海道小樽水産高等学校(教)
2	青森県	浅利 正	青森県セーリング連盟	会津 友稀	青森県立青森工業高等学校(教)
3	岩手県	越田 幸樹	宮古市役所	小野寺 優	岩手県立宮古商工高等学校(教)
4	宮城県	伊藤 嘉宣	石巻高等学校(教)	加藤 良平	仙台第一高等学校(教)
5	秋田県	岡崎 真一郎	ニュータウンさくら薬局	高橋 陵	株式会社 トータルリペアー
6	山形県	阿部 力	日本郵便株式会社	富樫 力	全農ライフサポート山形株式会社
7	福島県	齋藤 道明	福島県立小名浜海星高等学校(教)		
8	茨城県	木村 俊介	株式会社筑波銀行	西村 祐司	霞ヶ浦高等学校(教)
9	栃木県	小嶺 恵美	(公財)栃木県スポーツ協会		
10	群馬県	江原 千尋	東日本旅客鉄道株式会社	中川 淳	株式会社 高崎測量
11	埼玉県	谷 正安	川口市役所		
12	千葉県	斉藤 威	千葉県セーリング連盟	天貝 謙介	千葉市立稲毛高等学校(教)
13	東京都	大島 卓也	岩城製薬株式会社	池田 知之	株式会社グッドウィン
14	神奈川県	佐々木 共之	横浜市消防局 磯子消防署	高橋 昌威	キンドリル ジャパン(株)
15	山梨県	牧井 修一	株式会社富士急ハイランド	三浦 国彦	株式会社ユニマットライフ
16	新潟県	津野 洋	敦井産業(株)		
17	長野県	本山 誠	自営(トライ・ツ・エム)	笠原 賢一	長野県セーリング連盟
18	富山県	岡田 一広	(株)エイ・テック	埜島 凧咲	新湊高等学校(教)
19	石川県	岩城 宏志	石川県立七尾東雲高等学校(教)	瀧川 明生	石川県立羽咋工業高等学校(教)
20	福井県	大垣 昭彦	福井県立若狭東高等学校(教)	金池 崇	福井県立三国高等学校(教)
21	静岡県	中嶋 浩二郎	NPO法人 静岡県セーリング連盟	中島 量敏	(株)平和テクノシステム
22	愛知県	竹内 康人	株式会社アイシン	山田 健一朗	碧海冷蔵製氷株式会社
23	三重県	杉谷 典明	本田技研工業株式会社鈴鹿製作所	伊藤 秀郎	三重県立津工業高等学校(教)
24	岐阜県	日比野 絵美	岐阜県ヨット連盟	水谷 浩也	岐阜県立海津明誠高等学校(教)
25	滋賀県	兵藤 和行	PONTE BLUE	中村 滋男	オムロン株式会社
26	京都府	坂 文彦	京都府セーリング連盟	大江 信	京都府セーリング連盟
27	大阪府	岩崎 洋一	関西映興株式会社	藤原 洋彰	関西映興株式会社
28	兵庫県	中澤 暁子	兵庫県セーリング連盟	西尾 隆	兵庫県立海洋体育館
29	奈良県	森谷 大悟	株式会社ファルコバイオシステムズ	橋本 知香	奈良県セーリング連盟
30	和歌山県	中村 厚子	和歌山セーリングクラブ	高橋 航	和歌山県立星林高等学校(教)
31	鳥取県	中村 昭仁	境港市役所	阿部 幸久	公益財団法人鳥取県スポーツ協会
32	島根県				
33	岡山県	小西 立碁	岡山県立邑久高等学校(教)	西岡 正人	岡山県立倉敷鷺羽高等学校(教)
34	広島県	小菅 正幸	(株)砂原組	坂本 亘	広島県立広島国泰寺高等学校(教)
35	山口県	中村 公俊	山口県スポーツ交流村	中村 光恵	山口県スポーツ交流村
36	香川県	九富 潤一郎	アグロカネシヨウ株式会社	樋上 聡史	県立高松商業高等学校(教)
37	徳島県	澳津 康賀	徳島県セーリング連盟		
38	愛媛県	大槻 映幸	松山酸素株式会社	望月 航	愛媛県立新居浜東高等学校(教)
39	高知県	文野 順夫	高知県セーリング連盟	井土 晴喜	とさ自由学校(教)
40	福岡県	吉岡 岳史	Hundred	立石 欣也	福岡県立水産高等学校(教)
41	佐賀県	保利 守男	唐津市スポーツ協会	宮野 幹弘	Team SAGA SSP
42	長崎県	西村 隆	西部ガスリビング株式会社	本村 翔太	信越石英株式会社
43	熊本県	境 香苗	熊本市立帯山中学校(教)	村上 裕一	熊本市消防局西消防署
44	大分県	五十川 浩司	津久見市役所	河野 義樹	大分市役所
45	宮崎県	橋口 昭彦	鵬翔高等学校(教)	廣池 達哉	県立宮崎海洋高等学校(教)
46	鹿児島県	元津 大地	鹿児島県セーリング連盟	勝田 哲英	鹿児島県立垂水高等学校(教)
47	沖縄県	有銘 兼一	沖縄県セーリング連盟	崎原 恒佑	沖縄県セーリング連盟

## 成年男子 470級 出場選手一覧表

県番	都道府県	氏名	所属	氏名	所属
1	北海道	西川 拓志	北海道大学	河田 航平	北海道大学
2	青森県	小濱 暖士	青森銀行	小田切 詞音	日本経済大学
3	岩手県	佐々木 彩人	佐川急便株式会社	村上 凌哉	岩手県庁
4	宮城県	鈴木 宙翔	東北大学	村田 有翼	東北大学
5	秋田県	鈴木 智之	ダイニチ工業 株式会社	與齊 将太	合同会社 よさい
6	山形県				
7	福島県				
8	茨城県	池田 海人	日本大学	鈴木 海翔	中央大学
9	栃木県				
10	群馬県				
11	埼玉県	柳内 航平	日本駐車場開発(株)	出本 稜太	川崎汽船(株)
12	千葉県	三村 颯斗	株式会社 京葉銀行	玉井 瑛士	東レ建設株式会社
13	東京都	小柳 倫太郎	株式会社ヴィス	市原 東	鹿島建設GPクリマテック
14	神奈川県	林 玄	ソフトバンク(株)	久保田 賢人	日本大学
15	山梨県	渡辺 隆蔵	ペンションノーティカオン	羽田 玲	キャノンアネルバ株式会社
16	新潟県	寺島 春樹	金沢大学	生江 竜大	新潟大学大学院
17	長野県	伊藤 僚	(財)育てる会	白澤 宗志	長野県庁
18	富山県	村瀬 慎太郎	東洋検査工業(株)	岡田 雅樹	和歌山大学
19	石川県	岩城 海聖	ポッカサッポロフード&ビバレッジ株式会社	中村 烈	みづほ工業株式会社
20	福井県	出道 耕輔	福井県立若狭高校(職)	東野 良治	有限会社アルファプラン
21	静岡県	中尾 吏玖	東海大学	ドイル 翔音	東海大学
22	愛知県	竹尾 巧太郎	名古屋工業大学	島田 翔平	名古屋工業大学
23	三重県	松尾 亮汰	中央大学	安 那瑠起	中央大学
24	岐阜県	児玉 洋輝	株式会社豊田自動織機	守屋 晴喜	大垣消防組合
25	滋賀県	大石 駿水	公益財団法人滋賀県スポーツ協会	山田 海統	同志社大学
26	京都府	溝脇 大智	京都大学	豊田 航生	京都大学
27	大阪府				
28	兵庫県	神木 聖	ヤマハ発動機株式会社	俣江 広敬	株式会社みずほ銀行
29	奈良県				
30	和歌山県				
31	鳥取県	小泉 凱皇	公益財団法人鳥取県スポーツ協会	宮崎 朝光	鳥取県地域社会振興部スポーツ振興局スポーツ課
32	島根県				
33	岡山県	宇野 智貴	ホテルリマー二	中本 悠太	岡山県警察
34	広島県	澤村 和慶	九州旅客鉄道(株)	土井 航平	富士通Japan(株)
35	山口県	小泉 颯作	山口県セーリング連盟	松尾 虎太郎	テレビ新広島
36	香川県				
37	徳島県	鶴本 優士	関西学院大学	中野 太洋	城西高等学校神山校(教)
38	愛媛県	市川 悠斗	松山酸素株式会社	草薙 温大	日本大学
39	高知県	青木 真	高知県立嶺北高等学校(教)	守時 秀平	高知大学
40	福岡県	田仲 恵都	日本経済大学	井上 幸	日本経済大学
41	佐賀県	岡田 奎樹	トヨタ自動車東日本株式会社	田中丸 武	早稲田大学
42	長崎県	小倉 直人	長崎大学	中西 洸	長崎大学
43	熊本県				
44	大分県	高山 大智	ヤマハマリーナ株式会社	足立 健太郎	福岡大学
45	宮崎県	宮本 健吾	植松商事	今津 雄登	株)サザンクロスシステムズ
46	鹿児島県	今村 公彦	日本経済大学(教)	北 修紋	鹿屋体育大学
47	沖縄県	前田 弘樹	株式会社 シー・テクニコ	烏田 亮平	シーエーシー・アドバンス

## 成年男子 ILCA7級 出場選手一覧表

県番	都道府県	氏名	所属
1	北海道	工藤 海翔	立命館大学
2	青森県		
3	岩手県	佐藤 裕典	東京エレクトロン・テクノロジーソリューションズ株式会社
4	宮城県	小野寺 正一郎	S.TRADES
5	秋田県		
6	山形県	佐藤 勝則	山形県立加茂水産高等学校(教)
7	福島県	佐藤 正志	有限会社佐藤会計事務所
8	茨城県	岩田 慧吾	株式会社識学
9	栃木県		
10	群馬県	大川 晃弘	県セーリング連盟
11	埼玉県	齋藤 吉彦	埼玉県セーリング連盟
12	千葉県	田淵 靖浩	株式会社くふうAIスタジオ
13	東京都	大塚 邦弘	富士フィルムビジネスイノベーションジャパン株式会社
14	神奈川県	樋口 碧	(株)トラストプラン
15	山梨県	坂本 宇央	株式会社東邦建設工業
16	新潟県	諸橋 春雄	NECフィールディング(株)
17	長野県	井上 瑤	上伊那広域消防本部
18	富山県	沢田 二二男	タワーパートナーズセミコンダクター(株)
19	石川県	福田 陽	日本大学
20	福井県	岡本 昂希	数研出版株式会社
21	静岡県	杉山 航一朗	(株)ブルーオーシャンシステム
22	愛知県	永井 久規	豊田合成株式会社
23	三重県	黒田 浩渡	ナブテスコ株式会社
24	岐阜県	加藤 文弥	海津市役所
25	滋賀県	安田 真之助	滋賀県立膳所高等学校(教)
26	京都府	嶋倉 照晃	早稲田大学
27	大阪府	竹内 修祐	Panasonic Entertainment&Communication
28	兵庫県	己斐 健太郎	関西学院大学
29	奈良県	福田 育弘	日本国土開発
30	和歌山県	中村 悠耶	大阪体育大学大学院
31	鳥取県	瀬川 和正	公益財団法人鳥取県スポーツ協会
32	島根県		
33	岡山県	鷲崎 隆陽	(株)永然
34	広島県	白土 久雄	(株)原田
35	山口県	鈴木 義弘	UNIVERship
36	香川県	南原 健一	株式会社JERA
37	徳島県	長久 虎太郎	徳島大学
38	愛媛県		
39	高知県	大平 翔	高知県セーリング連盟
40	福岡県	安藤 司	宗像市役所
41	佐賀県	南里 研二	株式会社ミゾタ
42	長崎県	森崎 邦弘	福田ゆたか外科医院
43	熊本県	大和 佳以	法政大学
44	大分県	安藤 立	株式会社 大和電業社
45	宮崎県	折田 広大	県立日南振徳高等学校(教)
46	鹿児島県	田中 健太郎	三島村役場
47	沖縄県	岩城 拓海	株式会社 タナカ企画

## 成年男子 国スポウインドサーフィン級 出場選手一覧表

県番	都道府県	氏名	所属
1	北海道		
2	青森県	堀内 大輔	八戸市立市民病院
3	岩手県	伊藤 茂夫	ムラテック
4	宮城県		
5	秋田県		
6	山形県		
7	福島県		
8	茨城県	齋藤 光徳	茨城県セーリング連盟
9	栃木県	井上 隆	栃木県セーリング連盟
10	群馬県	青木 佑輔	前橋市水道局
11	埼玉県	田中 洋治郎	日本紙パルプ商事(株)
12	千葉県	宮山 拓	ピー・シーエス株式会社
13	東京都	片岡 千学	エルズサポート株式会社
14	神奈川県	池田 拓海	アクサ生命保険(株)
15	山梨県	甲斐 祥文	多摩川エアロシステムズ株式会社
16	新潟県		
17	長野県	宮内 海人	大津市役所
18	富山県	針生 健志郎	(株)三井住友銀行
19	石川県		
20	福井県	三木 康司	福井県農業試験場
21	静岡県	市川 和典	ヤマハ発動機(株)
22	愛知県	藤原 海	株式会社アイシン
23	三重県	池田 健星	(公財)三重県スポーツ協会
24	岐阜県	高木 佑大	Amazon Japan 合同会社
25	滋賀県	板庇 雄馬	有限会社かんとりーはーばー
26	京都府	齋藤 雄吾	同志社大学
27	大阪府	山本 遼	大阪府立吹田高等学校(教)
28	兵庫県	渡部 鷹介	株式会社明治
29	奈良県	奥田 順一	フリーランス
30	和歌山県	尾川 潤	株式会社島精機製作所
31	鳥取県		
32	島根県		
33	岡山県	條本 和宏	瀬戸内市役所
34	広島県	佐藤 誠記	三親電材(株)
35	山口県	三浦 圭	明治大学
36	香川県	上田 武司	株式会社タダノ
37	徳島県	釜谷 駿	神戸大学
38	愛媛県	岡本 大成	東京海上日動火災保険株式会社
39	高知県		
40	福岡県	村田 高亮	(株)東栄住宅
41	佐賀県	倉持 大也	Team SAGA SSP
42	長崎県	水田 長兵	恵愛会大分中村病院訪問看護ステーション
43	熊本県	河野 宏和	堤歯科医院
44	大分県	田中 拓海	大分大学
45	宮崎県	河野 一晴	宮崎大学
46	鹿児島県	廣津 秀治	鹿児島市消防局
47	沖縄県	栗原 湧	ブルーリゾート開発

## 成年女子 セーリングスピリッツ級 出場選手一覧表

県番	都道府県	氏名	所属	氏名	所属
1	北海道				
2	青森県	沢田 真帆	仙台ECO動物海洋専門学校	田中 愛梨	東北学院大学
3	岩手県	佐々木 光	岩手県立宮古病院	藤田 沙椰華	社会福祉法人 三宝会 宮古保育園
4	宮城県	小泉 紅葉	東北学院大学	松坂 恵奈	東北大学
5	秋田県				
6	山形県				
7	福島県				
8	茨城県	宮本 あかり	青山学院大学	田中 瑠衣	日本大学
9	栃木県				
10	群馬県				
11	埼玉県				
12	千葉県	市村 みずき	法政大学	千葉 友唯奈	東京外国語大学
13	東京都	吉田 愛	株式会社ピアソンマリンジャパン	近藤 広佳	株式会社セキコーポレーション
14	神奈川県	矢口 梨絵	(株)ノースセール・ジャパン	庄崎 賀絵	神奈川県庁
15	山梨県				
16	新潟県	柿沼 安依	新潟大学	宮島 千晶	信越化学工業(株)
17	長野県	菊原 よしの	佐久市役所	矢口 文香	長野信用金庫
18	富山県	栗原 こまき	日本郵便(株)福岡郵便局	本田 有咲	(株)インテック
19	石川県				
20	福井県				
21	静岡県	荻原 凜	浜松医科大学	東田 茉莉瑛	(株)中日新聞社
22	愛知県	岩月 愛望	トヨタ自動車株式会社	井口 七海	中部電力株式会社
23	三重県				
24	岐阜県	堀畑 南帆	瑞穂市立穂積小学校(教)	北林 風花	岐阜県立海津明誠高等学校(教)
25	滋賀県	續木 茄可	滋賀中央信用金庫	福田 桃奈	公益財団法人滋賀県スポーツ協会
26	京都府	側田 晴楽	株式会社ユニマツプレジャス 三河みとマリーナ	関端 陽乃	同志社大学
27	大阪府	河合 由香	河合利紀税理士事務所	山下 かおり	近畿地方更生保護委員会
28	兵庫県	中澤 暁子	兵庫県セーリング連盟	亀井 雪代	パナソニックインダストリー株式会社
29	奈良県	近藤 麻央	帝塚山大学	部谷 愛菜	奈良大学
30	和歌山県	赤松 里彩	和歌山県立医科大学附属病院	生地 みづ穂	済生会和歌山病院
31	鳥取県	池淵 砂紀	鳥取県地域社会振興部スポーツ振興局スポーツ課	永井 天音	法政大学
32	島根県				
33	岡山県	山本 佑莉	(一財)岡山県牛窓海洋スポーツ振興会	金高 伽耶	瀬戸内市役所
34	広島県	濱田 華帆	福山市役所	浅田 愛子	広島県セーリング連盟
35	山口県	中村 乃々子	日本経済大学	松原 果保	日本大学
36	香川県	片岡 久恵	香川県ヨット連盟	新地 智子	株式会社レイズ
37	徳島県				
38	愛媛県	古川 梨子	日本大学	石川 さくら	鹿屋体育大学
39	高知県				
40	福岡県	花田 佳	日本経済大学	中村 奏絵	日本経済大学
41	佐賀県	中山 由菜	サニーサイドヨットクラブ	宮崎 歩美	九州電力送配電株式会社
42	長崎県				
43	熊本県	田上 萌	熊本大学	西澤 佳菜	熊本大学
44	大分県	有村 はるな	日本経済大学	垣迫 真央	株式会社ファンメディカル
45	宮崎県	鈴木 身祐希	株式会社エスエヌシー	深江 夏鈴	鹿屋体育大学
46	鹿児島県				
47	沖縄県				

## 成年女子 ILCA6級 出場選手一覧表

県番	都道府県	氏名	所属
1	北海道	松苗 幸希	北海道セーリング連盟
2	青森県		
3	岩手県		
4	宮城県	橋本 小百合	トヨタ自動車東日本株式会社
5	秋田県	松田 のどか	株式会社 アルファシステムズ
6	山形県		
7	福島県	高橋 香	福島県立小名浜海星高等学校(教)
8	茨城県		
9	栃木県		
10	群馬県		
11	埼玉県		
12	千葉県	三浦 帆香	神奈川大学
13	東京都		
14	神奈川県	大村 杏奈	東海大学湘南キャンパス
15	山梨県	渡辺 房子	日富士株式会社
16	新潟県	高橋 珠理	新潟大学大学院
17	長野県	原 穂乃歌	帝京科学大学
18	富山県	大鋸 夏凧	愛知学院大学
19	石川県	福井 愛乃	日本大学
20	福井県	富部 柚三子	福井総合病院
21	静岡県	三浦 凧砂	(株)静岡銀行
22	愛知県	柿元 麻衣	株式会社豊田自動織機
23	三重県	河原 由佳	共栄火災海上保険(株)
24	岐阜県	水谷 葵	東海学院大学短期大学部
25	滋賀県	須田 英実子	神戸大学法科大学院
26	京都府	鈴木 萌風	株式会社 ウェルファムフーズ
27	大阪府	丸田 杏	株式会社モンバル
28	兵庫県		
29	奈良県	徳武 陽渚	京都薬科大学
30	和歌山県	赤松 佑香	関西大学
31	鳥取県		
32	島根県		
33	岡山県	森 杉菜	(株)タック
34	広島県		
35	山口県		
36	香川県	石田 穂乃香	直島町役場
37	徳島県		
38	愛媛県		
39	高知県	小林 胡由希	高知工業高等専門学校
40	福岡県	毛利 咲絵	日本大学
41	佐賀県	市橋 愛生	早稲田大学
42	長崎県		
43	熊本県		
44	大分県	秋吉 安恵	株式会社バイオ病理研究所
45	宮崎県	請関 紗弥	社会福祉法人 宮崎県社会福祉事業団
46	鹿児島県	田中 花奈	鹿児島大学
47	沖縄県	三部 碧	沖縄県環境科学センター

## 成年女子 国スポウインドサーフィン級 出場選手一覧表

県番	都道府県	氏名	所属
1	北海道		
2	青森県		
3	岩手県		
4	宮城県		
5	秋田県		
6	山形県		
7	福島県		
8	茨城県	石井 明香里	茨城県セーリング連盟
9	栃木県	小嶺 恵美	(公財)栃木県スポーツ協会
10	群馬県		
11	埼玉県	錬石 恵子	富士フィルム(株)
12	千葉県	三石 真衣	国立大学法人 東京海洋大学(職)
13	東京都	河村 奈子	早稲田大学
14	神奈川県	堀川 智江	セントラルスポーツ(株)
15	山梨県		
16	新潟県		
17	長野県	酒井 七海	セキスイハイム信州(株)
18	富山県	江尻 新奈	三菱ケミカル(株)
19	石川県	三益 穂乃佳	株式会社ジャステック
20	福井県		
21	静岡県		
22	愛知県	森島 多希乃	株式会社アイシン
23	三重県		
24	岐阜県		
25	滋賀県	伊勢田 愛	公益財団法人滋賀県スポーツ協会
26	京都府		
27	大阪府		
28	兵庫県	田中 聖奈	三井住友海上火災保険株式会社
29	奈良県		
30	和歌山県		
31	鳥取県		
32	島根県		
33	岡山県		
34	広島県	里村 香奈	神戸大学
35	山口県	渡辺 純菜	山口県セーリング連盟
36	香川県	中所 美沙子	香川大学医学部
37	徳島県		
38	愛媛県		
39	高知県		
40	福岡県	山辺 美希	(株)サガミ
41	佐賀県	渡邊 優帆	Team SAGA SSP
42	長崎県	橘田 ゆかり	長崎県対馬市上対馬振興部
43	熊本県	川端 貴美可	宇城市立河江小学校(教)
44	大分県	植木 祐衣	大分大学
45	宮崎県		
46	鹿児島県	松浦 絵里	鹿児島県セーリング連盟
47	沖縄県	牛木 ひなた	琉球大学

## 少年男子 420級 出場選手一覧表

県番	都道府県	氏名	所属	氏名	所属
1	北海道	佐野 佑斗	北海道小樽水産高等学校	佐原 絆里	北海道小樽水産高等学校
2	青森県	木村 和輝	青森県立青森工業高等学校	柴田 正啓	青森県立青森工業高等学校
3	岩手県	三浦 迅	岩手県立宮古高等学校	加藤 純生	岩手県立宮古高等学校
4	宮城県	小泉 廉太郎	石巻高等学校	及川 晃次郎	塩釜高等学校
5	秋田県	阿部 航大	秋田県立本荘高等学校	傳法 尊久	秋田県立本荘高等学校
6	山形県				
7	福島県				
8	茨城県	池田 航介	霞ヶ浦高等学校	本多 剛	霞ヶ浦高等学校
9	栃木県				
10	群馬県				
11	埼玉県				
12	千葉県	平尾 一倅	千葉県立磯辺高等学校	角張 佑希	千葉県立磯辺高等学校
13	東京都	重松 陽	霞ヶ浦高等学校	窪田 啓汰	東京都立三鷹中等教育学校
14	神奈川県	工藤 聡太	逗子開成高等学校	孫 榴楊	逗子開成高等学校
15	山梨県	仲野 晃正	富士学苑高等学校	高村 拓豊	山中湖村立山中湖中学校
16	新潟県				
17	長野県				
18	富山県	増原 瑞希	新湊高等学校	尚和 憲吾	新湊高等学校
19	石川県	岩城 渚人	石川県立羽咋工業高等学校	中井 利哉	石川県立羽咋工業高等学校
20	福井県	小嶋 友斗	福井県立三国高等学校	大嶋 天琥	福井県立三国高等学校
21	静岡県	相馬 桜碧	静岡県立熱海高等学校	佐藤 翔平	静岡県立熱海高等学校
22	愛知県	永井 達規	愛知県立半田高等学校	間瀬 康平	愛知県立半田高等学校
23	三重県	岡田 海洋	三重県立津工業高等学校	小河 莉佑	三重県立津工業高等学校
24	岐阜県	中村 遥斗	岐阜県立海津明誠高等学校	中村 明日翔	岐阜県立海津明誠高等学校
25	滋賀県	須田 博也	滋賀県立膳所高等学校	中塚 貴博	滋賀県立膳所高等学校
26	京都府	小谷 宗一郎	京都府立宮津天橋高等学校	柴田 逸希	京都府立宮津天橋高等学校
27	大阪府	鶴田 奏	大阪府立久米田高等学校	岡本 莉津斗	高石市立取石中学校
28	兵庫県	藤田 蒼士	清風高校	堀野 瑠海	清風高校
29	奈良県				
30	和歌山県	山口 晴路	和歌山県立和歌山工業高等学校	林 瑠飛	和歌山県立和歌山工業高等学校
31	鳥取県	安田 悠汰	鳥取県立境高等学校	横山 陽人	鳥取県立境港総合技術高等学校
32	島根県				
33	岡山県	伊藤 大輝	岡山県立倉敷鷺羽高等学校	藤森 皓大	岡山県立倉敷鷺羽高等学校
34	広島県	有川 幸樹	広島県立広島国泰寺高等学校	角 琥太郎	広島県立広島国泰寺高等学校
35	山口県	財間 海大	山口県立光高等学校	内山 昂	山口県立光高等学校
36	香川県	山本 權湮	県立高松商業高等学校	寺井 穩	県立高松商業高等学校
37	徳島県				
38	愛媛県	山川 拓海	愛媛県立新居浜東高等学校	古川 拓海	愛媛県立新居浜東高等学校
39	高知県				
40	福岡県	宮前 佳月	福岡第一高等学校	倉元 優羽	福岡第一高等学校
41	佐賀県	藤川 主阿	佐賀県立唐津西高等学校	坂田 泰斗	佐賀県立唐津工業高等学校
42	長崎県	塩田 到	長崎総合科学大学附属高等学校	林 莉央	長崎総合科学大学附属高等学校
43	熊本県				
44	大分県	賀来 玲斗	大分県立別府翔青高等学校	魚住 亜軍	大分県立別府翔青高等学校
45	宮崎県	倉永 航志	県立日南振徳高等学校	中尾 輝聖	県立日南振徳高等学校
46	鹿児島県	西郷 永進	鹿児島県立錦江湾高等学校	末吉 麟太郎	鹿児島県立錦江湾高等学校
47	沖縄県	玉寄 琉歌	知念高等学校	渡口 幹世	知念高等学校

## 少年男子 ILCA6級 出場選手一覧表

県番	都道府県	氏名	所属
1	北海道	工藤 匠海	立命館慶祥高等学校
2	青森県	大山 慶己	青森県立青森工業高等学校
3	岩手県		
4	宮城県	佐藤 好晟	石巻高等学校
5	秋田県	大石 颯太	秋田県立男鹿海洋高等学校
6	山形県	中嶋 寿帆	山形県立加茂水産高等学校
7	福島県		
8	茨城県	酒巻 佑成	霞ヶ浦高等学校
9	栃木県		
10	群馬県		
11	埼玉県		
12	千葉県	國藤 志	千葉県立磯辺高等学校
13	東京都	岩波 将吾	ドルトン東京学園
14	神奈川県	加原 弦季	葉山町立葉山中学校
15	山梨県	後藤 一太	山梨県立富士北稜高等学校
16	新潟県		
17	長野県	青沼 克樹	岡谷工業高等学校
18	富山県	長澤 駈	新湊高等学校
19	石川県	廣瀬 翔	石川県立羽咋工業高等学校
20	福井県	本村 仁	福井県立三国高等学校
21	静岡県		
22	愛知県	徳山 巧澄	愛知県立半田高等学校
23	三重県	奥田 涼雅	三重県立津工業高等学校
24	岐阜県	河合 颯大	岐阜県立海津明誠高等学校
25	滋賀県	中嶋 清悠	滋賀県立膳所高等学校
26	京都府	田中 祐成	京都府立海洋高等学校
27	大阪府	岩崎 翔汰	代々木高等学校
28	兵庫県	大塚 健斗	清風中学校
29	奈良県	山中 琢雅	奈良県立法隆寺国際高等学校
30	和歌山県	崎 一路	和歌山県立和歌山工業高等学校
31	鳥取県	井上 航汰	国立米子工業高等専門学校
32	島根県		
33	岡山県	松枝 市悟	岡山県立倉敷鷺羽高等学校
34	広島県	豊澄 隆成	広島なぎさ中学校
35	山口県	中田 佳佑	山口県立光高等学校
36	香川県	中山 裕文	高松第一高等学校
37	徳島県		
38	愛媛県	安田 巖	愛光高等学校
39	高知県	木下 陽仁	高知県立岡豊高等学校
40	福岡県	久松 志摩	福岡第一高等学校
41	佐賀県	古賀 弘晃	佐賀県立唐津西高等学校
42	長崎県	松原 空雅	長崎県立長崎北陽台高等学校
43	熊本県	光永 雅翔	熊本県立宇土高等学校
44	大分県	丸山 海星	大分県立海洋科学高等学校
45	宮崎県	倉永 瞭	県立日南振徳高等学校
46	鹿児島県	松浦 颯良	鹿児島県立鹿屋高等学校
47	沖縄県	真玉橋 福之助	沖縄水産高等学校

## 少年女子 420級 出場選手一覧表

県番	都道府県	氏名	所属	氏名	所属
1	北海道				
2	青森県	竹田 乃亜	青森県立大湊高等学校	赤坂 萌々香	青森県立大湊高等学校
3	岩手県	山田 梨七	岩手県立宮古高等学校	佐々木 詠美	岩手県立宮古高等学校
4	宮城県	星 楓華	塩釜高等学校	佐々木 碧海	塩釜高等学校
5	秋田県	神谷 怜	秋田県立本荘高等学校	前川 愛心	秋田県立本荘高等学校
6	山形県				
7	福島県				
8	茨城県	鈴木 しおん	霞ヶ浦高等学校	實松 莉歩	霞ヶ浦高等学校
9	栃木県				
10	群馬県				
11	埼玉県				
12	千葉県	高橋 明姫	千葉県立磯辺高等学校	溝口 杏	千葉県立磯辺高等学校
13	東京都	池田 ななみ	武蔵野大学附属千代田高等学院	小林 和奏	自由ヶ丘学園高等学校
14	神奈川県				
15	山梨県	鈴木 彩永	山梨県立富士北稜高等学校	渡辺 梨音	山梨県立富士北稜高等学校
16	新潟県				
17	長野県				
18	富山県	中川 結	新湊高等学校	高林 響	新湊高等学校
19	石川県				
20	福井県	寺原 万央	福井県立三国高等学校	土岡 千紘	福井県立三国高等学校
21	静岡県	高木 都子	静岡県立熱海高等学校	阿部 愛海	静岡県立熱海高等学校
22	愛知県	古賀 乙葉	愛知県立碧南高等学校	金目 蒼生	愛知県立碧南高等学校
23	三重県	福島 笑莉	三重県立津工業高等学校	藤野 琴乃	三重県立津工業高等学校
24	岐阜県	朝倉 史華	岐阜県立海津明誠高等学校	伊藤 里莉	岐阜県立海津明誠高等学校
25	滋賀県	塚田 乃愛	滋賀県立膳所高等学校	澤端 唯	滋賀県立膳所高等学校
26	京都府	杉本 佳穂	立命館高等学校	安藤 葵	立命館高等学校
27	大阪府	木下 明砂	関西学院千里国際高等部	岩崎 美咲	堺市立浜寺南中学校
28	兵庫県	若松 侑利	兵庫県立芦屋高等学校	野々村 咲希	兵庫県立芦屋高等学校
29	奈良県				
30	和歌山県	矢野 栞菜	和歌山県立星林高等学校	川村 綸美	和歌山県立星林高等学校
31	鳥取県	森山 伊織	鳥取県立境高等学校	林 深姫	鳥取県立境高等学校
32	島根県				
33	岡山県				
34	広島県	登田 未央	呉工業高等専門学校	加登 天寧	広島県立広島国泰寺高等学校
35	山口県	池田 楓	山口県立光高等学校	棟近 日菜	山口県立光高等学校
36	香川県	武田 晴	県立高松商業高等学校	橋本 心佑	県立高松商業高等学校
37	徳島県				
38	愛媛県				
39	高知県				
40	福岡県	前田 野々花	第一薬科大学附属高等学校	占部 心美	福岡第一高等学校
41	佐賀県	川添 夢叶	佐賀県立唐津西高等学校	今泉 心響	佐賀県立唐津西高等学校
42	長崎県	出田 紫和	長崎県立長崎工業高等学校	西平 優菜	長崎県立長崎工業高等学校
43	熊本県				
44	大分県	清松 美来	大分県立別府翔青高等学校	首藤 胡春	大分県立別府翔青高等学校
45	宮崎県				
46	鹿児島県				
47	沖縄県	平良 海咲	知念高等学校	野原 愛美	知念高等学校

## 少年女子 ILCA6級 出場選手一覧表

県番	都道府県	氏名	所属
1	北海道	平尾 美紗樹	苫小牧市立青翔中学校
2	青森県	宮川 紫麻	青森県立青森工業高等学校
3	岩手県		
4	宮城県	岡本 光莉	石巻高等学校
5	秋田県	櫻庭 和子	秋田県立本荘高等学校
6	山形県		
7	福島県		
8	茨城県	岡 春奈	茗溪学園高等学校
9	栃木県		
10	群馬県	吉良 帆乃花	ぐんま国際アカデミー高等部
11	埼玉県		
12	千葉県	岩瀬 蒼衣	千葉県立磯辺高等学校
13	東京都	岩波 萌夏	ID学園高等学校
14	神奈川県	服部 春花	山手学院高等学校
15	山梨県	天野 瑛捺	山梨県立吉田高等学校
16	新潟県		
17	長野県	竹沢 幸来	伊那弥生ヶ丘高等学校
18	富山県	西尾 空子	射水市立射北中学校
19	石川県	小出 明日香	日本航空高等学校石川
20	福井県	藤田 彩乃	福井県立三国高等学校
21	静岡県	出口 美帆	静岡県立磐田南高等学校
22	愛知県	樺山 和花奈	愛知県立碧南高等学校
23	三重県		
24	岐阜県	中嶋 柚月	岐阜県立海津明誠高等学校
25	滋賀県	浦霜 美月	滋賀県立膳所高等学校
26	京都府		
27	大阪府	柏木 南帆	大阪府立松原高等学校
28	兵庫県	ダウスト 絵麻	兵庫県立西脇高等学校
29	奈良県		
30	和歌山県	木下 琴穂	海南市立海南中学校
31	鳥取県	船澤 奈菜	鳥取県立米子東高等学校
32	島根県		
33	岡山県		
34	広島県	豊澄 麻希	広島なぎさ高等学校
35	山口県	菅光 うるは	山口県立光高等学校
36	香川県	勝田 実莉	県立高松高等学校
37	徳島県		
38	愛媛県		
39	高知県		
40	福岡県	埜田 真由香	西南学院高等学校
41	佐賀県	黒田 美海	佐賀県立唐津西高等学校
42	長崎県	岩下 美羽	長崎総合科学大学附属高等学校
43	熊本県		
44	大分県	森田 莉央	大分県立別府翔青高等学校
45	宮崎県		
46	鹿児島県	木田 さくら	鹿児島県立錦江湾高等学校
47	沖縄県		

## プログラム記載事項訂正届

競技委員長 殿

SAGA2024 国スポ・全障スポ唐津市実行委員会 殿

都道府県名 \_\_\_\_\_

監督名 \_\_\_\_\_

下記の通り、記載事項に誤りがありましたので、訂正をお願いいたします。

頁	行	誤	正

提出先 : 競技委員会

提出期限 : 令和6(2024)年9月27日(金) 15時 厳守

過去の成績（種目別成績）

回数	開催地・開催年	全日本選手権	府県対抗対イ	日本選手権対イ	10呎帆走リレー	学生選手権	水域対抗	
1回	滋賀県琵琶湖柳ヶ崎沖 1946年	堀江喜三 塩田克巳 岩田幸彰・吉村憲治			京滋代表 阪神代表 関東代表	東京帝大 関西学院 大阪商大		
2回	石川県七尾市和倉湾 1947年	高岡治夫 養田隆一 吉村憲治			府県対抗 大 阪 京 都 和 歌 山	学生対抗 関 西 関 東 関 中	関 西 関 東 関 中	
3回	福岡県志賀島 1948年	府県対抗12呎 和歌山賀城 滋 宮	実業団12呎 九州ヨット 不二兄弟ヨット 横浜ヨット	兵 庫 神 奈 川 東 京	中 部 関 西 関 東	全日本選手権12呎 犬 伏 高 岡 村 上	関 東 関 西 関 九	関 東 関 北
4回	神奈川県横浜市本牧沖ヨットハーバー 1949年	京 都 山 口 滋 賀	大 阪 大 岩 宮 城	神 奈 川 京 都 東 京	12呎 関 東 関 西 関 九	公開帆走18呎 横 濱 SC 淡 青 C 法 政 C	学連水域対イ 関 西 関 東 関 中	関 西 関 東 関 中
5回	愛知県半田市 1950年	一般A-12呎 京 都 大 阪 大 滋		一般対イ 福 岡 大 阪 大 東	実業団対イ 兵 庫 東 京 神 奈 川	高校A-12呎 神 奈 川 北 海 道 東 京		
6回	広島県宮島町 1951年	一般男子A 京 都 大 阪 大 兵		一般男子対イ 兵 庫 京 都 大 阪	愛 知 京 都 大 阪	高校A 東 京 愛 知 北 海 道		
7回	宮城県塩竈市松島湾 1952年	千 葉 大 阪 大 愛	実業団A 京 都 宮 城 大 阪	滋 賀 京 都 東 京	京 都 愛 媛 神 奈 川	一般女子A 広 島 知 城 愛 宮	広 島 北 海 道 滋 賀	高校対イ 京 城 東 宮 大 阪
8回	香川県高松市大の場ヨットハーバー 1953年	一般男子12呎 大 阪 兵 庫 大 兵	実業団12呎 京 都 宮 城 和 歌 山	広 島 静 岡 宮 城	福 岡 宮 城 京 都	一般女子12呎 香 川 京 都 京 宮	高校12呎 兵 庫 兵 大 大 阪	広 島 宮 城 滋 賀
9回	北海道小樽市祝津ヨットハーバー 1954年	神 奈 川 大 阪 大 賀	大 阪 神 奈 川 千 葉	滋 賀 京 都 宮 城	大 阪 大 宮 神 奈 川	神 奈 川 愛 知 福 岡	神 奈 川 北 海 道 兵 庫	京 都 兵 庫 香 川
10回	神奈川県葉山ヨットハーバー 1955年	東 京 大 阪 大 滋	東 京 京 都 滋 賀	大 阪 東 京 兵 庫	東 京 大 阪 大 山	神 奈 川 広 島 滋 賀	香 川 静 岡 神 奈 川	滋 賀 福 大 大 阪
11回	兵庫県西宮湾 1956年	神 奈 川 大 阪 大 滋		滋 賀 京 都 神 奈 川	東 京 香 川 兵 庫	滋 賀 神 奈 川 広 島	東 京 愛 知 滋 賀	東 京 愛 知 滋 賀
12回	静岡県伊東市伊東湾 1957年	東 京 福 岡 京 都		京 都 静 岡 大 阪・埼 玉	大 阪 滋 賀 鹿 児 島	神 奈 川 兵 庫 滋 賀	東 京 京 都 神 奈 川	神 奈 川 東 京 滋 賀・宮 城
13回	滋賀県大津ヨットハーバー 1958年	一般男子A-12呎 京 都 神 奈 川 埼 玉		兵 庫 千 葉 玉	実業団対イ 東 京 神 奈 川 京 都	一般女子A-12呎 神 奈 川 兵 庫 広 島	高校A 神 奈 川 香 川 滋 賀	兵 庫 香 川 福 岡
14回	神奈川県横浜市ヨットハーバー 1959年	京 都 香 川 神 奈 川		大 阪 大 崎 神 奈 川	福 岡 神 奈 川 東 京	静 岡 兵 庫 東 京	東 京 神 奈 川 静 岡	滋 賀 神 奈 川 香 川
15回	鹿児島県鴨池ヨットハーバー 1960年	香 川 滋 賀 神 奈 川		神 奈 川 福 岡 京 都	神 奈 川 香 川 静 岡	千 葉 玉 媛 愛 媛	福 岡 香 川 滋 賀	兵 庫 宮 城 滋 賀
16回	宮城県塩竈市七ヶ浜町吉田浜ヨットハーバー 1961年	一般男子7呎 東 京 静 岡 福 岡		滋 賀 神 奈 川 兵 庫	実業団対イ 千 葉 香 川 愛 媛	千 葉 宮 崎 玉	高校12呎 神 奈 川 福 岡 東 京	福 岡 兵 庫 宮 城
17回	岡山県玉野市渋川ヨットハーバー 1962年	一般男子A7呎 兵 庫 東 京 山 口	一般男子B7呎 静 岡 香 川 京 都		一般男子B対イ 愛 知 長 崎 香 川	一般女子対イ 岡 山 広 島 京 都	高校7呎 岡 山 香 川 神 奈 川	神 奈 川 岡 山 千 葉
18回	山口県光市室積ヨットハーバー 1963年	香 川 兵 庫 愛 媛		兵 庫 福 山 山 口	兵 庫 新 潟 山 口	長 崎 山 口 東 京	香 川 山 口 千 葉	山 口 千 葉 愛 知
19回	新潟県両津市ヨットハーバー 1964年	福 岡 山 口 東 京		京 都 大 崎 千 葉	愛 知 新 潟 兵 庫	静 岡 東 京 山 口	山 口 千 葉 静 岡	千 葉 香 川 静 岡
20回	愛知県蒲郡ヨットハーバー 1965年	岡 山 兵 庫 福 岡		愛 知 大 崎 千 葉	新 潟 湯 手 福 岡	長 崎 福 香 山 口	宮 城 山 口 神 奈 川	山 口 愛 知 神 奈 川

回数	開催地・開催年	一般男子A対	一般男子B対	一般男子対	一般男子B対	一般女子対	高校対	高校対
21回	大分県 別府北浜ヨットハーブ - 1966年	大山分 山口島	大愛分 愛知岡		愛知知 岐阜口	愛知知 広島岡	大愛阪 岡知山	大分分 兵庫庫 愛知知
22回	茨城県 土浦ヨットハーブ - 1967年	広島分 大岡山	東大京 大分島		山口城 茨三重	茨城知 愛広島	岡山城 茨山口	茨城分 大香川
23回	福井県 三国ヨットハーブ - 1968年	東京東 神奈川分	大三分 重岡	山口川 香和歌山		神奈川分 大山口	山静岡 山口山	香川神 神奈川 岐阜
24回	長崎県 長崎市 福田ヨット競技場 1969年	大分分 岐阜知	大山分 山口知	滋賀京 東山梨		岡山山 長滋賀	山静岡 山口山	福岡岡 広島島 滋賀賀
25回	石川県 宮古市 宮古湾ヨット競技場 1970年	神奈川都 京大分	東大京 岐阜口	京都都 山福井		広島分 大福井	愛知知 山口川	京都都 福山岡 山口
26回	和歌山県 和歌山市 和歌浦湾 1971年	大分山 和歌山知	大阪阪 岐阜知	愛知知 福山梨		静岡岡 京都都 福井	新茨鴻 茨城城 福井	福岡岡 茨城城 香川川
27回	鹿児島県 鹿児島市 平川ヨット競技場 1972年	大分分 神奈川川 鹿児島島	神奈川島 山口	大分分 大島媛		大分分 滋賀山口	鹿児島島 分神奈川	香川川 山島 口島
28回	千葉県 館山市 館山ヨット競技場 1973年	愛知知 神奈川川 埼玉	神奈川分 大千葉	千葉葉 山口		京都都 千葉阜	大分分 茨城城 千葉・三重	千葉葉 茨城城 岐阜・福岡
29回	茨城県 土浦ヨットハーブ - 1974年	福岡重 三鹿島	三重重 三岡城	島根根 千葉重		兵庫庫 大阪山	山静岡 茨城城	青森森 千京都
30回	三重県津市 伊勢湾海洋 泳-光ター 1975年	成男A対	成男B対	成男対	成女対	少男対	少女対	
		山口大 大阪鹿 島	三重重 三佐賀 神奈川	三重重 三福岡 千葉				兵庫庫 佐賀阜 岐
31回	佐賀県 唐津市 唐津ヨットハーブ - 1976年	成男A- 470	成男B-470	山梨梨 千和歌山	佐賀知 愛福岡	青森森 神奈川 和歌山	滋賀賀 青森森 佐賀賀	
		滋賀賀 山口岐	三重重 三愛知 東					
32回	青森県 青森市 浅虫ヨットハーブ - 1977年	香川川 神奈川賀	東京賀 佐香川	千葉葉 鹿児島京		佐賀賀 千葉知	香川賀 佐香川	佐賀賀 愛知森
33回	長野県諏訪市 諏訪湖ヨットハーブ - 1978年	神奈川野 長和歌山	福岡岡 長香川	宮崎崎 佐賀京		佐賀賀 神奈川 和歌山	岐静岡 山山口	青森森 岐長野
34回	宮崎県日南市 日南海岸 ヨット競技場 1979年	佐賀賀 静岡馬	静岡岡 福東京	岩手手 佐賀島		佐賀賀 宮崎賀	和歌山山 宮崎賀	佐賀賀 愛知森
35回	千葉県 千葉市 稲毛ヨット競技場 1980年	島根根 佐賀京	静岡岡 香東京	神奈川島 鹿岡都		佐賀賀 神奈川 和歌山	佐賀賀 青森森 神奈川	千葉葉 千佐青 森
36回	滋賀県 大津市 際川ヨットハーブ - 1981年	島根根 長崎賀	神奈川愛 滋賀	長崎崎 兵庫島		宮崎崎 岐阜賀	京都都 滋賀城	岐山山 阜口葉
37回	島根県 隠岐市 西郷ヨット競技場 1982年	島根根 静神奈川	静岡岡 福神奈川	茨城城 佐賀都		岐阜・佐賀 青森	山静岡 山口山	佐賀賀 千京都 山口
38回	東京都江東区 東京15号地 海浜公園用地 1983年	成男470		神奈川賀 滋賀岡	少男FJ	千葉葉 千佐賀 神奈川	千葉葉 千佐賀 和歌山	少女FJ
		静岡岡 福馬			滋賀賀 島根山			鳥取取 山岡
39回	兵庫県芦屋市 兵庫県立 海洋体育館 1984年	佐賀賀 福岡馬		京都都 鳥取城		佐賀賀 奈良取	青森森 茨城賀	岩手手 茨城千 葉
40回	鳥取県 境港市 境港公共マリナ 1985年	滋賀賀 神奈川岡	茨城城 鳥取都	千葉葉 千香川	神奈川 茨城賀	鳥取取 山神奈川		鳥取取 山口根

回数	開催地・開催年	成男470	成男対7'	少男対7'	少男F J	成女対7'	成女対7'	成女対7'	成女SR	成女対7'	成女SR	少女F J	少女SR
41回	山梨県 山中湖村 山中湖村ヨットハーブ 1986年	宮崎 神奈川 三重	崎重 神奈川 三兵衛	神奈川 重兵衛	岐阜 静岡 山梨	千代 神奈川 佐賀	岐阜 佐賀	山梨 三重				山梨 千代	梨葉 山沖 沖
42回	沖縄県 宜野湾市 宜野湾港ヨットハーブ 1987年	佐賀 沖京	賀都 沖京	京都 滋賀	神奈川 京都 佐賀	山口 茨城 島根	山口 沖京	山口 三重				千代 愛滋	葉知 賀滋
43回	京都府 宮津市 宮津ヨットハーブ 1988年	滋賀 神奈川 愛媛	京都 千葉 香川・茨城	成男対7' 京都 山梨 神奈川	少男対7' 山口 長崎 兵庫	少男F J 島根 京都 神奈川	山梨 三重	山口 三重				山梨 山口	梨手 山口
44回	北海道 江差町 江差港ヨットハーブ 1989年	滋賀 福岡	賀本 福岡	静岡 香川 神奈川	山口 福岡	茨城 山口 北海道	千代 和歌山 鳥取	山梨 三重				佐賀 岩手	賀本 岐山 一
45回	福岡県福岡市 福岡市立ヨットハーブ サザイド もちろみ海浜公園 1990年	京都・佐賀 広島	福岡 東神奈川	福岡 静岡 岡山・山口	福岡 岐阜 長崎	茨城 岩手 鳥取	成女対7' 福岡 佐賀	成女SR 石川 福岡				岐山 静岡	福岡 山形
46回	石川県 羽咋市 石川県海港ヨットハーブ 1991年	三重 山梨	重賀 神奈川	静岡 大阪 神奈川	京都 岐阜 石川	茨城 神奈川 石川	福岡 三重	鳥取 福岡	佐賀 石川 神奈川			石川 福岡	川岡 和歌山
47回	山形県 温海町 山形県魚ヶ岡ヨットハーブ 1992年	三重 神奈川	長崎 福岡	京都 神奈川 千葉	山形・千葉 香川	宮城 山梨	茨城 山口	福岡 山口	福岡 山口			香川 山口	川千 葉一
48回	香川県 仁尾町 仁尾ヨットハーブ 1993年	東海 福岡	京都 神奈川	熊本 福岡	香川 山口	香川・福岡 岐阜	茨城 滋賀 山口・宮崎	愛知 香川	山口 佐賀			茨城 岩手	城手 青森
49回	愛知県 蒲郡市 海陽ヨットハーブ 1994年	熊本 徳島	本島 重賀	熊本 鳥取	国体 神奈川 福岡	少男SR 佐賀 福岡	愛知 滋賀 山梨・福岡	滋賀 神奈川	愛知 山口			少女F J 福岡 愛知	少女SR 福岡 神奈川
50回	福島県 いわき市 いわきヨットハーブ 1995年	長崎 大徳	福岡 香川	神奈川 新潟	神奈川 佐賀	千葉 山梨	香川 山口	神奈川 山口	神奈川 山口			千葉 佐賀	福岡 神奈川
51回	広島県呉市 阿賀ヨットハーブ地区 ヨットハーブ 1996年	大宮 阪城	山口 佐賀	福岡 奈良	佐賀 愛知	佐賀 山梨	香川 山口	山口 香川				岩手 愛知	福岡 山口
52回	大阪府岬町 淡輪ヨットハーブ 大阪府立青少年海洋セカ 1997年	山口 徳島	山口 神奈川	山口 神奈川	大阪・佐賀 福岡	神奈川 大阪	福岡 山口	福岡 山口	福岡 山口			佐賀 千代	京都 東岐
53回	神奈川県藤沢市 湘南港ヨットハーブ 葉山町 葉山港ヨットハーブ 1998年	徳島 滋賀	和歌山 愛知	山口 福岡	福岡 佐賀	少男F J 佐賀 茨城	成女対7' 福岡 香川	成女SR 福岡 熊本	成女対7' 熊本 高知			静岡 岐山	佐賀 北海道
54回	熊本県 宇土市 宇土ヨットハーブ 1999年	香川 山梨	本島 山口	神奈川 山口	京都 佐賀	神奈川・岐阜 山口	千葉・香川 佐賀・熊本 鹿児島	福岡 香川	鹿児島 高知			岐山 青森	福岡 京都
55回	富山県 新湊市 新湊ヨットハーブ 2000年	神奈川 富山	熊本 徳島	成男対7' 宮城 神奈川	神奈川・佐賀 福岡	静岡 千代	京都 香川	京都 山口	富山 神奈川			福岡 鳥取	富山 京都
56回	宮城県 名取市 関上特設ヨットハーブ 2001年	山口 宮城	熊本 和歌山	山口 宮城	東京・佐賀 福岡	茨城 佐賀	成女SS 東京 山口	京都 滋賀	鹿児島 宮城			静岡 茨城	山口 宮城
57回	高知県夜須町 夜須特設 セーリング会場 2002年	三重 宮城	埼玉 和歌山	山口 富山	長崎 佐賀	静岡 茨城	高知 和歌山	高知 京都	富山 山口			福岡 岩手	鳥取 京都
58回	静岡県 御前崎町・相良町 御前崎港特設ヨットハーブ 2003年	福岡 静岡	愛知 静岡	京都 鳥取	京都 茨城	岡山 山口	岡山 佐賀	京都 高知	神奈川 高知			静岡 宮城	佐賀 静岡
59回	埼玉県北川辺町 渡良瀬貯水池 (谷中湖) 2004年	山口 神奈川	愛媛 和歌山	山口 新潟	広島 静岡	山梨 福岡	山口 山梨	岡山 山梨	香川 富山			福岡 神奈川	岐山 香川
60回	岡山県 瀬戸内市 岡山県牛窓ヨットハーブ 2005年	山口 滋賀	三重 岡山	新潟 山口	佐賀 北海道	佐賀 静岡	佐賀 岡山	愛知 長崎	富山 鹿児島			岩手 香川	長崎 佐賀

回数	開催地・開催年	成男470	成男ｼﾞｸﾞﾙ	成男ｲﾝﾄﾞ	少男SR	少男FJ	成女SS	成女SR	成女ｲﾝﾄﾞ	少女FJ	少女SR
61回	兵庫県西宮市 新西宮ヨットハーバー 2006年	滋賀県 福鹿島	愛知県 鹿島東	愛知県 山新	兵庫県 玉葉	福岡県 福愛兵	東京都 東福山	愛知県 知山取	香川県 川口山	静岡県 岡庫賀	山口県 山佐福
62回	秋田県男鹿市 船川港特設セーリング競技場 2007年	福岡県 山三重	鹿児島県 鹿島愛	新潟県 山新	成女SS 山秋東	成女SR 岡山口	成女ｲﾝﾄﾞ 山滋沖	少男SS 兵庫田	少男SR 佐京滋	少女SS 石川山	佐滋岐 賀賀卓
63回	大分県別府市 北浜ヨットハーバー 2008年	鹿児島県 鹿島和歌山	東京都 京佐賀	愛知県 山玉新	東京都 山京岡	沖縄県 石静	秋田県 山川島	千葉県 千葉大	佐賀県 山鹿島	千葉県 山分	佐賀県 山京
64回	新潟県聖籠町 網代浜特設セーリング競技場 2009年	愛知県 山三重	愛知県 山秋田	新潟県 山福岡	山岡京	山愛京	山香川	兵庫県 山葉	佐賀県 山分岡	千葉県 山賀	佐賀県 山分
65回	千葉県千葉市 稲毛ヨットハーバー 2010年	和歌山県 山神葉	愛知県 山秋東	新潟県 山神葉	千葉県 山葉賀	愛知県 山北	岐阜県 山神葉	福岡県 山長佐	佐賀県 山長福	千葉県 山賀	佐賀県 山静
66回	山口県光市 山口県ｽﾍﾟｰｽ交流村 及び光井港特設会場 2011年	岐阜県 山神葉	東京都 山和歌山	新潟県 山神葉	山口県 山賀崎	山福石	岐阜県 山新	山千愛	福岡県 山神葉	山神葉	山静山
67回	愛知県蒲郡市 海陽ヨットハーバー 2012年	福岡県 山鹿島	愛知県 山和歌山	岐阜県 山新	山和歌山	東京都 山長崎	岐阜県 山新	佐賀県 山神葉	佐賀県 山神葉	山取賀	山京岡
68回	東京都江東区 荻洲海浜公園 ヨット訓練所 2013年	東京都 山賀	佐賀県 山和歌山	新潟県 山大	和歌山県 山大	東京都 山北	新潟県 山東	山賀	佐賀県 山和歌山	山賀	山神葉
69回	長崎県長崎市 長崎カセトマリナ 2014年	佐賀県 山和歌山	佐賀県 山愛	新潟県 山和歌山	和歌山県 山取	長崎県 山石	東京都 山新	山賀	和歌山県 山神葉	山賀	山神葉
		成男470	成男ｼﾞｸﾞﾙ	成男ｲﾝﾄﾞ	成女SS	成女FJ	成女ｲﾝﾄﾞ	少男420	少男FJ	少女420	少女FJ
70回	和歌山県和歌山市 和歌山セーリングセンター 2015年	福岡県 山賀	静岡県 山三重	新潟県 山和歌山	和歌山県 山大	和歌山県 山和歌山	愛知県 山新	山賀	山賀	茨城県 山賀	千葉県 山賀
71回	岩手県宮古市 リアハーバー-宮古 2016年	佐賀県 山和歌山	三重県 山神葉	新潟県 山和歌山	山口県 山賀	和歌山県 山和歌山	愛知県 山新	山賀	山賀	茨城県 山賀	東京都 山賀
72回	愛媛県新居浜市 新居浜マリナーナ 2017年	和歌山県 山賀	鳥取県 山三重	福岡県 山賀	愛媛県 山長	愛媛県 山三	愛媛県 山庫	茨城県 山大	山賀	佐賀県 山賀	和歌山県 山賀
73回	福井県高浜町 若狭和田マリナ 2018年	佐賀県 山賀	鳥取県 山神葉	新潟県 山賀	山口県 山賀	福井県 山神葉	福井県 山賀	神奈川 山賀	山賀	香川県 山賀	静岡県 山賀
74回	茨城県阿見町 阿見町霞ヶ浦セーリング特設会場 2019年	和歌山県 山賀	山賀	和歌山県 山賀	山賀	三重県 山神葉	福岡県 山賀	香川県 山賀	神奈川 山賀	山賀	茨城県 山賀
75回	鹿児島県鹿児島市 平川ヨットハーバー 2020年	中止									
76回	三重県津市 津ヨットハーバー 2021年	中止									
77回	千葉県千葉市 稲毛ヨットハーバー 2022年	山賀	山賀	山賀	山賀	山賀	山賀	山賀	山賀	山賀	山賀
特別	鹿児島県鹿児島市 平川ヨットハーバー 2023年	山賀	山賀	山賀	山賀	山賀	山賀	山賀	山賀	山賀	山賀
		成男470	成男ILCA7	成男ｲﾝﾄﾞ	成女SS	成女ILCA6	成女ｲﾝﾄﾞ	少男420	少男ILCA6	少女420	少女ILCA6
78回	佐賀県唐津市 佐賀県ヨットハーバー 2024年										

## 過去の成績（総合成績）

回数	開催年	天皇杯成績表			皇后杯成績表		
		1位	2位	3位	1位	2位	3位
3回	1948年	神奈川	東京	兵庫	—	—	—
4回	1949年	京都	大阪	宮城	—	—	—
5回	1950年	神奈川	東京	福岡	—	—	—
6回	1951年	京都	大阪	神奈川	—	—	—
7回	1952年	京都	大阪	東京	—	—	—
8回	1953年	京都	香川	大阪	—	—	—
9回	1954年	神奈川	大阪・広島	—	神奈川	愛知	福岡
10回	1955年	大阪	神奈川	東京	神奈川	広島	滋賀
11回	1956年	滋賀	東京	神奈川	滋賀	神奈川	広島
12回	1957年	神奈川	滋賀	京都	神奈川	兵庫	滋賀
13回	1958年	神奈川	兵庫	京都	神奈川	兵庫	広島
14回	1959年	神奈川	東京	兵庫	静岡	兵庫	東京
15回	1960年	神奈川	福岡	滋賀	千葉	埼玉	愛知
16回	1961年	千葉	東京	福岡	千葉	宮城	埼玉
17回	1962年	岡山	神奈川	香川	岡山	広島	東京
18回	1963年	山口	兵庫	岡山	長崎	山口	東京
19回	1964年	岡山	千葉	愛知	静岡	東京	岡山
20回	1965年	愛知	山口	新潟	福岡・長崎	—	香川
21回	1966年	愛知	大分	兵庫	愛知	広島	静岡
22回	1967年	茨城	山口	大分	茨城	愛知	広島
23回	1968年	山口	神奈川	大分	神奈川	大分	山口
24回	1969年	山口	大分	岐阜	岡山	長崎	滋賀
25回	1970年	京都	山口	神奈川	広島	大分	福井
26回	1971年	愛知	和歌山	静岡	静岡	京都	福井
27回	1972年	鹿児島	大分	山口	大分	滋賀	山口
28回	1973年	千葉	神奈川	大分	京都	千葉	岐阜
29回	1974年	福岡	鹿児島	茨城	兵庫	大阪	和歌山
30回	1975年	三重	広島	和歌山・佐賀	広島	三重・兵庫	—
31回	1976年	佐賀	青森	山口	佐賀	滋賀	愛知
32回	1977年	佐賀	香川	鹿児島	佐賀	愛知	千葉・山口
33回	1978年	佐賀	長野	岐阜	佐賀	青森	神奈川・岐阜・滋賀
34回	1979年	佐賀	和歌山	宮崎	佐賀	長崎	宮崎
35回	1980年	佐賀	千葉	神奈川	佐賀	千葉	神奈川
36回	1981年	滋賀	京都	岐阜・長崎	岐阜	滋賀	宮崎
37回	1982年	佐賀	島根	静岡	佐賀	岐阜	青森
38回	1983年	佐賀	神奈川	千葉	佐賀	千葉	鳥取
39回	1984年	茨城	滋賀	佐賀	岩手	佐賀	千葉
40回	1985年	鳥取	滋賀	茨城	鳥取	山口	佐賀
41回	1986年	岐阜	神奈川	山梨	山梨	岐阜	鳥取
42回	1987年	山口	京都	佐賀	山口	千葉	沖縄
43回	1988年	京都	山口	千葉	山口	千葉	京都
44回	1989年	佐賀	山口	千葉	岐阜	山口	福岡
45回	1990年	福岡	佐賀	岐阜	福岡	佐賀	石川
46回	1991年	石川	静岡	神奈川	鳥取	石川	佐賀
47回	1992年	千葉	山口	神奈川	山口	茨城	福岡
48回	1993年	香川	福岡	山口	岐阜・香川	—	奈良
49回	1994年	神奈川	愛知	滋賀	神奈川	愛知	滋賀
50回	1995年	神奈川	千葉	山口	山口	神奈川	福岡
51回	1996年	山口	佐賀	愛知	山口	香川	広島
52回	1997年	福岡	山口	神奈川	福岡	岐阜	佐賀
53回	1998年	神奈川	岐阜	佐賀	岐阜	神奈川	香川
54回	1999年	福岡・佐賀・熊本	—	—	熊本	佐賀	福岡
55回	2000年	静岡	神奈川	佐賀	佐賀	鳥取	富山
56回	2001年	山口	東京	佐賀	山口	東京	広島・香川
57回	2002年	静岡	佐賀	富山	京都	高知	福岡
58回	2003年	静岡	福岡	岡山	静岡	佐賀	宮城
59回	2004年	神奈川	山口	福岡	岡山	神奈川	香川
60回	2005年	静岡	岡山	佐賀	岡山	静岡	佐賀

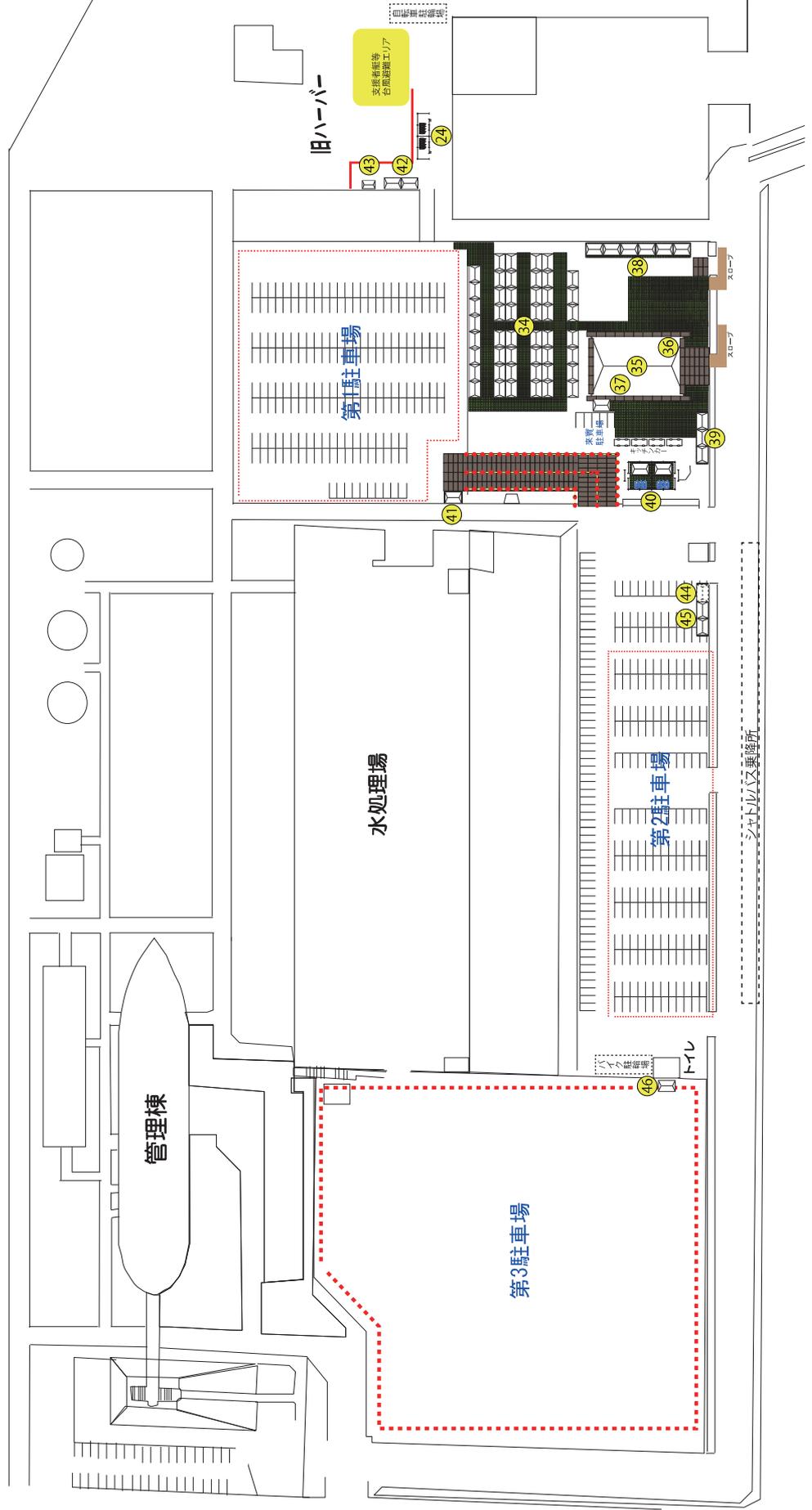
回数	開催年	天皇杯成績表			皇后杯成績表		
		1位	2位	3位	1位	2位	3位
61回	2006年	福岡	兵庫	山口	山口	兵庫	佐賀
62回	2007年	山口	兵庫	秋田	山口	石川	岡山
63回	2008年	千葉	東京	佐賀	千葉・東京	—	岡山
64回	2009年	佐賀	愛知	福岡	大分	佐賀	岡山
65回	2010年	佐賀	千葉	福岡	佐賀	千葉	東京
66回	2011年	山口	神奈川	岐阜	山口	神奈川	岐阜
67回	2012年	佐賀	岐阜	山口	岐阜	佐賀	和歌山
68回	2013年	千葉	佐賀	東京	千葉	東京	佐賀
69回	2014年	和歌山	佐賀	山口	和歌山	佐賀	東京
70回	2015年	和歌山	佐賀	福岡	和歌山	佐賀	大分
71回	2016年	山口	兵庫	佐賀	山口	岡山	茨城
72回	2017年	愛媛	佐賀	和歌山	愛媛	佐賀	東京
73回	2018年	山口	福井	神奈川	福井	山口	香川
74回	2019年	神奈川	山口	和歌山	山口	神奈川	京都
75回	2020年	中止			中止		
76回	2021年	中止			中止		
77回	2022年	茨城	東京	山口	東京	佐賀	山口
特別国体	2023年	山口	茨城	神奈川	山口	茨城	鹿児島
78回	2024年						



番号	名称	番号	名称	番号	名称	番号	名称
1	トラッキング処理室	11	会議室(9/27ア)	21	テクニカル委員会	31	燃料タンク保管ヤード
2	映像室	12	海上安全部	22	仮設トイレ(役員用)	32	自衛隊研究所ヤード
3	映像室(放送)	13	総務・報道部	23	仮設トイレ(選手用)	33	ショップ
4	チャイルドルーム	14	運行・管理部	24	仮設トイレ	34	選手・監督控所
5	予備室	15	レジャー・遊技部	25	弁当・飲料配所	40	仮設シャower・更衣室
6	奥座敷	16	アライメント委員会(準備室)	26	ワインドエリア	41	駐車場職員控所
7	大会役員控室	17	障害水路部A	27	ワインド計測所	42	ゴミ集積所
8	会議室	18	障害水路部B	28	レース申告・トラッキング配布所	43	喫煙所
9	更衣室	19	障害水路部用品ヤード	29	受付案内所	44	輸送交差点本部
10	仮設シャower	20	シングル計測所・計測部・観戦部	30	洗車場	45	搬入搬出受付所
						46	警備員控所
						47	仮設ボイラー室
						48	審判者控所・総務受付



番号	名称	番号	名称	番号	名称	番号	名称
1	ラッキョウ処理室	11	炊事室(9/27~)	21	テニカル委員会 [ユニカワス]	31	燃料タンク保管テント
2	炊飯室	12	海上安全部	22	仮設トイレ(炊食用)	32	自衛隊控所テント
3	炊飯室(突切)	13	総務・報道部	23	仮設トイレ(選手用)	33	ショップ
4	チャイルドルーム	14	運行・通信部	24	仮設トイレ	34	選手・監督控所
5	予備室	15	トータル経理部 [ユニカワス]	25	弁当・飲料配布所	40	仮設シャワー更衣室
6	洗濯水部	16	ユニカワス委員会 [ユニカワス]	26	ウインドエリア	41	駐車係控所
7	大会役員控室	17	障害水部	27	ウインド計測所	42	ゴミ集積所
8	会議室	18	障害水部B	28	レース申告・トラックキック配布所	43	喫煙所
9	更衣室	19	障害水部控品アメント	29	受付案内所	44	輸送交通本部
10	仮設シャワー	20	トラック計測所・計測部・監視部	30	法庫庫	45	搬入搬出受付所
						35	監督会議
						36	トラックセブスコーナー
						37	式典補助アメント
						38	売店
						39	競技会係員・ボランティア控所
						41	駐車係控所
						42	ゴミ集積所
						43	喫煙所
						44	輸送交通本部
						45	搬入搬出受付所
						46	警備員控所
						47	仮設ポツンテーン
						48	審判者控所・総務受付



## 佐賀県ヨットハーバー周辺図



## 艇搬入出トラック待機所周辺図





PCやスマホ・タブレットでネットライブ中継  
TracTrac(トラクトラック)を見るには。

パソコンで見るとは。

... [https:// www.tracrac.com/](https://www.tracrac.com/) /へ  
「National Sports Festival SAGA」をご覧ください。

スマホやタブレットで見るとは。

... **専用アプリ(無料)が必要です。**



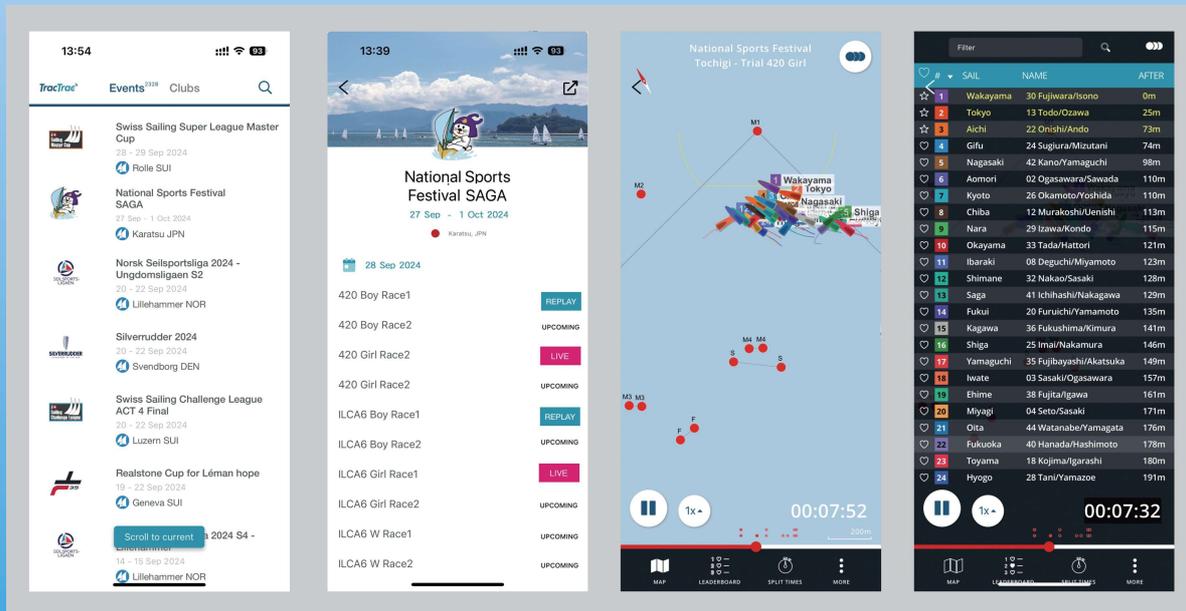
アプリのダウンロードはこちらから。



TracTrac  
TracTrac Aps



専用アプリを起動し、リストをスクロールしてEventを探して下さい。中継中のレースは「LIVE」始まっていないレースは「UPCOMING」終了したレースは「REPLAY」の表示です。



※ 一部の Web ブラウザ (IE など) は非対応になっていますと、グラフィック性能、内蔵メモリ等、PC のスペックが満たない場合は中継 (再生) ができなったり、途中で終了することがあります。また、閲覧には多くのパケットデータ料金が加算される場合がありますので、ご了承・ご注意ください。

Edition 1.0 J - provided by  
TracTrac®

# SAGA 2024 国スポ 全障スポ

新しい大会へ。すべての人に、スポーツのチカラを。



## SAGA2024 国スポセーリング競技 LIVE 配信日程

令和6年(2024年) 9月28日(土)~10月1日(火)

天候やレースの進行状況により中断・中止する場合があります。

動画配信はこちらから

国スポチャンネル(LIVE 配信は QR コードから)

[japangamestv.japan-sports.or.jp](http://japangamestv.japan-sports.or.jp)

※表彰式も国スポチャンネルでご覧いただけます。



★お問い合わせ★

SAGA2024 国スポ・全障スポ唐津市実行委員会 事務局

TEL : 0955-53-7176

メール: [saga2024sailing@city.karatsu.lg.jp](mailto:saga2024sailing@city.karatsu.lg.jp)

# SAGA2024国スポセーリング競技会 チャイルドルームのご案内



## ・チャイルドルームについて

場 所	佐賀県唐津市佐賀県ヨットハーバー 3階	
実 施 日	2024年9月26日(木)～10月1日(火)	
開設時間	9月26日(木)～9月30日(月)	8:30～16:30
	10月1日(火)	8:30～14:00

※3階へはエレベーターをご利用いただけます。

※食事・おむつ等の用意はありませんので各自ご用意ください。

(アレルギー等がある場合は予めお伝えください)

対象年齢：0歳～6歳程度のお子様(大会に参加する選手・大会役員・大会関係者の方も無料をご利用いただけます。)

- 乳幼児の授乳及びおむつの取り換え用の部屋などをご用意
- 休憩中の乳幼児の一時的な託児をお手伝い

## ★★お申込みはこちらから★★

●**9月15日**までに下記のURL もしくはQRコードよりお申込みください

チャイルドルーム用URL・QRコード

<https://ws.formzu.net/dist/S618102133/>



主催：(公財)日本セーリング連盟レディース委員会

協力：SAGA2024 国スポ・全障スポ唐津市実行委員会・NPO 法人佐賀県ヨット連盟

# 使わなくなったヨットのセールで エコバックを作ってみませんか？

使い古したヨットの帆(セール)も、捨ててしまったらゴミになってしまいます。そんな帆をリサイクルし、一緒にエコバックを作ってみませんか？リサイクル・リメイク・リユースでエコなバッグです。小学校で一番はじめに習う波ぬいができれば、だれでも作れる簡単なバッグです。道具はすべて用意してありますので、どうぞお気軽にご参加ください。



日時: 9月28日(土)、29日(日)

第1回: 午前11時 第2回: 午後2時

場所: 国スポセーリング会場 式典テント内

参加費: 無料 持ち物: なし

主催: (公財)日本セーリング連盟 環境委員会

なお、参加人数に限りがあるため、当日は各回先着20名様とし、会場にて事前申し込みを受け付けます。



# SAGA2024国スポセーリング競技会 アンチ・ドーピング講習会のご案内

**場 所：佐賀県ヨットハーバー式典テント内**

**実 施 日：2024年9月27日（木）**

**開催時間：15：20～15：50**

**対 象 者：大会に参加する選手・大会役員・大会関係  
者の方も無料で参加頂けます。**

**主 催： 公益財団法人日本アンチ・ドーピング機構  
（公財）日本セーリング連盟**

**協 力： NPO法人佐賀県ヨット連盟**

SAGA 国民スポーツ大会セーリング競技  
「アスリートの身体と健康についての講演会」のご案内

- 主催 JSAF レディース委員会、医事科学委員会、アスリート委員会
- 目的 セーリング競技に多いスポーツ障害やその予防法、女性アスリートの生理に関する諸問題についてなど、医療的な視点から話を聞き、より良い競技生活とパフォーマンスの向上に繋げるため
- 日時 9月26日(木) 午前講演 11:00～12:00  
午後講演 14:00～15:00



- 講師 川副陽子医師

- プロフィール JSAF 医事科学委員 JSPO スポーツドクター  
江戸川病院勤務 整形外科専門医  
ヨット歴：玄海セーリングジュニアクラブ OG  
インターハイ・国体出場経験あり

- 演題 「セーリング選手のためのスポーツ障害予防とヘルスケア」
- 場所 唐津ヨットハーバークラブハウス 2階会議室(途中入退室可能)
- 対象 国スポ参加のセーリング選手及び監督・コーチ等

○その他

- ・午前・午後ともに講演内容は同じです。
- ・講演に続いて質疑応答の時間を設けています。講演の内容に限らず、質問や相談を受け付けますが、個別の診察はできません。
- ・時間内にすべての質問に回答できない場合もございます。より多くのアスリートの皆様の健康に関する不安を解消するため、事前に下記フォームよりアンケートにご協力をお願いいたします。

<https://forms.gle/KYxXxGx6hvvq26bq6>



# 関係機関等の連絡先(唐津市)

## 〈実行委員会事務局〉

名 称	住 所	電話番号
SAGA2024国スポ・全障スポ 唐津市実行委員会事務局 (唐津市国スポ・全障スポ競技課内)	佐賀県唐津市南城内1-1 大手口センタービル5階	0955-53-7176

## 〈競技会場〉

名 称	住 所	電話番号
佐賀県ヨットハーバー	唐津市ニタ子3丁目1-8	0955-73-7041

## 〈警察・消防など〉

名 称	名 称	電話番号
警察	唐津警察署	0955-72-2101
消防・救急	唐津消防署	0955-72-4146

## 〈公共交通機関のご案内〉

分 類	名 称	住 所	電話番号
鉄道	JR唐津駅	唐津市新興町2935-1	0955-72-5801
	JR西唐津駅	唐津市ニタ子2丁目1	0955-72-3364
タクシー	昭和自動車 株式会社タクシー事業部	唐津市和多田用尺5-2	0120-37-1235 0955-74-1234
	唐津観光タクシー株式会社	唐津市西大島町243-3	0955-72-4141
	からつタクシー株式会社	唐津市和多田大土井9-27	0955-72-4222
	温泉交通株式会社タクシー事業部	唐津市浜玉町浜崎2380-2	0955-70-5555
	有限会社鎮西タクシー	唐津市鎮西町名護屋820-15	0955-82-2121
	株式会社玄海タクシー	東松浦郡玄海町大字新田1805-2	0955-52-2222

## 〈医療救護について〉

名 称	名 称	電話番号
唐津救急医療センター (内科・外科)日祝9:00~21:00	唐津市千代田町2566	(時間内)0955-75-5199 (時間外)0955-75-5193
唐津赤十字病院	唐津市和多田2430	0955-72-5111
済生会唐津病院	唐津市元旗町817	0955-73-3175
藤原外科医院	唐津市朝日町988-1	0955-72-4747

### ※競技会場における医療救護について

- 期間中は、会場内に救護所を設置し、看護師等が応急処置を行い、必要に応じて医療機関への搬送手配を行います。この場合、必ずチーム関係者等の同行をお願いします。  
また、医療機関を受診した場合は、救護所へ診療状況等を連絡してください。
- 会場内に設置する救護所での応急処置は、自己負担がありませんが、医療機関で受診する場合は、自己負担になりますので、「被保険者証」と「お金」を持参してください。  
なお、「被保険者証」を持参されない場合の医療費は、全額自己負担となりますので、ご注意ください。



# 超えて いけ

挑戦者たちは越えようとする。  
記録を。ライバルを。自分自身を。  
過去の常識も。世界の価値観さえも。  
挑戦者たちこそあたらしい未来への原動力だ。  
これまでも、そしてこれからも、  
わたしたちは挑戦する人たちを応援します。  
スポーツの持つ様々な可能性で、  
望む未来へたどり着くために。



**JSPO**

Japan Sport Association

スポーツと、望む未来へ。

わたしたちは、JAPAN GAMES を応援しています。



大塚製薬



三井住友海上

MS&AD INSURANCE GROUP

セレスポ

時事通信

セーリングをもっと楽しく  
**Maximize Fun of Sailing**  
by easy access, open community, high Performance.

私たちは、一人でも多くの方が生涯を通してセーリングを楽しみ、  
その楽しみを最大化できる環境の実現を目指します。



**勝利を超える価値がある**

**私たちは信じる。**

**正々堂々と競いあう潔さを。**

**相手をリスペクトすることで生まれる友情や感動を。**

**まっすぐ挑戦しつづける、そこに、**

**自分や、仲間や、社会さえ変える力があることを。**

**さあ、すべては、私たちの中にある**

**フェアネスの心からはじまる。**

**スポーツのフェアネスが、社会のフェアネスを支えるために。**



公益財団法人 日本アンチ・ドーピング機構

# NO! スポハラ

スポーツ・ハラスメント（暴力、暴言、ハラスメントなど）に、  
みんなが『NO！』と言う社会を目指して

## 『スポハラ（スポーツ・ハラスメント）』とは？

「スポハラ（スポーツ・ハラスメント）」とは、スポーツの現場において、「暴力」、「暴言」、  
「ハラスメント」、「差別」など“安全・安心にスポーツを楽しむことを害する行為”のことです。

指導者と指導を受ける者との関係のみならず、スポーツの現場における関係者の誰によっても、  
また誰に対してであっても、スポハラは起こりえます。





# NO!

# スポハラ

スポーツ・ハラスメント

(暴力・暴言・ハラスメントなど)に、

みんなが『NO!』と言う社会を目指して



## ぼうりょくこういとうそうだんまどぐち

# スポーツにおける暴力行為等相談窓口

相談員



りようかのう  
どなたでもご利用可能!

きがる そうだん  
お気軽にご相談ください

スポーツにおける暴力行為等根絶宣言・  
スポーツ・インテグリティ確保に関する協力覚書>>



# 『スポハラ』根絶に向けた取組み



**JSPPO**  
Japan Sport Association

## グッドコーチとして適切に対応するための動画・ワークブックの公開

### グッドコーチを目指して

グッドコーチなら? /

バッドコーチなら? /



ケーススタディから考える

ケーススタディから考える

グッドコーチング

グッドプレーヤーのさらなる育成をめざして

Workbook

SPORT  
JSPPO OFFICIAL LICENSE

JSPPO グッドコーチ



## スポーツ現場におけるハラスメント防止動画の公開

暴力

差別

セクシュアル  
ハラスメント

パワーハラスメント

暴言

性的マイノリティを取り巻く問題

JSPPO ハラスメント防止



## 「NO！スポハラ」活動に関する各種広報資料・動画の公開

<過去開催した研修会等の動画公開>



<ポスター・ロゴ等広報ツール>



「NO！スポハラ」活動特設サイトにて公開中！

# アスリートの盗撮、 写真・動画の悪用、 悪質なSNS投稿は 卑劣な行為です。

スポーツは、子供から大人まで誰もが楽しめるものです。そのためにも安心してスポーツに取り組める環境を守っていく必要があります。盗撮はもちろん、アスリートの写真・動画を使用した性的目的のSNS投稿やWEB掲載は、アスリート、更には多くのファン、家族、関係者を傷つける絶対に許されない卑劣な行為です。すべてのアスリートが競技に集中し、スポーツを心から楽しめる環境を守るため、スポーツ界全体でこの問題に取り組みます。

- ▶ 大会における盗撮防止事例を共有し、各大会での防止策の取り組みを後押しします。
- ▶ 研修等を通じ、アスリート自身がネットやSNSで身を守る必要性を啓発していきます。
- ▶ SNS投稿やWEB掲載の実態把握に努め、関係機関に共有していきます。

この問題を解決するには皆様のご理解が欠かせません。

これからも安心してスポーツができる環境を守るために、ご理解ご協力をお願いいたします。

## 安全な環境を、すべてのスポーツ愛好者のために。 SAVE ATHLETES, SAVE SPORT.

大会会場で盗撮等が疑われる行為を見かけましたら大会主催者にお知らせください。

アスリートを傷つける性的目的のSNS投稿やWEB掲載を見かけましたら下記サイトよりご連絡ください。今後の対応に活用するとともに、悪質な事例については当局への通報も検討します。

<https://www.joc.or.jp/about/savesport/>



- ▶ 盗撮は迷惑防止条例で犯罪として処罰される可能性があります。
- ▶ SNS等で本人の名誉を傷つける書き込みは犯罪(名誉毀損罪)として処罰される可能性があります。
- ▶ 匿名による投稿であっても、法的手続により、投稿者が特定され、損害賠償請求の対象になる可能性があります。

# SAGA 2024 国ス ポ 会場地

## 全障ス ポ



### 玄海町

- 相撲

### 大町町

- 銃剣道
- ▲ ウォーキング

### 小城市

- バレーボール
- ハンドボール
- ソフトボール
- ◆ バレーボール 精神

### 伊万里市

- 水泳(オープンウォータースイミング)
- ホッケー
- バレーボール(ビーチバレーボール)
- 軟式野球
- ◆ フライングディスク 身体 知的

### 基山町

- 卓球
- パワーリフティング
- ▲ 草スキー
- ◆ 卓球 身体 知的 精神
- ※サウンドテーブルテニスを含む
- 卓球バレー

### 多久市

- 弓道
- スポーツクライミング

### 江北町

- ソフトボール
- ▲ 3B体操

### 有田町

- ウェイトリフティング
- 軟式野球
- ▲ 皿かぶり競走

### 唐津市

- バasketボール
- セーリング
- ソフトテニス
- 軟式野球
- バドミントン
- トライアスロン
- 綱引
- ▲ スケートボード
- ▲ 滝登り
- ▲ ユニカール
- ◆ バasketボール 知的
- ◆ 車いすバスケッボール 身体
- パラサーフィン

### 嬉野市

- レスリング
- 軟式野球
- なぎなた
- 武術太極拳
- ▲ スポーツチャンバラ
- ◆ ボッチャ 身体
- 電動車椅子サッカー

### 鹿島市

- 軟式野球
- アーチェリー
- グラウンド・ゴルフ
- ▲ さわやかグラウンド・ゴルフ
- ▲ バグー
- ◆ アーチェリー 身体

### 太良町

- ソフトボール
- ▲ マリンスポーツ
- ◆ ソフトボール 知的

### 白石町

- ソフトボール
- ▲ ソフトバレーボール
- ◆ グランドソフトボール 身体

### 武雄市

- 自転車(トラックレース)
- 軟式野球
- ゴルフ
- エアロビック
- ▲ スポーツウエルネス吹矢
- ▲ チャレンジ・ザ・ゲーム
- スポーツウエルネス吹矢

### 佐賀市

- 陸上競技
- 水泳(競泳、飛込、水球、アーティスティックスイミング)
- サッカー
- テニス
- ローイング
- バレーボール
- 体操(競技、新体操、トランポリン)
- フェンシング
- 柔道
- ライフル射撃(25m)
- ラグビーフットボール
- カヌー(スプリント)
- クレー射撃
- ボウリング
- ▼ 高等学校野球(硬式)
- バウンドテニス
- ▲ 合気道
- ▲ スカットボール
- ▲ パークゴルフ
- ▲ ビリヤード
- ▲ ラダーゲッター
- ▲ ロープ・ジャンプ・X
- ◆ 陸上競技 身体 知的
- ◆ 水泳 身体 知的
- ◆ ボウリング 知的
- ◆ バレーボール 身体
- ウォーキングフットボール
- ソーシャルフットボール

### みやき町

- バレーボール
- ソフトボール

### 神埼市

- ハンドボール
- 剣道
- ▲ いごてだま
- ▲ フライングディスク
- ブラインドテニス

### 上峰町

- ソフトボール
- ▲ クップ
- ▲ シャッフルボード
- ◆ フットソフトボール 知的
- ふうせんバレーボール

### 吉野ヶ里町

- バレーボール
- ハンドボール
- ▲ アジャタ

### 鳥栖市

- サッカー
- バレーボール
- 空手道
- ▼ 高等学校野球(軟式)
- ゲートボール
- ▲ 室内ベタンク
- ▲ スポGOMI
- ▲ ラージボール卓球
- ◆ バレーボール 知的
- ◆ サッカー 知的



- 国スボ 正式競技
- ▲ 国スボ デモンストレーションスポーツ
- ▼ 国スボ 特別競技
- ◆ 全障スボ 正式競技
- 国スボ 公開競技
- 全障スボ オープン競技

### 県外開催

- 自転車…… 大分県日田市 (ロードレース)
- ライフル射撃…… 大分県由布市 (50m、10m、ビームライフル、ビームピストル)
- 馬術…… 兵庫県三木市
- カヌー(スラローム、ワイルドウォーター)…… 鹿児島県湧水町

## 競技記録結果・動画配信に関する案内

### ○国スポの観覧・観戦に関するお問い合わせ

SAGA2024 実行委員会の大会お問い合わせ窓口情報

コールセンター：0120-95-6439（平日 9：00～18：00）

### ○動画配信（国スポチャンネル）

<https://japangamestv.japan-sports.or.jp/>



（国スポチャンネル）

### ○競技結果について（案内期間 令和6年8月26日(月)～12月13(金)）

PC・スマートフォン

<https://kirokukensaku.net/5NS24/index.html>

フューチャーホン（ガラケー）

<http://kirokukensaku.net/5NS24/mob/index.html>



（PC・スマホ）



（フューチャーホン）

### ○【SAGA2024 国スポ唐津市 SNS 関係はこちらから】



SAGA2024  
KARATSU



X



Instagram



Facebook

SAGA2024 国スポ・全障スポ 唐津市実行委員会

佐賀県唐津市南城内 1 番地 1 大手ロセンタービル5階

[TEL:0955-53-7176](tel:0955-53-7176) FAX：0955-75-2289

## 2025 年は滋賀県開催！！

来年は滋賀県大津市で お会いし  
ましょう！！



大津市マスコットキャラクター  
おおつ光ルくん

- ・この事業は、全国の皆様から贈られた「ふるさと寄付金」を活用して実施しています。